

緑化に関する調査報告

(その52)

令和7年3月

東京都建設局

目 次

I. 技術調査・計画編

1. 多様な生物が生息する都立公園づくりにおける10年間の取組について

東京都西部公園緑地事務所 工事課緑化推進担当 進野裕規
狭山丘陵パートナーズ自然環境保全部 ((特非) NPO birth) 山下洋平
狭山丘陵パートナーズ維持管理部 (西部造園(株)) 大房直登
(公財) 東京都公園協会 公園事業部技術管理課受託事業
担当係長 野口真麿子

2. 善福寺公園生物多様性保全利用計画(案)について

東京都東部公園緑地事務所 事業推進課緑化推進担当
熊谷拓朗

3. 都市部の公園・東部グループの公園における生物多様性の保全の取組

アメニス東部地区グループ
生物多様性推進責任者 兼 利用促進担当 (綾瀬エリア) 齋藤桃子

Ⅱ．管理運営編

1．令和5年度・6年度（2023年度・2024年度）

神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
田中利彦

2．令和6年度（2024年度） 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館 アメニス夢の島グループ
統括責任者 遠藤岳生

3．ツリーバンク事業について

公園緑地部計画課緑化推進担当

4．ニューヨーク市及び米国への桜の寄贈について

建設局公園緑地部計画課緑化推進担当 統括課長代理 野口昌一

Ⅲ．資料編（グリーン・ファイル）

1．東京都の道路緑化状況

東京都建設局 公園緑地部計画課道路緑化計画担当

2．令和5年度 都立公園等植栽本数一覧表

3．過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種

4．委託調査一覧（令和5年度）

5．令和6年度 花の見ごろ情報について

6．都立公園における都民協働団体一覧

7．バックナンバー目次（その1～その51）

I . 技術調査・計画編

多様な生物が生息する都立公園づくりにおける 10 年間の取組について

西部公園緑地事務所工事課緑化推進担当

進野 裕規

狭山丘陵パートナーズ自然環境保全部（（特非）NPO birth）

山下 洋平

狭山丘陵パートナーズ維持管理部（西部造園（株））

大房 直登

（公財）東京都公園協会公園事業部技術管理課受託事業 担当係長

野口 真磨子

Ⅰ. 多様な生物が生息する都立公園づくりについて

東京都では、生物多様性の保全に向けた基本戦略として「緑施策の新展開（平成24年（2012年）5月）」を策定した。さらに、生物多様性保全に向けた環境整備と裾野の拡大を目指す取組として「多様な生物が生息する都立公園づくり」（以下、多様性事業とする。）を東京都の総合計画である「東京都長期ビジョン」に位置付け、その後も継続して事業を実施している。多様性事業では、生物多様性のポテンシャルが高くエコロジカルネットワークの中核・拠点となる31公園（表1）を選定

区分	立地	環境整備対象公園	区分	立地	環境整備対象公園
多摩部 西部公園 緑地事務 所	丘陵地	小山田緑地	東部公園 緑地事務 所	台地	石神井公園
		東大和公園			代々木公園
		長沼公園			和田堀公園
		八国山緑地			赤塚公園
		平山城址公園			葛公園
		狭山公園			光が丘公園
		小宮公園			林試の森公園
		野山北・六通山公園			大泉中央公園
		桜ヶ丘公園			善福寺公園
		滝山公園			水元公園
	台地	小山内裏公園		低地	葛西臨海公園
		東村山中央公園			浮間公園
		野川公園			横江恩賜公園
		武蔵野公園			舎人公園
		井の頭恩賜公園			
		小金井公園			
		浅間山公園			
小計	17	小計	14		

表 1 環境整備対象公園

し、多様な生物の生息空間として園内の一部で環境整備を実施し、生物のモニタリングを継続しながら保全作業を行っている。具体的な事業スキームは下記のとおりとなっている。

- ステップ1：対象公園の動植物の生息状況調査を行う。調査結果を踏まえて、学識経験者や園内の活動団体、地元市等で構成する意見交換会を実施し、生物多様性を向上させるための整備・モニタリング・順応的管理・普及啓発の方法を検討し、「生物多様性保全利用計画」（以下、保全利用計画とする。）を策定する。
- ステップ2：保全利用計画に基づき具体的な整備内容を検討し、設計図を作成する。
- ステップ3：設計図に基づき、整備工事を行う。

ステップ4：整備箇所において、整備効果を把握するため、動植物の生息状況調査（モニタリング調査）を行うとともに、モニタリング結果に応じた順応的管理（草刈り、除草、除伐等）、生き物観察会等の普及啓発を行う。（以下、モニタリング事業とする。）

事業期間はステップ1～3までが約3年間、ステップ4が約7年間、合計10年間で一区切りとなっている。ステップ4の作業は対象公園の指定管理者が実施し、ステップ4の期間が終了した後も、公園の管理業務の一環として、モニタリング調査と順応的管理を継続している。

西部公園緑地事務所が所管する多摩部では、平成26年度（2014年度）と平成27年度（2015年度）に事業を開始した小山田緑地、東大和公園、長沼公園、八国山緑地において、事業の一区切りとなる10年間の経過したため、これら4公園のこれまでの成果について報告する。東大和公園、八国山緑地は狭山丘陵パートナーズ、小山田緑地、長沼公園は（公財）東京都公園協会がモニタリング調査を実施しており、指定管理者ごとに10年間の取組の結果を以下に述べる。

Ⅱ．八国山緑地と東大和公園について

1．対象地の概要

八国山緑地と東大和公園が位置する狭山丘陵は、東京都北西部及び埼玉県南西部にまたがる武蔵野台地のほぼ中央に位置し、東西約11km、南北約4kmにわたって紡錘形に広がる独立した丘陵地である。東京都の水瓶として造られた多摩湖および狭山湖の水源林を中心に、野山北・六道山公園や狭山公園をはじめとする大規模な都立公園もあり、市街地の中心に浮かぶ「緑の島」のように残された首都圏を代表する重要な自然環境となっている（図1）。



図1 狭山丘陵の都立公園グループ

平成24年度には、環境省により「狭山丘陵全体」という名称で都県境を越えた一体で生物多様性保全上重要な里地里山に選定されている場所である。

2. 狭山丘陵パートナーズの役割

狭山丘陵グループの指定管理者である狭山丘陵パートナーズは、平成18年度（2006年度）の指定管理開始以来、生物多様性の保全を重要な課題と位置づけ、さまざまな取組を実施してきた。しかし、公園内の樹林環境や湿地の保全・再生には、大規模な環境整備や継続的な維持管理が求められ、指定管理業務のみでは対応しきれない課題も多かった。そこで本事業を活用し、より踏み込んだ整備によって、生物多様性の向上に取り組んでいる。

また、各公園では、都立公園に指定される以前から、市民団体によって生物調査や保全活動が継続されてきた経緯がある。そのため、本事業の計画策定段階から市民団体と協議を重ね、目的や意義を共有することが不可欠であった。しかし、市民団体ごとに活動方針や優先課題が異なるため、方向性をひとつにまとめることは容易ではなかった。

指定管理者は中間支援の立場として、東京都と市民団体・地域住民の橋渡し役を担い、現場見学会や個別ヒアリングを通じて意見調整と合意形成を進めた。この過程では意見の対立が生じることもあったが、日常的に市民団体とコミュニケーションを重ね、信頼関係を築いてきたことが、事業の円滑な推進につながった。

Ⅲ. 八国山緑地における10年間の成果

1. 公園の概要と生物多様性保全上の課題

八国山緑地は、狭山丘陵の東端に位置する公園である。園内全体がコナラやクヌギを主体とした雑木林に覆われ、豊かな自然環境が広がっている。また、江戸時代の地形や道筋が残存しており、当時の景観を現在に伝えている。

一方で、近年は生物多様性の観点からいくつかの課題が見られる。ひとつは、雑木林の更新管理が進まず高木化・大径木化が進行し、林床が暗くなったことで、明るい環境を好む植物や昆虫の減少が見られる点である。また、公園内にある水辺が長年管理されておらず、泥が堆積して水深が浅くなり、本来の水辺環境が失われつつあることも課題のひとつである。

こうした状況を踏まえ、本事業では雑木林の更新と水辺環境の再生を目的とした整備が実施された（図2）。



図2 八国山緑地整備エリア

2. 整備内容と成果

(1) 萌芽更新による雑木林の若返り

①整備内容

八国山緑地における主な整備内容は樹林地の管理であり、対象面積は9つのエリア、合計 68,400 m²と広範囲に及ぶ。萌芽更新を目的とした皆伐や、択伐が実施された。本項では、特に成果の大きかった萌芽更新の取組について記載する。

②成果

整備前は林床に十分な日光が届かず、キンラン、クチナシグサ、オケラなどの明るい環境を好む指標植物の生育はわずかであった。しかし、平成28年度(2016年度)(整備1年目)に実施された皆伐により光環境が改善されたことで、これらの確認数が大幅に増加した。平成30～31年(2018～2019年)(整備2～3年目)には、若いコナラが増加し、それに伴いコナラを利用するウラナミアカシジミの個体数も増加した(写真1、図3)。加えて、センブリやリンドウなどの草本植物も確認されるようになり、林床植生の多様性が向上した。

しかし、令和6年(2024年)(整備8年目)では、萌芽したコナラが樹高6mほど



写真1 ウラナミアカシジミ

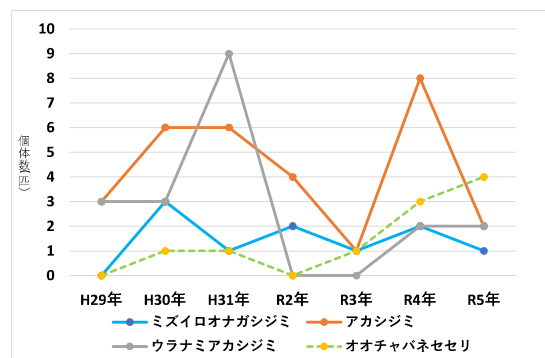


図3 チョウ類の個体数推移

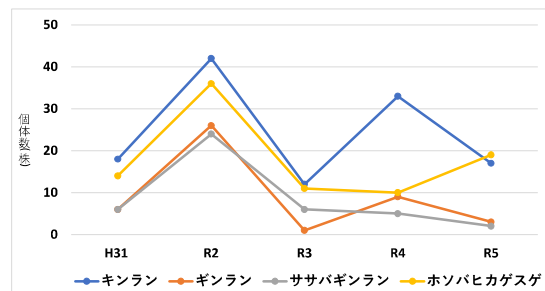


図4 樹林性希少植物の個体数推移

に生長し、林床への日照が再び不足しつつある。その影響で、明るい環境を好む草本植物の生育が減少し、耐陰性のあるササ類の優占度が高まった。これに伴い、ササを食草とするオオチャバネセセリの確認数も増加している。

また、一部のエリアでは、アカメガシワやクサギなどの先駆性樹種が優勢となるとともに、林床ではヨウシュヤマゴボウ、ダンドボロギク、アメリカオニアザミなどの外来種が繁茂しており、萌芽更新が十分に機能しなかった場所も見られる。

③指定管理事業による補完

隣接する東村山市北山小学校の総合学習（対象：5、6年生）の時間を活用し、令和2年（2020年）～令和6年度にかけて、協働による中央高圧線下（図2参照）のササ刈りを継続している。これにより、キンランやギンランなどの樹林性の希少植物が継続的に確認されている（図4）。

④今後の課題

本事業により、適切な樹林管理が多様な生物の生息環境の向上に寄与することが、改めて確認された。平成28年度に策定された八国山緑地生物多様性保全利用計画では、萌芽更新エリアについて、7～15年の周期で4区画に分けて伐採を行う管理方針が示されている。すでに整備から8年が経過し、萌芽枝が密接して生育していることから、今後は計画に基づく伐採（間引き）を進め、樹齢の異なる樹林を維持する必要がある。

また、萌芽枝の整理や外来種の駆除については、隣接する小学校やボランティア、市民団体と協働で進めることで、地域と自然をつなぐきっかけとする予定である。

（2）水辺環境の再生

①整備

ふたつ池（下池）は、かつて農業用のため池として利用されていたが、池底に泥と落葉が深く堆積したことにより、水深がごく浅くなり、湛水容量はほとんど無い状態となっていた（写真2）。そこで、本事業では、「木陰の水場で繁殖するトンボ類の生息環境の創出」を目標に、水草が繁茂するため池を再生させるため、土砂の浚渫と択伐が実施された。

②成果

整備により、一年を通じて十分な湛水量が維持されるようになり、早春期にはアズマヒキガエルの産卵が確認されるようになった。また、トンボ類の飛来や産卵行動が観察されるなど、ある程度の生物多様性の向上が確認



写真2 下池の様子（整備前）



写真3 下池の様子（令和6年度）

された。

一方で、本事業ではすり鉢状に浚渫を行ったため、水中と陸地を緩やかにつなぐエコトーンが形成されなかった。また、択伐だけでは十分な日照が確保されなかったこともあり、湿性植物の定着は確認されなかった（写真3）。

③指定管理事業による補完

課題を受け、指定管理業務の中で樹木の追加伐採を行うとともに、水際に植生帯を創出するための浅場を設置した。その結果、カンガレイ、ガマ、アゼナなどの湿地性植物が復活し、八国山緑地では初確認となるミズカマキリをはじめ、トウキョウダルマガエルやゲンゴロウ類などの生息が確認され、生物多様性の向上が顕著に表れた。

④今後の課題

整備後のモニタリングの中で、特定外来生物であるウシガエルやアメリカザリガニの繁殖が継続確認されている。特に後者の影響は大きく、一時は、発芽した水生植物が食害されてほとんど消失してしまう状況であった。そのため、指定管理事業の中で罠を用いた継続的な捕獲を実施し、個体数を低密度に抑えるよう努めている（図5）。

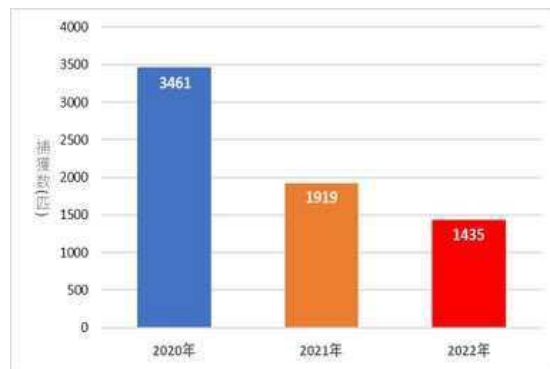


図5 アメリカザリガニの捕獲数推移

他にもグッピー、メダカ、ホテイアオイなどの外来種の放流が確認されており、放流禁止の看板設置やイベント時の解説を通じた普及啓発の強化を予定している。

今後は、さらに浅場の拡張を継続的に行い、多様な水生生物が生息できる環境の保全、維持を目指していく。

IV. 東大和公園における10年間の成果

1. 公園の概要と生物多様性保全上の課題

東大和公園は、昭和40年代後半に団地開発が計画された際、多くの市民が東大和市と連携し、この里山の自然を守るため東京都に働きかけたことにより、都立初の丘陵地公園として開園した。それ以来、市民の思いを次世代に継承する「雑木林博物館」として、里山の自然と文化の保全に貢献してきたが、近年、公園内の生態系にはいくつかの課題が生じている。

東大和公園の特徴であるアカマツ林は、松枯れ病の影響や周辺樹木の生長により光環境が悪化し、一部の実生が枯死していた。また、かつて薪炭林として管理されていた雑木林は更新が進まず、大径木化や常緑樹の増加によって林床が暗くなり、伐採と萌芽更新により維持された明るい雑木林の特徴が失われつつあった。さらに、草地環境の減少により、草地を利用する生物の生息環境も縮小していた。

こうした課題を解決するため、本事業では、雑木林の適切な更新管理やアカマツ林の保全に加え、災害対策と連動した新たな草地環境の創出を目的とした整備が実施された(図6)。



図6 東大和公園整備エリア

2. 整備内容と成果

(1) 樹林整備と草地整備の取組

①整備内容

東大和公園における主要な整備内容は樹林地整備である。萌芽更新を促進するための皆伐が実施され、その対象面積は6つのエリアで46,000㎡に及ぶ。多様な樹林環境を維持することを目的に、萌芽更新や高木の残る樹林の維持など、エリアごとの目標に沿った計画的な整備が行われた(写真4)。

②成果

本事業による整備の結果、リンドウやセンブリなど、明るい樹林を好む植物が多数確認されるようになった。萌芽更新ゾーンではコナラを中心とする樹種が萌芽し、若い雑木林の形成が進行している(写真5)。

宅地や道路に隣接する周縁部では、樹林環境ではなく草地環境として維持管理を行い、年2回の草刈りを実施。その結果、草地と萌芽した低木が混在する環境が形成され、整備前にはほとんど確認されなかったホオジロやモズの生息が確認されている。

落葉広葉樹ゾーンでは、光環境の調整を目的に、コナラの高木を一部残しながら択伐を実



写真4 皆伐エリア(平成30年度)



写真5 皆伐エリア(令和4年度)

施した。その結果、ニリンソウ、キツネノカミソリ、ウバユリなど、半日陰を好む植物の安定した生育が確認されている。

③指定管理事業による補完

平成 30 年度からは、公園ボランティアによる活動として、「森の遊び場」で年 10 回のササ刈りや落ち葉かきを実施し、アカマツの実生やリンドウの生息環境の改善に取り組んだ。また、小学校の奉仕体験の受け入れや、パークレンジャーによるガイドウォークを通じて、里山の自然を生かした体験の場を提供し、あわせて本事業の成果を伝える普及啓発にも貢献している。

④今後の課題

本事業により、それぞれのエリアで生物多様性の向上がみられ、一定の成果があったと言える。一方で、新たな問題として近年全国的に問題となっているナラ枯れ被害が本園でも発生している。被害地では日当たりが強くなり、風も通るようになるため土壌が乾燥し、湿った環境を好むウバユリ等の生息環境が悪化する可能性がある。

ナラ枯れ被害が拡大する中、被害地の再生には複数の選択肢が考えられる。今後の樹林管理では、エリアの特性を踏まえ、主に以下の 4 つの方向性のいずれかを選択しながら、新たな森づくりを進めていく予定である。

方向性 1：実生の育成 + 植樹による雑木林の再生

ナラ枯れ被害木は萌芽しないため、コナラなどの実生を育て、被害地に植樹を行うことで、本来の雑木林の景観や生態系を再生する（写真 6）。

方向性 2：常緑樹を中心とした森林への転換

雑木林管理のための植生管理はとりやめ、常緑樹が優占する暗い森林へと移行させる。そのために必要な管理は行う（写真 7）。

方向性 3：コナラなどのブナ科に頼らない雑木林の形成

エノキやエゴノキ、アオハダなど多様な広葉樹を主体とし、コナラに依存しない明るい雑木林を育成する（写真 8）。

方向性 4：草地環境への転換

ススキやチガヤなどのイネ科植物を主体とする明るい草地環境に転換し、草地を利用する鳥類や昆虫の生息地を確保する（写真 9）。



写真 6 実生の様子



写真 7 常緑樹の森林



写真 8 雑木林のイメージ



写真 9 草地環境のイメージ

(2) アカマツ保全の取組

①整備内容

当公園のアカマツ林は、ハルゼミの生息環境として重要であり、松枯れが進んだ狭山丘陵内においては希少な環境が維持されていた。しかし、公園全体で植生遷移が進む中、林内は次第に暗くなり、アカマツの実生が育たなくなった。

こうした背景を踏まえ、本事業では、アカマツの保全およびハルゼミの生息環境の維持を目的に、平成 29 年度（2017 年度）にアカマツがまとまって生育する尾根周辺の下草刈りを実施した。これにより、既存の幼樹の成長が促され、アカマツ林再生に向けた環境が整いつつある。

②成果

下草刈りにより下草の繁茂は抑えられているものの、林床の光環境は依然として不十分であり、整備後の稚樹調査では新たな実生は確認されなかった。そのため、日照確保に向けた対応が求められた。

③指定管理事業による補完

課題を受け、平成 31 年度には指定管理業務の中で、周囲の高木伐採や下草刈り、地掻きを実施し、日照確保に取り組んだ（写真 10）。

その結果、新たな実生（30 cm以下）が大幅に増加し、200 cmを超える幼樹も 30 本以上確認され、アカマツ林の再生が順調に進んでいることが示された（図 7）。

また、整備区域ではオケラやオオバノトンボソウなど、絶滅危惧種の生育も確認された。



写真 10 伐採後の様子(令和 2 年度)

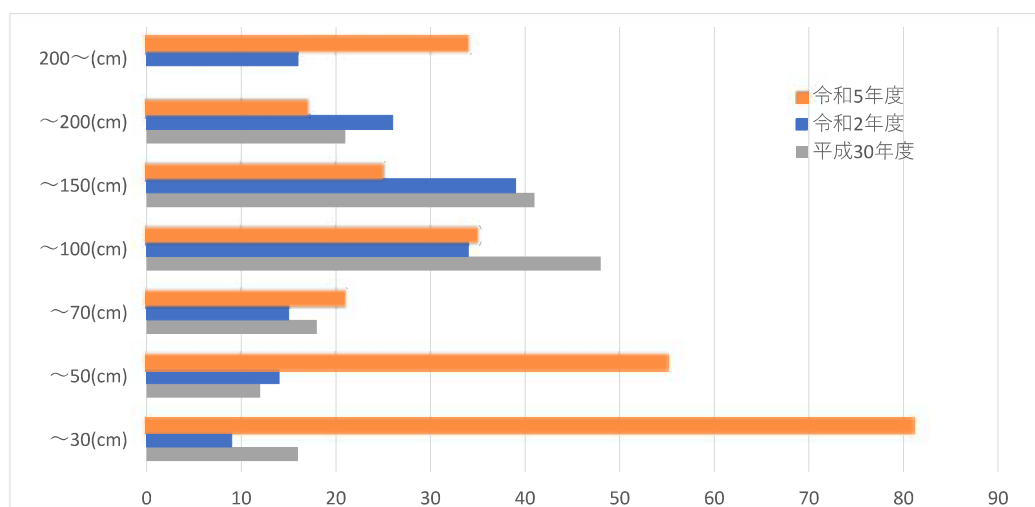


図 7 アカマツの樹高分布

加えて、平成 26 年度から継続しているハルゼミの生息調査においても、鳴き声や抜け殻の確認が続いており、生育環境が安定して維持されていることがわかる。

④今後の課題

本事業により、アカマツ保全およびハルゼミ生息環境の維持は一定の成果を上げているが、整備開始から 8 年が経過した現状では、6 年生のアカマツ幼樹が約 3m に生長し、隣接する横枝が接触するほどに密集して生育している箇所が確認されている。これを放置すると、樹木同士が互いに圧迫し合い、枯死する恐れがあるため、明るい光環境を維持するための適度な間伐が必要と考えている。

V. 八国山緑地と東大和公園の今後の展望

1. 維持管理を見据えた整備方法の提案

本事業により、2 公園において樹林整備や湿地整備が進み、林床への日照改善や指標植物の増加、水生生物の回復など、生物多様性の向上が明確に表れている。しかし、広範囲での萌芽更新や大規模な整備を一度に行うと、維持管理が追いつかず、様々な課題も経験した。具体的にはツル植物が繁茂して立ち入れなくなる、外来生物が増加する、草刈りが間に合わず希少種が下草に埋もれて枯死する、繁茂した草で希少種が視認しにくくなり誤って刈られてしまうなどである。

こうした課題を踏まえると、整備は 1 年で完結させるのではなく、小規模な伐採を隔年で実施し、異なる環境ステージを段階的に創出するように計画するとよいのではないだろうか。これにより、整備地に維持管理の手が行き届き、多様な生物の生息環境を確保することが期待できる。

2. 本事業の価値と得られた学び

都立公園という身近なフィールドにおいて、純粹に生物多様性の向上を目的として必要な予算を確保し、整備を実現させた本事業は極めて先進的で、高く評価されるべきである。自然環境の保全がこれほど実践的に、そして大胆に行われたことは、都立公園の新たな価値と役割を示す重要な取組であった。

本事業を通じて、指定管理者である私たちにとって大きな学びがあった。保全手法や市民との協働、調整の進め方については、これまでも日常の指定管理業務の中で実践してきたが、大規模な環境整備を伴う本事業では、より複数主体との合意形成や現場判断の難しさを実感するとともに、整備後の変化を踏まえた柔軟な対応の重要性など、これまでとは異なるスケールと視点での経験を積むことができた。これらの経験は、今後この事業の展開が予定されている他の管理公園においても有益な指針となるだけでなく、通常の指定管理業務の中でも活かすことができると考えている。

都立公園は、自然を守る場であると同時に、人々がくつろぎ、遊び、学ぶことのできる大切な憩いの空間である。多くの人が自然に触れ、命のつながりや多様性の豊かさに気付くこ

とで、身近な自然への関心や行動が育まれていく。この10年で積み上げてきた成果は、そうした人と自然の関わりを支える公園づくりにおいて、確かな土台となった。これからも、人と里山が心地よく関われる“遊び場”としての都立公園の役割を確かなものとしていきたい。

VI. 小山田緑地における10年間の成果

1. 事業対象地の概要と整備工事

(1) 小山田緑地における保全・活用目標について

小山田緑地では、本公園を取り巻く流域に着目した7つのエリア分けを行い、小山田緑地全体を小流域（水が流れる谷筋と尾根筋で区分する水循環の単位地形）で区分し、基礎情報を整理した上で、小流域ごとの整備・管理計画が整理された。「保全・活用目標」としては、「オオムラサキの舞う雑木林と水辺が織りなす谷戸山の再生」とし、①健全な水循環の回復と水辺環境の保全、②様々な二次的自然の維持、③生きものの生育・生息・繁殖環境の保全、④多様な主体による持続可能な管理を目指した緑地の整備、として取組を進めることとなった。

(2) 事業対象地における整備工事

「保全利用・活用計画」に基づき、小山田緑地では、9箇所を対象に事業を進めることとなり、整備工事は、平成28年度に実施された(図8)。No.6の東口駐車場前では、大径木化した常緑樹による樹林環境の単調化を改善すべく、斜面林の全面伐採が行われ、萌芽更新による多様な樹林環境の形成が図られた。またオオムラサキの生息環境を創出することを目的として、エノキの根元に桝を設置する工事が行われた(写真11、12)。梅木窪分園では、堂谷戸川周辺の池・支川・派川の流水の確保や水量のコントロールによる湿地環境の保全を図るため、既存水路の護岸改修、素掘水路の整備が行われる等、目標環境の実現に向けた整備工事が行われた(写真13、14)。

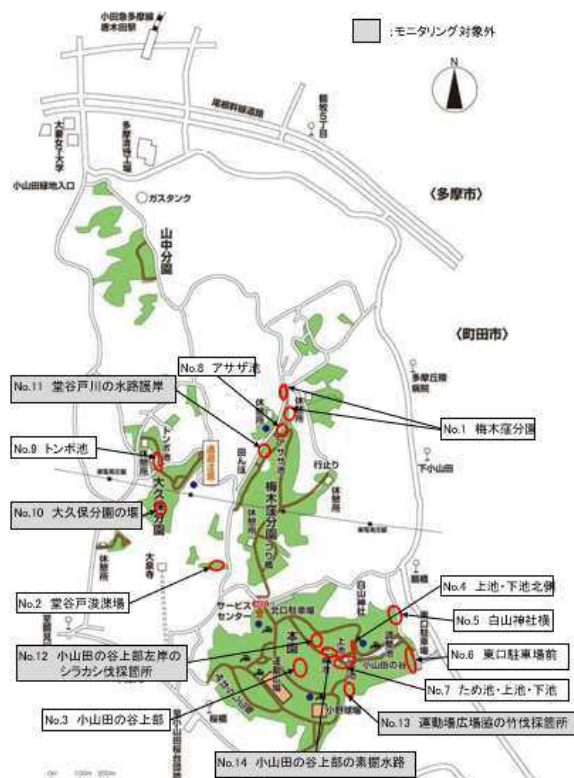


図8 小山田緑地の事業対象位置図



写真 11, 12 整備前(左)、整備後(右)



写真 13, 14 整備前(左)、整備後(右)

2. 整備後のモニタリング調査と維持管理作業

整備工事終了後、平成 29 年度から令和 5 年度（2023 年度）までの 7 年間をかけて整備後の環境変化を把握するためのモニタリング調査と維持管理作業が行われた。ここでは特に成果の見られた 2 箇所について報告する。

（１）樹林地更新エリアでの環境変化（No. 6 東口駐車場）

樹林地更新エリアでは、保全管理計画策定時には、萌芽更新を目指していたが、モニタリングを行ったところ、一部の伐採木からは萌芽が確認できたものの、全体数としては少ない状況であった。そのため、実生からの再生も試みるため、年 3 回の林床の草刈の前に実生木をマーキングし、誤伐を避けながら、実生の育成に取組んだ。その結果、6 年が経過した令和 4 年度（2022 年度）の毎木調査では、樹高が 5～7m に達した樹木が 500 本程度まで増加した。そこで、最終年度の令和 5 年秋～冬にかけて、適正な林床環境を維持できるよう、間伐作業を実施した(写真 15, 16)。樹林地更新を行った林床では、重要種であるキンラン、タマノカンアオイの生育数が増加する結果となった。また樹林環境に生息するアカシジミが確認される等、多様な環境が創出された(写真 17～19)。



写真 15, 16 間伐前(左)、間伐後(右)



写真 17, 18, 19 タマノカンアオイ(左)、キンラン(中)、アカシジミ(右)

（２）湿地環境の再生（ヤナギ谷・梅木窪）

小山田緑地分園にあるヤナギ谷では、「ヤナギ谷の湿地環境とアカシジミ等のすむコナラ・クヌギ等を主とした良好な樹林環境の維持」という目標像の下、事業が始まった。その

後、令和3年(2021年)までの調査結果から目標像の見直しを行い、「湿生植物やカエル類、ゲンジボタル、昆虫類、鳥類などが観察できる場として木道を活用するため、水路・湿地・ヨシ原・ヤナギ林といった多様な水辺環境を維持する。」という、より調査結果を踏まえた具体的な目標像に変更した。その後も継続して調査と維持管理作業を行い、ネコノメソウの群落を確認されるとともに、ヨシ原ではカヤネズミの古巣が見つかる等、多様な環境が創出されたことで、様々な動植物が生育・生息できる環境が創出された(図9)。



図9 希少植物の個体数推移

Ⅶ. 長沼公園における10年間の成果

1. 事業対象地の概要と整備工事

(1) 長沼公園における保全・活用目標について

長沼公園では、公園における保全利用目標として「多摩丘陵の自然の核として、生物の多様性保全し、自然とふれあう場を提供する」とし、サブテーマとして「暗い樹林や明るい樹林、林縁・草地、水辺にかけて連なる多様な環境とそれらに依存する多くの動植物を保全し、それらの多様性を低下させないように観察や管理活動体験等の場の拠点として利用者に提供していく」など4つが掲げられ、整備工事や工事後のモニタリング調査、維持管理作業に取り組むこととなった。

(2) 事業対象地における整備工事

前述の保全利用目標に基づき、長沼公園では、平成28年度に実施設計ならびに整備工事が計11か所で行われた。整備工事としては、これまでアズマネザサに覆われ、かつ外来種のハリエンジュ等が優占していた草地環境を「草地に依存する種を保全・回復するエリアとして位置づけ、現状の低茎から中茎の草地を維持するとともに広場周辺部は高さ



写真 20, 21 整備前(左)、整備後(右)

1. 5m程度の高茎の草地環境の創出」
と位置づけ、ネザサ類の刈り取りが
全面的に実施された(写真20, 21)。
また、同じくアズマネザサなどに覆
われていた谷戸の伐採等を行い、少
し明るい水辺の環境創出のための整
備工事が行われた(写真22, 23)。



写真 22, 23 整備前(左)、整備後(右)

2. 整備後のモニタリング調査と維持管理作業

長沼公園では、園内 11 か
所で整備工事が実施され
たが、そのうち、整備工事
後も継続して維持管理作
業の実施が必要と考えら
れる 6 か所について、平成
29 年度から 7 年間のモニ
タリング調査と維持管理
作業を実施してきたこと
で、多様な動植物の生育・
生息環境を創出すること
につながった(図 10)。



図 10 長沼公園の事業対象位置図

(1) 多様な野草が生育できる明るい林床の落葉広葉樹林地での変化(展望台東側)

展望台東側では、当初の目標環境では、「低茎・中茎草地」として掲げられていたが、整備工事後、コナラ実生やゴンズイ、ムラサキシキブ等の落葉低木、明るい林縁に生育するヤマユリ等が多く生育する環境であることがわかったため、目標環境を見直し、「多様な野草が生育できる明るい林床の落葉広葉樹林」とし、現状のモニタリング調査や維持管理作業を行ってきた。維持管理作業では、秋までの間に毎月対象地を巡見し、重要種などが確認された場合は、それらが他の植物の被圧等を受けないよう、つぼ刈りを実施するとともに、冬場に翌年の植物の芽だしが良くなるよう、林床の全面刈りを行うなどして、明るい林床の動植物を保全する取組を続けてきた。また、維持管理作業に際し、除伐を防ぐためにマーキングを行うことで確認された植物の保全にも取り組んだ。すると、確認される植物は整備後に増

加し、最終年度まで30種以上が安定して確認できる環境を創出することができた(図11)。またこの対象地は、対象地の中心を園路が通っており、これら増加した植物を来園者が身近で観察できるようになり、自然と触れ合う場の提供にもつなげることができた(写真24)。

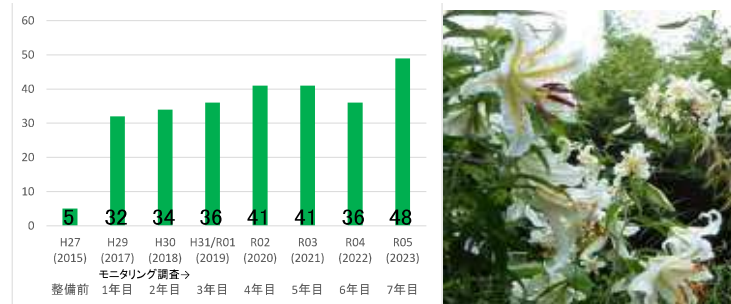


図11, 写真24 展望台東側の評価対象植物の増減(左)、ヤマユリ(右)

(2) 草地環境での維持管理作業の効果(殿ヶ谷の道)

整備工事前にはアズマネザサが人の背丈を超える高さで生育し、ハリエンジュ等外来樹木により構成されていた殿ヶ谷の道では、保全利用計画の中では、「高茎草地」とされていたが、整備工事後、外来草本類が増えるなどしたため、これら外来種の草地ではなく、在来種が優占する草地とするため、目標像を「在来種が優占する草地」とし、年2回の全面刈りを行うとともに、他の対象地と同様、秋までの間に毎月1回の巡見を行い、外来種の選択的除草などを継続して行ってきた。全面刈りは、当初、夏と冬に実施していたが、モニタリングの中でアレチウリなどが多く確認されるようになったため、アレチウリの結実前である秋と冬に実施するなど、モニタリング結果をもとに維持管理作業の時期を調整した。そうしたことによって令和4年度以降は外来種であるオオブタクサの生育が抑えられ、在来種のアキノエノコログサやカントウタンポポが多くみられる草地環境へと転換することができた(写真25, 26)。また、これらに飛来するチョウやバッタなども確認されるようになり、多様な生物が暮らす草地環境の創出につなげることができた。



写真25, 26 平成29年度と令和5年度の草地の様子

Ⅷ. 小山田緑地と長沼公園の今後の展望

小山田緑地、長沼公園のいずれも、これまで手探りだった維持管理作業をモニタリングにより評価することで、適切な作業につなげることができた。このことが、在来種の増加に寄与したと考えている。今後もボランティア団体などと協力し、創出された環境を引き続き保全できればと考えている。

参考文献

- 1) 八国山緑地生物多様性保全利用計画（平成 28 年 8 月）
- 2) 東大和公園生物多様性保全利用計画（平成 27 年 6 月）
- 3) 小山田緑地生物多様性保全管理計画（平成 27 年 11 月）
- 4) 長沼公園生物多様性保全利用計画（平成 28 年 8 月）

善福寺公園生物多様性保全利用計画（案）について

東京都建設局東部公園緑地事務所緑化推進担当 課長代理
熊谷拓朗

I. 概要

東京都建設局東部公園緑地事務所では令和5年度末から6年度末にかけ、多様な生物が生息する都立公園づくり事業（以下、多様性事業という。）の一環として善福寺公園生物多様性保全利用計画（案）（以下、本計画という。）を策定した。本計画策定業務は、生物調査、資料収集、会議運営などを（株）総合環境計画に業務委託した（契約額528万円 契約期間令和6年3月15日～令和7年3月21日 5東公庶契第459号）。本稿では、本計画の全体目標及び策定にあたっての考え方を示すとともに、多様性事業を改善するための提案を行う。

II. 全体目標

長期的な目標として、「トンボが飛びカイツブリが繁殖し、ムサシトミヨも泳げる武蔵野湧水池とそれを取りまく生態系の復活」を掲げた。これは善福寺公園においては公園の中心である池こそが本公園の自然環境の核であること、また池にかつて存在した生態系を復活させることが即ち善福寺公園の自然環境の再生につながるという思いを、生物種を用いて表現したものである。

また短期的目標として10年後までに公園で確認できる在来動植物種数を策定時から5%～10%程度（25種～50種程度）増加させること、および区内で出現率の低い動植物種が継続してみられることとした。

III. 計画策定にあたっての考え方

計画策定にあたっては自然環境へのアプローチの方法を3種類に分類するとともに、それらを大、中、小3つのスケールに分けて検討した。

1. アプローチの方法

（1）よくないものを抑制する

善福寺公園の自然環境にとって課題と考えられるものを既往文献調査や現地調査、ヒアリングにより抽出した。善福寺公園においては植栽や鳥の糞に含まれる種子からの発芽によりトウネズミモチが繁茂する箇所があるほか、池内にはブルーギルのような特定外来生物が存在するなど、外来種による生態系への影響が懸念された。また特に公園で活動する団体へのヒアリングを中心に、人が林内に立ち入ることによる踏み付けなど、オーバーユースの問題が挙げられた。

(2) 良いものを維持する

善福寺公園の自然環境にとって良いものは引き続き維持することとした。具体的には、本公園は東京女子大等、公園近郊の緑地から移植された希少植物が多いことが判明し、こうした植物の保全および保全のための人間活動は引き続き維持する必要があると考えられた。

(3) 向上させる

過去の調査資料から、かつて善福寺池にはムサントミヨを代表とする湧水に依存する生態系が存在したことがわかっており、こうした生態系を復活させることが善福寺公園の生物多様性を向上させることにつながると考えられた。

また杉並区自然環境調査報告書等を参照すると、善福寺公園では明るい環境を好む種が、区立柏の宮公園などと比べ、相対的に少ないことが示唆⁽¹⁾された。そのためこのような環境を創出することが、善福寺公園の自然環境に良い影響をもたらすと考えられた。

2. スケールの考え方

取組スケールは3つに分類した。すなわち小、中、大のスケールである。小スケールはいちばん小さなスケールで㎡単位のものである。例えば、落ち葉だまりを設置し、カブトムシなどの生息環境を整えるようなものを想定する。どちらかといえば特定の種にターゲットを置いたもので、生物多様性の3つのレベルで言えば、種多様性に働きかけるものである。

中スケールは他の公園でいう、いわゆる生物多様性保全ゾーンに相当し、数十から100㎡単位で、生物多様性の三つのレベルでいうところの、環境の多様性向上に貢献するものである。

大スケールとは、公園全体で取り組むことを指す。善福寺公園の本質的価値は言うまでもなく、池である。生物多様性の観点で言えば、上池はかつて豊富な湧水で満たされ、ムサントミヨを代表とする豊かな水圏生態系が存在していた。こうした環境を長期的に復元する事ができれば、善福寺公園の生物多様性を大きく高めることができると考えた。一方で現実として湧水の直接的復活は、公園周辺地域一体での長期的な取組が必要で、見通しの立ちにくいものである。

こうした考えから大スケールの取組として、善福寺公園でのかいぼり検討等を掲げた。

IV. 既存計画からの改善点

過去策定された各多様性事業を踏襲しつつ、下記のような点を本計画の新機軸として盛り込んだ。

1. 定量的な事業効果指標の設定

過去の多様性事業においては明確な数値目標が設けられていない。数値目標を設けない

ことは、事業の効果が予測しづらい本事業において適切な面もあるが、一方でどこまで目標を達成したのかがわかりづらい面もある。

今回は試行的に、善福寺公園の生物種数を5～10%程度向上させるという目標を掲げた。ただ事業実施にあたっては、本目標は不確実性が高いものであって、達成できない可能性もあることを、誤解ないよう付記ないし周知しておく必要がある。

2. オープンデータの活用

過去の多様性事業では、計画策定時、都が直接生物調査を行い、そのデータをもとに計画を策定していた。しかし公園そのものの生物相はわかっても周辺緑地との比較ができないため、景観スケールでの分析に限界があった。

今回、善福寺公園においては杉並区が1980年代以降、善福寺公園を含む区内の動植物調査を実施していた。そのため善福寺公園の生物相を、他緑地と比較することができ、対象公園の生物相の特徴をある程度明確にすることができた。

3. モニタリング手法の絞り込みと明確化

過去の多様性事業の多くは、整備工事実施後のモニタリングについて、モニタリング範囲とした動植物相全体を調べる形態をとっていたが、今回の計画では低コストにモニタリングを行うため、調査手法や調査対象を計画時から絞り込んだ。また、何を持って目標を達成したのかを取組単位で明確にするために、取組ごとに課題設定を明確にするよう意識した。

4. 保全と利用の相乗効果

保全と利用を極力対立させる構図とせず、相乗効果をもたらすことをイメージして計画策定を行った。例えば、開渠化は環境を多様化させ、生物多様性の保全に貢献するものであるが、一方で親水利用にもつながる。

また、在来種を用いた花壇は、種を単に守るためにコストをかけるのではなく、それを積極的に活用することで、保全のインセンティブを高めることを意図したものである。

上池西側斜面は人の立ち入りにより林床が裸地化し、生物多様性の保全と明確にバッテイングする箇所があった。こうした場所も、ロープ柵を設置し立ち入り禁止にするといった方法をとらず、粗朶柵を設置し、自然に人的利用を抑制させることを狙った。

5. 人間利用の把握

事業効果を正しく見極めるためには、今後の事業実施によって生物にどのような影響があったか、だけでなく、人間利用がどのように変化したか、も把握しておく必要がある。近年スマートフォンのビッグデータ等を活用した位置情報ツールが、安価かつ簡便に提供されているため、こうしたツールの利用を想定し、大スケールの取組として人間の公園利用状況のモニタリングも含めることとした。

V. 事業改善に向けた提案

本計画策定を通じ、現行多様性事業について、下記のような改善が可能ではないかという私案を示す。

1. オープンデータの積極的活用

もし良好なデータがすでにあるのであれば必ずしも都が自ら生物調査を行う必要はない。むしろ一定のレベルを持った公園ボランティアによる調査は、都が委託する年数回の調査よりも良質なデータを得ることができる可能性は十分にある。善福寺公園においては、杉並区が実施する自然環境調査報告書がそれに相当した。計画発注段階で、そのようなデータがないのかをよく確認した方が良い。これはモニタリング時も同様である。

2. 定量分析の推進

平成30年度に策定されたガイドラインからは7年が経過し、GISやAI、各種分析技術は各段に進歩し、その敷居は下がっている。

また、EBPM⁽²⁾が謳われるようになって久しく、データの取得や行われる分析は極力定量的に行われることが望ましい情勢にある。

例えば緑のネットワーク化は、ネットワークの程度を数値的に示すなどし、どのくらいの移動能力のある種にとっては連続的な緑地とみなせるのか、そうでないのかが明確化できるようになっている。

また、指標種の設定も重要である。曖昧に設定するのではなく、確たる分析をもとに都立公園の植物相の特徴から独自に指標種を設定することなどができれば、網羅的な動植物相調査も不要になる可能性がある。

3. 効率的な工事発注の検討

各公園でどのような工事が行われているのかを整理すると、複数の公園に共通する工種があると推測される。例えば普及啓発看板の設置、浅場整備などである。各公園のなかでどこを生物多様性に配慮すべきかといったゾーニング論は公園個別の作業として必要であるかもしれないが、全公園に共通した事項はまとめた工事発注とするなどの取組ができれば、省労力化につながる可能性がある。

4. 対象公園の優先順位付け

多様性事業の対象公園は、生物多様性にとってポテンシャルの高い公園として事業開始時に選定されたものである。これについても、現在の科学的知見から改めて精緻にとらえなおすことで、対象公園の中でも特にポテンシャルの高い公園とそうでない公園に分類することができると考えられる。そうした分類に基づいて、事業主体の限られた人員及び資金を効果的に配分し、効率的に事業を展開できる可能性がある。

5. アカデミアによる検証

本事業を適切に進めていくためには事業に関わる各主体が、生物多様性についての価値を理解しているだけでなく、各生物分野に幅広く精通し、市民コミュニケーションに優れ、かつ保全生態学、保全遺伝学、緑化学、生態工学、公共政策学等の分野を横断し、それぞれに深い造詣を持っている必要がある。正直なところ、これら全てを網羅的に把握できる人材や組織は殆ど存在しないと言っていい。ある程度現実的な解決策として、様々な学術分野からなる有識者5～10名程度による有識者委員会のようなものを立ち上げ、各公園ではなく全公園を対象に定期的にレビューを受けるような仕組みづくりを設けられるとよいと考えている。

6. 成果のフィードバック

本事業ではいくつか希少種の復活事例がみられる。例えば石神井公園では造成した浅場にヒメミクリが発生した。西部公園緑地事務所管内では井の頭公園においてカトリヤンマの発生が報告されている。具体的に成果が出たものについては細かく検証を行い、事業の改善に資するべきである。

VI. 計画（案）の概要

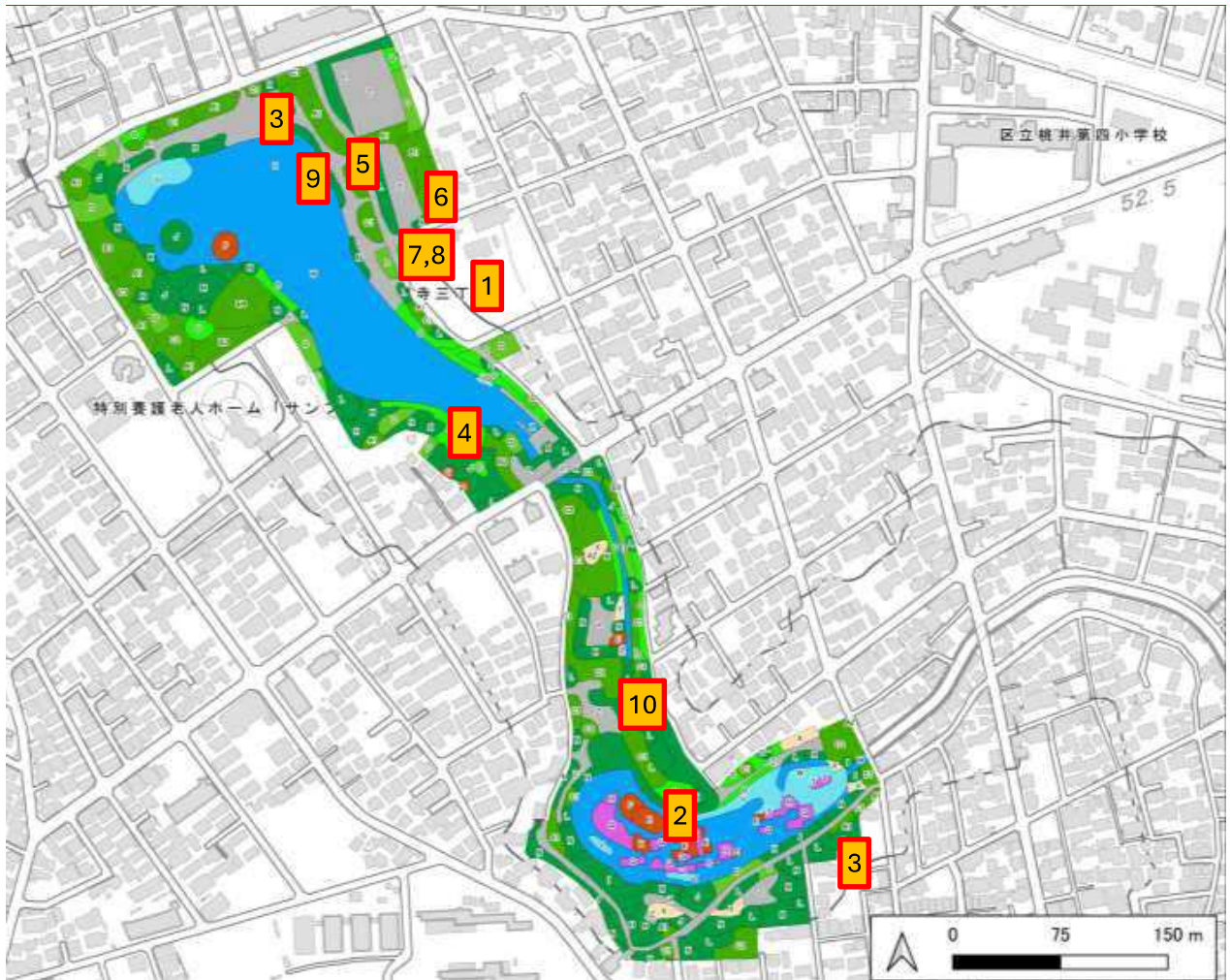
次項以降に、本計画（案）の概要を示す。

VII. 参考文献

- 1) 杉並区,2025,「杉並区自然環境調査報告書(第8次)概要版」,p23 2025年4月28日取得 <https://www.city.suginami.tokyo.jp/documents/5895/08shizengaiyouban.pdf>
- 2) 内閣府,2025,「内閣府におけるEBPMへの取組」,2025年4月28日取得 <https://www.cao.go.jp/others/kichou/ebpm/ebpm.html>

別紙1 小スケールの取組

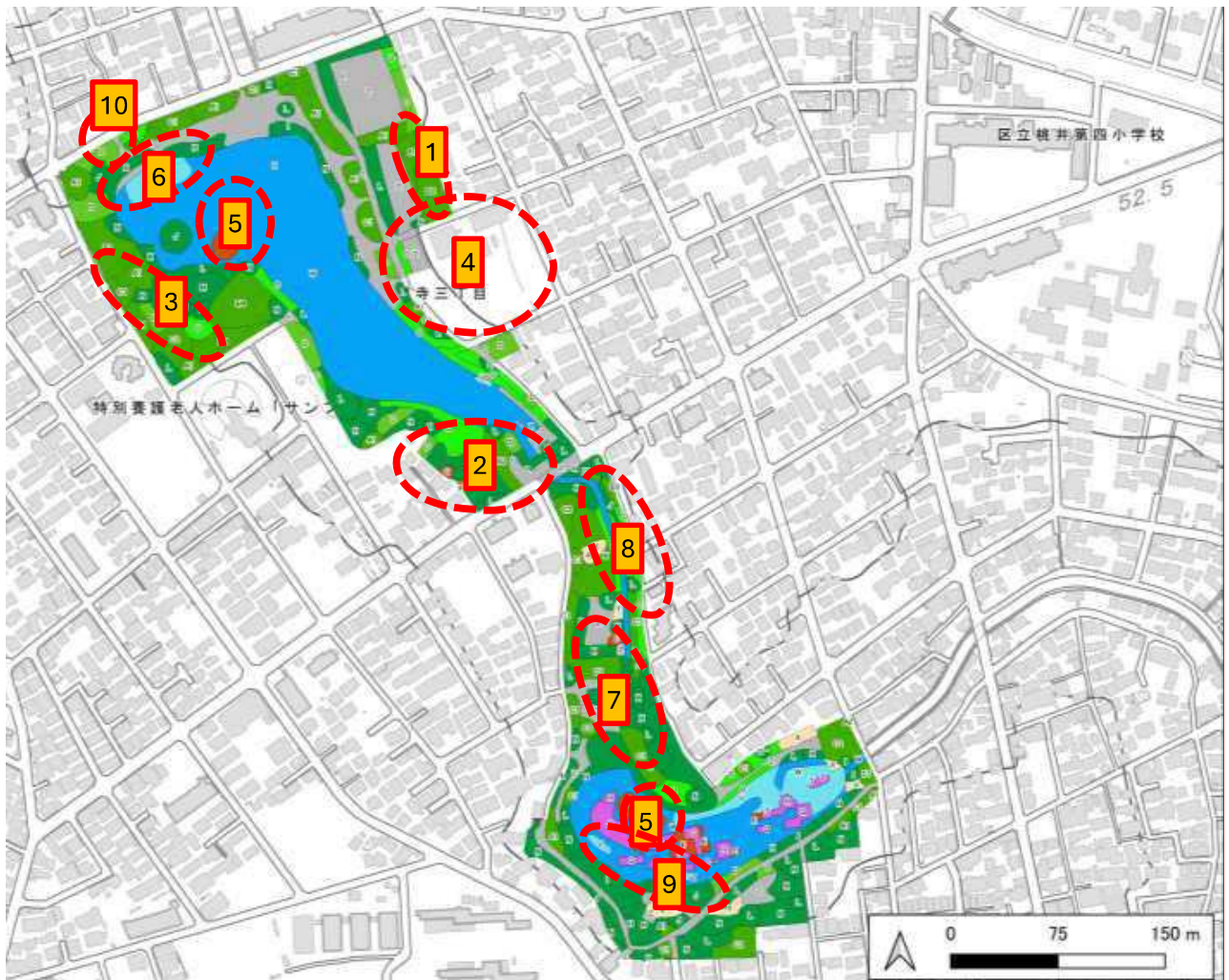
※個別の整備内容、地点は現段階の想定であり、今後の設計等により加除がなされるものとする。



	種類	働きかけの方向性	保全対象
1	エコスタック	向上	カブトムシ等
2	布団籠	向上	カナヘビ等
3	草地保全	維持	バッタ、トンボ類
4	カエル産卵場づくり	向上	アズマヒキガエル等
5	ガガイモの保護	維持	ガガイモ
6	露頭の保全	維持	カネコタテグモ
7	シダ類保全	維持	リュウメンシダ等シダ類
8	在来種植栽ポット	向上	エビガライチゴ等
9	水際樹木の保全	維持	コゴメウツギやコブシ等
10	土壌保全	維持	アズマモグラ

別紙2 中スケールの取組

※個別の整備内容、地点は現段階の想定であり、今後の設計等により加除がなされるものとする。



	種類	働きかけの方向性	目的（概要）
1	樹林地 A	向上	アカマツ等更新
2	樹林地 B	維持	里山林構成種の補植
3	樹林地 C	抑制	粗朶柵設置による人為抑制
4	管理所横屋敷林	抑制	遷移の進んだ樹林地の保全
5	上池/下池の島	抑制	外来樹木伐採
6	上池最上流部	向上	浅場の造成
7	水路の開渠化/野原整備	向上	草地の造成や親水施設整備
8	入口設置	維持	域外保全された植物の保全
9	島の切下げ/架橋	向上	アンジュレーションのあるヨシ群落
10	水路の整備	向上	流水環境の創出

別紙3 大スケールの取組



項目	整備
かいぼりの実施	善福寺公園の本質的な価値である池を再生させ、シードバンクからの植物の発芽や水質改善に取り組む。ただし前提として法的、物理的等多面的な検討調査が必要であるため、検討には時間を要するが着実に進めていく
植栽樹木の転換	公園内で枯死した樹木を植え替える際、苗の入手状況も踏まえつつ、地域の雑木林構成種等に転換 公園内の生態系被害防止外来種の樹木の伐採
モニタリング体制の整備	湧水復活への議論をするための材料や本事業の人間利用への影響を把握するため、生物以外の項目についても状況を把握できる体制を整備

都市部の公園・東部グループの公園における生物多様性の保全の取組

指定管理者アメニス東部地区グループ
生物多様性推進責任者 兼 利用促進担当（綾瀬エリア）
氏名 齋藤 桃子

I. 環境宣言

1. 日比谷アメニスグループでは「花とみどり」を扱う企業として令和5年に環境経営を進めるための環境方針を策定した。その中でも「自然再興」を重要な柱の一つとして位置付けている。都市における緑地が生態系の一部として機能することも重視し、設計から工事、管理に至るまでの生物多様性の損失を止め、回復させるための取組を推進している。また、そこから得られる自然の価値を共有し、人と自然が共生する社会の実現に貢献することを目指している。弊社グループで指定管理を行っている猿江恩賜公園にて実施されている「多様な生物が生息する都立公園づくり事業」やその他の都市部の公園・東部グループでの取組について順応的管理および普及啓発と協働の面から紹介する。

II. 多様な生物が生息する都立公園づくり事業（猿江恩賜公園）

1. 猿江恩賜公園の概要

猿江恩賜公園は、昭和7年の開園以来、地域住民にとって自然との触れ合いの場として長く親しまれてきた。東京都江東区に立地し、新大橋通りを挟んで北園と南園に分かれている広大な都市公園である。北園はテニスコートや広場、遊具が整備され、開放的で活気に満ちた空間が広がっており、南園は野球場の他、芝生広場や庭園が整備され、樹林や草地、上池・下池と呼ばれる水辺を有する落ち着いた空間となっている。多様な自然環境がバランス良く存在しており、本公園は東京都の施策の一環である「多様な生物が生息する都立公園づくり」事業（以下「多様性事業」という。）の対象地として選定された。平成26年度に策定された「東京都長期ビジョン」においては、生物多様性保全に向けた環境整備と裾野の拡大のための取組として、猿江恩賜公園をはじめ31都立公園で実施する「多様性事業」が位置付けられ、その後も継続して実施されている。

2. 生物多様性保全管理工事

本公園は平成29年度に「生物多様性保全管理計画」が策定され、特に南園において令和4年から5年にかけて利用と保全のゾーニングに則って多様な生物が共存できる環境の整備工事を行った。（図1）

南園の樹林地では、日照を確保して下草の育成を促進するために樹木の間引きや強剪定を行った。また、土砂流出防止のために「粗朶柵」を設置した。

上池の護岸は一部が垂直な石張で、池底も単一なゴロタ石敷きであったため、池で活動できる生物が限られていた。そこで、池底に傾斜を設け、湿性植物を植栽し、湿地から水辺へと自然な移行帯「エコトーン」を形成することで水生昆虫や魚類、水辺の鳥類が利用できる環境整備を行った。

下池は、西側ではヨシの過密な生育によって閉鎖的になっていた水面を改善するために一部のヨシを除去し、湿地性昆虫の生息に適した開放的な水面を取り戻す工事を実施した。東側では、カワセミの営巣地となる垂直の土手を造成し、採餌のための止まり木を設置した。

下池の西側には緩傾斜の湿性草地が広がっており、ニホンアカガエル等、カエル類の移動経路となっていたが、草丈が低くカエルの隠れる場所が少ないことや公園利用者の踏圧による乾燥化が進行していることが課題となっていた。そこで草丈は刈高を段階的に設定する計画とした。また、公園利用者が草地へ直接立ち入る範囲を限定し、踏圧の影響を緩和させるために木道を設置した。さらに外来種駆除対策として「池干し」を実施し、アメリカザリガニやウシガエル、カダヤシ、外来のカメ類などの駆除を行った他、オオフサモやウチワゼニクサなどの駆除にも取り組んだ。下池の東側には園路を挟んで直翅類や冬鳥の生息地となる様々な草丈のイネ科草本が優占する草地を計画し、さらにフジバカマを植栽した。



図1 猿江恩賜公園(南園)
の概略図

3. モニタリングおよび順応的管理



写真1 粗朶柵設置箇所

生物多様性保全管理工事の後、令和5年10月から指定管理者によるモニタリングと順応的管理が始まった。定期的なモニタリング調査の結果を受け、関係者での合意形成を図りながら順応的管理を進めている。斜面に設置した粗朶柵は落ち葉を受け止めて湿潤な表層を創出し、林床に草本が見られるようになった。また、カエル類や昆虫類の隠れ家やすみかとして利用される様子も見られた。

(写真1) 斜面地の下の人の利用が少ないエリアにはエコス

タックを新たに設置し、落ち葉を溜めている。徐々に腐葉土化が進んでおり、さらに様々な生物に利用されることを期待している。上池護岸沿いに計画されたエコトーンは土の流出やカモ類による捕食圧のため、残念ながら植生が定着しなかった。そこで、タフブネを設置しカサスゲ等を植えるなど、エコトーンの創出に向けた工夫を続けている。下池の脇に新たに設けられた木道の両脇をはじめ草の刈り高を変更する計画となったエリアでは、草刈り前には業者との現地確認を行い多様な環境を創出するための選択的除草や利用とのバランスを考慮しながら草の刈り高を段階的に設定するなどのきめ細やかな管理を行った。（写真2）木道脇では意図した通り草地をカエル類が利用する姿が見られたほか、タコノアシやミコシガヤなど攪乱依存性の希少種が見られるようになった。下池に設けられたカワセミの営巣地では工事完了後初の繁殖期に早速ペアが営巣準備を始めた。令和6年度は営巣には至らなかったが、早々にカワセミに利用されたことは関係者一同驚きをもって受け止めた。竣工後の保全活動として引き続き外来生物の駆除も積極的に行っている。具体的にはオオカワヂシャは種子が散布される前に随時抜き取りを行うとともに温水除草による対策も試みている。ウチワゼニクサは遮光シートで覆い、光合成を阻止した結果大幅に減少させることができた。（写真3）ウシガエル、カダヤシ等の外来水生生物についても夏期を中心に駆除を実施した。



写真2 草刈り前打合せ



写真3 ウチワゼニクサの遮光

III. 生物多様性保全に関わる普及啓発と都民協働（猿江恩賜公園・尾久の原公園）

1. 猿江恩賜公園

生物多様性保全は単なる環境整備では実現できず、地域の方々との協力によって実現可能となる課題と捉え、地域住民や学校、研究機関、自治体など、様々なステークホルダーとの連携を重視している。猿江恩賜公園での生物多様性保全工事施工前には近隣住民の方々や高校生と現況調査を実施し、工事中にカエルの通り道を妨げないための工夫を行った。また、施工期間中には、近隣住民や教育機関と協力し、池の水抜きを生き物の救出イベントとして実施したり、近隣の小学校を対象に生き物について興味をもってもらうための課外授業を開催した。更に、施工後には毎年2～3回、「多様性事業連絡会」を実施し、東京都・学校・NP0などとモニ



写真4 冊子「猿江恩賜公園のいきものブック」

タリング結果の確認及び順応的管理の方針について協議を行っている。さらに、江東区で開催されている「生物多様性フェア」への参加や、園内でのパネル展示、利用促進ボランティア「なぎの会」が作成した冊子の配布、ロボットによる自然情報案内などにより、園内の自然環境の情報発信・収集に努めている。（写真4）

2. 尾久の原公園

当グループが指定管理を担う7つの都立公園では自然観察会やガイドウェブアプリの導入、ブログ等での園内自然環境の発信を積極的に行っている。その中でも筆者の利用促進担当エリアである尾久の原公園の例を挙げたい。同園は工場跡地の空き地によみがえった荒川下流域の水辺環境を中心に造設された公園である。そのため、草地や水辺周辺では開放水面の維持や、環境に応じたゾーニングに基づいた刈り高の調整や、光環境を改善するための刈り草の移動、刈り残し等により動植物の生息・生育環境を保護する取組を行った。ミゾコウジュやタコノアシといった湿地に生息する希少植物が多数見られ、希少種「チョウトンボ」をはじめとしたトンボ類も多数見られる。令和6年8月には開園前後の調査以来、約30年ぶりとなる生態調査を当時の調査業者により実施し、植物や昆虫類の生息状況の現状把握と、約30年後の変化遷移の把握を行うとともに、今後の環境保全への提言・提案を得るなど公園の根幹となる自然環境の保全に対して積極的な取組を行った。

そうした貴重な自然環境に触れ合えるよう、普及啓発では、園内や区内で発見の難しいとされている生き物を探す企画「尾久の原バウンティハンター」を夏季に、園内の動植物を見つけることでトレーディングカードの収集が出来る「尾久の原ヒーローズ」を通年で実施し、園内自然環境理解への普及啓発を行っている。（図2, 3）ま



図2 尾久の原ヒーローズ



図3 尾久の原バウンティハンター

た、生物との触れ合いや興味の喚起に対する更なる仕掛けとして春から秋にかけては昆虫などの小さな生き物の生息が最も豊かな場所である湿地に沿う形で、生き物の推移帯となる草地の刈り残し「虫の王国」を作っている。（写真5）キンエノコロやチカラシバなどのイネ科の草本が優占し、湿地から生物の供給を受け、多くのバッタ類やイトトンボ、カナヘビなどが見られるエリアとなり子供たちが動植物と触れ合うことのできる活気あふれる場となっている。さらに令和5年の冬には花壇の横には職場体験に訪れた中学生とともにバイオネストを設置

し、花壇管理作業で発生した花がらなどを堆肥化し再び花壇で使用する循環を目指している。（写真6）設置後半年ほどで腐葉土化が進み、ダンゴムシなどの生物が多く見られるようになった。令和6年の冬には新たに小さな生き物の越冬場所となる大小二棟の「インセクトホテル」を設置し、利用者の注目を集めている。（写真7）これらの取組は数年間の継続を経て利用者に浸透しており、自然と触れ合う公園としての認識も広まっている。また、生物にあまり興味のない層にも「面白そう！」と感じさせるゲーム性の高さや、見た目の珍しさを備えており、公園で生物多様性の保全に取り組むにあたり重要な点を示唆していると考えている。



写真5 虫の王国



写真6 バイオネスト



写真7
インセクトホテル

生物多様性の保全は生物や自然環境への関心の度合いに関わらず、全ての人に関係するものであり、様々な立場からの働きかけが必要な課題である。公園管理者の立場では、本稿の報告のようなハード面の働きかけによって、人間だけではない生き物も利用する都市緑地として多様な環境を創出することが可能である。また、順応的管理に関する協議・連携や「遊び」との掛け合わせにより、様々な関心の層を取り込み、利用者・職員共に自然を見る目を増やすことも可能である。地域の自然環境や他の生物の役に立つ存在としても公園が機能するよう、多くの場所で多くの方々と手を取り合って取り組んでいきたい。

※猿江恩賜公園に関しては雑誌『国立公園』830号「都市公園における生物多様性への取組と地域連携」に株式会社エコルの河原氏と連名による同内容の記事が掲載されている。

Ⅱ. 管理運営編

令和5年度・6年度（2023年度・2024年度）
神代植物公園植物多様性センター事業年報

公益財団法人東京都公園協会 神代植物公園 植物多様性センター長
田中 利彦

I. はじめに

植物多様性の損失が懸念されている中、神代植物公園では他の植物園と連携して絶滅危惧植物の保護・増殖等を行う「植物多様性保全拠点園」（公益社団法人日本植物園協会認定）としての活動に取り組んできた。

神代植物公園植物多様性センターは、都内における植物多様性保全をより一層推進するため、保全上の様々な機能を総合的に担う拠点施設となることを目的に、平成24年（2012年）4月に開設された。開設当初から公益財団法人東京都公園協会が管理運営を受託し、平成28年度（2016年度）より指定管理者として職員10名の体制で運営している。

植物多様性センターの敷地は約26,000㎡あり、その中には学習園（16,000㎡）、情報館（650㎡）、栽培温室（200㎡）の施設がある。

学習園では、山地や石灰岩地を再現した奥多摩ゾーン、河原や雑木林を再現した武蔵野ゾーン、海岸や火山地形を再現した伊豆諸島ゾーンと、東京を代表する自然環境を再現した3つのゾーンを設け、それぞれの環境に合った植物を展示している。

情報館では、学習園で観察できる植物の案内・解説や、植物多様性に関するパネル等の展示を行っている。また植物・動物の図鑑や東京都の自然に関する図書文献が閲覧できる、ライブラリーコーナーが設けられている。館内のセミナールームでは、講座や学習プログラムを実施している。無菌培養室（非公開）では、ラン科植物を中心に無菌培養による増殖に取り組んでいる。

栽培温室は非公開であるが、東京都産の植物を中心に栽培・育成しており、一部の絶滅危惧植物の生息域外保全も行っている。

植物多様性センターの事業は、次の3つを軸に展開している。

1. 絶滅危惧植物の保護・増殖
2. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信
3. 植物多様性に関する教育・普及

絶滅危惧植物の保護・増殖として、平成19年度（2007年度）から25年度（2013年度）まで神代植物公園において「絶滅危惧植物保全調査」の検討と実施、及び「絶滅危惧植物保全計画」の策定を行い、都内の絶滅危惧植物の生育状況の把握と保全対象種の検討を行ってきた。当該計画では、植物多様性センターが重点的に保全する植物種を「優先保全対象種」として118種（本土部43種及び島嶼部75種）選定し、平成25年度に策定した保全策に基づき、それ

ら植物種の現地調査等の生息域内保全や種子採取・無菌培養による増殖等の生息域外保全を平成26年度（2014年度）から行っている。

絶滅危惧植物に関する情報収集・発信としては、関係機関や保全団体とのネットワークを活かし、都内における絶滅危惧植物の現状と保全に向けた取組状況を把握した上で、情報拠点として各活動団体等が行う保全・保護・増殖活動に有効な支援を行うことを目的としている。また植物多様性センターでは、保全団体や愛好家等と学識経験者、公園管理者、行政機関が参加する情報連絡会を開催し、各団体等の取組について意見交換や情報交換を行っている。

植物多様性に関する教育・普及については、近隣の小中学校や農学系の大学生等へ環境学習プログラムを企画立案し、教育普及活動を行っている。職員やボランティアによる園内のガイドツアーを実施するほか、職員や専門家による講座を開催している。

また利用者層の一層の拡充、特に乳幼児を連れたファミリー層をはじめとする家族連れや低年齢層者が利用できる場の提供を目標として、“チルドレンズミュージアム”を令和5年度より開始した。

本報告は、植物多様性センターが令和5年度並びに6年度に実施した事業や取り組みを年報としてとりまとめたものであり、植物多様性センターへのご理解とご支援をいただく上での参考としていただくとともに、今後事業や取り組みの進展を図る上で、技術の向上や事業の推進に役立たせることができればと考えている。

Ⅱ. 絶滅危惧植物の保護・増殖の取り組み

1 優先保全対象種等の植物調査

優先保全対象種については、生息域内保全の一環として、生育状況及び生育環境のモニタリング調査を実施している。調査結果については「保護・増殖カルテ」に取りまとめ、保存している。

（１）本土部における優先保全対象種の調査

本土部において令和6年度に実施した優先保全対象種の調査結果を、表1に示した。令和6年度は3種3地点の調査を実施した。なお令和5年度は本土部では、優先保全対象種の調査は実施しなかった。

表1 本土部における優先保全対象種の調査（令和6年度）

No.	調査日	種名	調査概要
1	5月5日	カザグルマ	4個体確認。土地の造成により個体数減少。
2	9月14日	ミズワラビ	個体確認できず。
3	10月30日	ウラギク	11個体確認。

（２）島嶼部における優先保全対象種の調査

島嶼部において令和5年度・6年度に実施した優先保全対象種の調査結果を、表2～表3に示

した。令和5年度は新島、御蔵島及び八丈島において19種26地点、令和6年度は大島、御蔵島及び八丈島において19種25地点の調査を実施した。

表2 島嶼部における優先保全対象種の調査（令和5年度）

No.	調査日	種名	調査概要
1	7月3日	ナゴラン	2019年の台風による倒木で目的地まで到達できず。
2	7月3日	ニイジマトンボ	個体確認できず。出芽前の可能性あり。
3	7月3日	ニイジマトンボ	個体確認できず。数年確認できていない箇所。
4	7月3日	ニイジマトンボ	1個体確認。他個体は出芽前の可能性あり。生息数は一番多い箇所。
5	7月4日	ヒメノヤガラ	3個体確認。他個体は出芽前の可能性あり。比較的安定した小規模な谷沿い。
6	7月4日	ナヨテンマ	個体確認できず。数年確認できていない箇所。伐採した木々の発生材が放置された状態。消失した可能性が高い。
7	7月5日	コウヅエビネ	1個体確認。台風による自生環境の崩落。非常に不安定。過去に盗掘された株の一部が生き残った状態。
8	10月18日	サクユリ	4個体確認。生育面積が減少している。草刈りのためか地被植物が少ない。
9	10月18日	ハチジョウオトギリ	個体確認できず。一時的に地上部がない可能性もある。
10	10月18日	ハチジョウコゴメグサ	個体確認できず。一時的に地上部がない可能性もある。
11	10月18日	イズノシマウメバチソウ	11個体確認。芽出し直後の小型株多し。生育地が乾燥化しているとみられる。
12	10月19日	ムカゴトンボ（2地点）	個体確認できず。上層が成長し、法面が暗くなっている。
13	10月19日	フクオウソウ	2個体確認。生育箇所の日照が不十分。
14	10月19日	ミクラジマトウヒレン	75個体確認。ミクラザサ草地内に生育し、個体数は減少傾向。
15	10月19日	オオシマシュスラン	3個体確認。周辺にモノレールが敷設され、日照条件が変化している。
16	10月20日	アツイタ	1個体確認。個体は健全だが小さめ。生育地が乾燥化しているとみられる。
17	10月23日	アツイタ	5個体確認。着生木（スダジイ）が老木のため、今後枯死する可能性がある。
18	10月23日	ムカゴトンボ	1個体確認。10個体から減少。ウラジロの分布拡大により、消滅する可能性がある。
19	10月24日	サクユリ	2個体確認。過年度の座標データに誤りがあったため修正。
20	10月24日	ハチジョウオトギリ	24個体確認。大きな植生変化なし。
21	10月24日	ハチジョウコゴメグサ	47個体確認。ハチジョウイヌツゲの被度が増加している。
22	10月24日	ヒロハヒメウラボシ	8個体確認。ハチジョウイヌツゲ、ヒサカキ低木林内の岩上。
23	10月24日	マツバラン	24個体確認。公園内のカナリヤシの幹に着生。
24	10月24日	マヤラン	個体確認できず。近隣で1個体確認。
25	10月25日	キンラン	個体確認できず。一時的に地上部がない可能性もある。
26	10月25日	シュンラン	個体確認できず。低木層の被度が増加している。

表3 島嶼部における優先保全対象種の調査（令和6年度）

No.	調査日	種名	調査概要
1	7月9日	ナギラン	個体確認できず。
2	7月9日	ミクラトンボソウ	3個体確認。
3	7月9日	オオバヨウラクラン	個体確認できず。着生していたツゲが消失した可能性あり。
4	7月10日	ハコネコメツツジ	5集団確認。開花も確認。
5	7月10日	ナゴラン	個体確認できず。
6	7月10日	ハチジョウオトギリ	6個体確認。
7	7月10日	シマキンレイカ	20個体確認。開花も確認。近隣にも群落あり。
8	7月10日	フクオウソウ	8個体確認。近隣にも多数あり。
9	7月11日	ミクラトンボソウ	個体確認できず。
10	7月11日	ハチジョウネッタイルン	個体確認できず。
11	7月17日	サクユリ	2個体確認。
12	7月17日	ハチジョウオトギリ	30個体確認。
13	7月17日	アツイタ	1個体確認。
14	7月18日	ギンラン	個体確認できず。
15	7月18日	ササバギンラン	個体確認できず。
16	7月19日	ナツエビネ	2個体確認。
17	7月19日	ナツエビネ	2個体確認。
18	9月9日	ヤマユリ	個体確認できず。
19	9月9日	サクユリ	個体確認できず。
20	9月9日	ハチジョウオトギリ	10個体確認。
21	9月10日	ユウコクラン	10個体確認。ただしコクランと思われる。
22	9月10日	イズドコロ	個体確認できず。
23	9月10日	イズドコロ	3個体確認。
24	9月10日	ツリガネニンジン	個体確認できず。
25	9月11日	ソナレセンブリ	30個体確認。



写真1 御蔵島での調査



写真2 ハチジョウコゴメグサ

2 東京都内における生息域外保全

令和6年度までに植物多様性センターで実施した、東京都内における生息域外保全の実績を、表4～表6に示した。

表4 東京都内における生息域外保全の実績(1/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
1	イズノシマホシクサ	島嶼部	平成26年9月26日 種子採取 平成30年8月29日 種子採取 平成30年8月30日 種子採取	平成26年より継続・栽培
2	ウチョウラン	本土部	平成27年10月1日 種子採取	新宿御苑へ送付
3	オオシマシスラン	島嶼部	平成27年1月20日 種子採取	新宿御苑へ送付
4	キキョウ	本土部	平成27年9月30日 種子採取	新宿御苑へ送付
5	キンラン	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養
6	クマガイソウ	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取 平成30年9月11日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養 平成30年4月10日に人工授粉を行い、9蒴果のうち5蒴果を採取した。 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付
7	コウズエビネ	島嶼部	平成26年9月27日 種子採取	無菌培養、平成26年より継続・無菌培養（2系統）
8	コウズエビネ	島嶼部	平成27年10月5日 種子採取	新宿御苑へ送付・無菌培養（2系統）
9	シムライノデ	本土部	平成30年2月15日 個体受取	栽培、危険分散のため国立科学博物館筑波実験植物園へ送付
10	シラン	本土部	平成27年9月15日 種子採取	案内人の依頼及び盗掘の恐れがあることから 種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付、栽培
11	ナギラン	島嶼部	平成26年9月3日 種子採取	平成26年より継続・無菌培養
12	ナギラン	島嶼部	平成28年10月27日 種子採取	平成28年より無菌播種、新宿御苑へ送付
13	ナゴラン	島嶼部	平成27年7月7日 個体受取	栽培
14	ナツエビネ	島嶼部	平成29年11月8日 種子採取	新宿御苑へ送付、無菌培養
15	ニオイエビネ	島嶼部	平成28年10月27日 種子採取	無菌培養、新宿御苑へ送付（自生地消失のため代替地で採取）
16	ハマカキラン	本土部	平成28年8月6日 種子採取	新宿御苑へ送付

表5 東京都内における生息域外保全の実績 (2/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
17	ヒイラギソウ	本土部	平成27年9月30日 個体採取	挿し木にて栽培、平成26年より継続・栽培
18	ヒナノキンチャク	本土部	平成29年11月16日 種子採取	栽培、新宿御苑へ送付
19	ヒナワチガイソウ	本土部	平成27年4月30日 種子採取	新宿御苑へ送付、生活史調査及び栽培
20	フウラン	島嶼部	平成28年11月1日 種子採取	無菌培養
21	マメヅタラン	島嶼部	平成26年9月26日 個体採取	平成26年より継続・栽培
22	ミクラジマトウヒレン	島嶼部	平成27年11月17日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑、富山県中央植物園へ送付、栽培
23	ミズネコノオ	本土部	平成27年10月14日 種子採取	案内人の依頼により種子採取による域外保全を行った 新宿御苑へ送付
24	ムサシノキスゲ	本土部	平成29年7月13日 種子採取 平成29年7月28日 個体採取	栽培、東京大学及び新宿御苑へ送付
25	ユウシュンラン	本土部	平成28年1月22日 種子採取	指定対象種は過去の自生情報のみのため、他の 自生地から採種 新宿御苑へ送付・無菌培養
26	ハチジョウツレサギ	島嶼部	平成30年10月6日 種子採取	新宿御苑へ送付
27	バアソブ	本土部	平成30年10月3日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
28	ハタザオ	本土部	平成29年11月28日 種子採取	新宿御苑へ送付、栽培
29	シマキンレイカ	島嶼部	平成30年10月7日 種子採取	新宿御苑へ送付
30	ウラジロヒカゲツツジ	本土部	平成30年10月29日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、新潟県立植物園へ個体送付
31	カイコバイモ	本土部	令和元年5月10日 種子採取	栽培、新宿御苑、国立科学博物館筑波実験植物園へ送付
32	ツレサギソウ	本土部	令和元年9月3日 種子採取	無菌培養
33	クロヤツシロラン	本土部	令和元年12月17日 種子採取	無菌培養
34	フジバカマ	本土部	令和2年12月25日 種子採取	栽培
35	エビラシダ	本土部	令和4年5月13日 個体採取	栽培

表6 東京都内における生息域外保全の実績(3/3)

No.	種名	場所	採取日	備考
36	ヒナノキンチャク	本土部	令和4年9月15日 種子、個体採取	新宿御苑へ種子送付、個体は栽培
37	ヒメシオン	本土部	令和4年10月13日 個体受取	栽培
38	ステゴビル	本土部	令和4年10月22日 種子、個体採取	種子保存、個体は栽培
39	フウラン	島嶼部	令和4年11月13日 個体受取	栽培
40	セッコク	島嶼部	令和5年2月5日 個体受取	栽培
41	ナゴラン	島嶼部	令和5年2月5日 個体受取	栽培
42	ツレサギソウ	本土部	令和5年9月3日 種子受取	無菌播種
43	ナゴラン	島嶼部	令和5年11月28日 個体受取	栽培
44	ノコギリシダ	本土部	令和6年9月28日 個体受取	栽培
45	オミナエシ	本土部	令和6年9月28日 個体受取	栽培
46	クサレダマ	本土部	令和6年10月12日 個体及び種子受取	栽培



写真3 ミクラジマトウヒレン（種子からの育成個体）



写真4 ツレサギソウの無菌培養

3 建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援

令和5年度・6年度に実施した、東京都建設局等の事業に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績を、表7～表8に示した。

表7 東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績（令和5年度）

事務所・担当部署	状況	植物名・数量等	日付	支援内容
建設局西部公園緑地事務所 工事課	都立公園内法面土留め工事に伴う希少植物の保全（種子採取・移植）	コシオガマ 約10株 ホタルカズラ 約20株	10月16日 11月23日	コシオガマの種子採取と、ホタルカズラの掘り取り・仮植えの実施
環境局多摩環境事務所 自然環境課	希少植物群生地の保全	レンゲショウマ	11月21日	環境管理及びポットへの播種管理に対するアドバイスの実施
建設局北多摩南部建設事務所 工事第一課環境対策担当	関戸橋架替事業に伴う希少植物の保全	カワラノギク 種子約12,000粒	2月26日	前年度受入種子の返却

表8 東京都建設局事業等に対する絶滅危惧植物等の保全に対する取り組みへの支援の実績（令和6年度）

事務所・担当部署	状況	植物名・数量等	日付	支援内容
建設局西部公園緑地事務所 工事課緑化推進担当	都立公園における希少植物の保全	ヤナギスブタ	10月11日	生息域外保全に対するアドバイスの実施、個体受け入れの検討
建設局西部公園緑地事務所 工事課	都立公園内法面土留め工事に伴う希少植物の保全（種子採取・移植）	コシオガマ ホタルカズラ	3月6日	昨年度採取したコシオガマの種子の播種と、昨年度掘り取ったホタルカズラの植え戻し
建設局北多摩南部建設事務所 工事第一課環境対策担当	関戸橋架替事業に伴う希少植物の保全	カワラノギク種子	3月26日	種子の保存



写真5 コシオガマの種子採取



写真6 ヤナギスブタ管理のアドバイスの実施

Ⅲ. 絶滅危惧植物に関する情報収集・発信の取り組み

1 植物多様性センター蔵書数

植物多様性センターでは情報館内ライブラリーコーナーにおいて、植物に関する書籍や地域資料、保全団体発行の研究報告等の収集を行っている。

蔵書数を表9に示した。新たに令和5年度は28点、令和6年度は21点の収集を行い、累積収

集数は1,174点となった。

表9 植物多様性センター蔵書数

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
冊数	134	253	180	56	72	79	58
年度	H31	R2	R3	R4	R5	R6	計
冊数	80	154	38	21	28	21	1,174



写真7 ライブラリーコーナー



写真8 ライブラリーコーナー利用状況

2 神代植物公園植物多様性保全に関する情報連絡会

植物多様性センターでは毎年、東京都西部公園緑地事務所と共催で、学識経験者や地域植物保全団体等との情報や意見の交換により、植物多様性保全事業に資することを目的とした情報連絡会を、本土部と島嶼部に分けて開催している。

令和5年度は本土部については1月27日に神代植物公園本園植物会館大集会室で実施した。参加保全団体による、活動報告についてのポスターセッションを行い、情報や意見の交換の場を提供した。島嶼部については1月28日に植物多様性センター情報館内セミナールームで実施した。伊豆諸島各島から、植物の現状や活動状況の報告が行われ、アドバイザーやオブザーバーを交えた意見交換を行った。次第を表10～表11、参加者数を表12に示した。

令和6年度は本土部については1月25日に神代植物公園本園植物会館大集会室で実施した。参加保全団体による、意見交換会を実施したほか、東京都立大学牧野標本館より、東京いきもの台帳・植物専門調査に関する報告を行った。島嶼部については2月1日に植物多様性センター情報館内セミナールームで実施した。前年度と同様の内容のほか、東京都環境局自然環境部計画課より東京都レッドリスト改定の報告を行った。次第を表13～表14、参加者数を表15に示した。

表10 情報連絡会（本土部）次第（令和5年度）

敬称略

1	開会挨拶	阿部 好淳	東京都西部公園緑地事務所工事課
		遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
2	アドバイザー紹介	遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
		加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館
		藤田 卓	公益財団法人日本自然保護協会
3	植物多様性センターの事業報告	田中 利彦	神代植物公園植物多様性センター
4	無菌培養における取組の報告	日比 也貴	神代植物公園植物多様性センター
5	東京都野生動植物インベントリ策定プロジェクトについて	内山 香	東京都環境局自然環境部計画課
6	ポスターセッション		
7	講評	アドバイザー	
8	閉会挨拶	松井 映樹	神代植物公園 園長

表11 情報連絡会（島嶼部）次第（令和5年度）

敬称略

1	開会挨拶	阿部 好淳	東京都西部公園緑地事務所工事課
		遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
2	アドバイザー紹介	遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
		加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館
		藤田 卓	公益財団法人日本自然保護協会
3	植物多様性センターの事業報告	田中 利彦	神代植物公園植物多様性センター
4	無菌培養における取組の報告	日比 也貴	神代植物公園植物多様性センター
5	東京都野生動植物インベントリ策定プロジェクトについて	内山 香	東京都環境局自然環境部計画課
6	植物多様性保全に関する島嶼部からの活動報告	上條 隆志	筑波大学大学院生命環境科学研究科
7	ポスターセッション		
8	講評	アドバイザー	
9	閉会挨拶	松井 映樹	神代植物公園 園長

表12 情報連絡会の参加者数（令和5年度）

区分	開催日	参加者数		
		保全団体等	オブザーバー	事務局等
本土部	1月27日	33	28	11
島嶼部	1月28日	16	6	9

表13 情報連絡会（本土部）次第（令和6年度）

敬称略

1	開会挨拶	松浦 光明	東京都西部公園緑地事務所工事課長
		遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
2	アドバイザー紹介	遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
		加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館
3	植物多様性センターの事業報告	田中 利彦	神代植物公園植物多様性センター
4	東京都のシカ対策の取組	資料配布	東京都環境局
5	東京いきもの台帳・植物専門調査について	内野 秀重	東京都立大学牧野標本館
6	意見交換会		
7	講評	アドバイザー	
8	閉会挨拶	松井 映樹	神代植物公園 園長

表14 情報連絡会（島嶼部）次第（令和6年度）

敬称略

1	開会挨拶	松浦 光明	東京都西部公園緑地事務所工事課長
		遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
2	アドバイザー紹介	遊川 知久	国立科学博物館筑波実験植物園
		加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館
		藤田 卓	公益財団法人日本自然保護協会
		田中 利彦	神代植物公園植物多様性センター
4	東京都レッドリスト（島しょ部）改定の取組について	上中 章雄	東京都環境局自然環境部計画課
		照沼 愛	東京都環境局自然環境部計画課
		三坂 秀樹	東京都環境局自然環境部計画課
5	東京いきもの台帳・植物専門調査について	加藤 英寿	東京都立大学牧野標本館
6	植物多様性保全に関する島嶼部からの活動報告	上條 隆志	筑波大学大学院生命環境科学研究科
7	ポスターセッション		
8	講評	アドバイザー	
9	閉会挨拶	松井 映樹	神代植物公園 園長

表15 情報連絡会の参加者数（令和6年度）

区分	開催日	参加者数		
		保全団体等	オブザーバー	事務局等
本土部	1月25日	34	22	2
島嶼部	2月1日	23	10	3



写真9 情報連絡会・本土部（令和5年度）



写真10 情報連絡会・島嶼部（令和6年度）

3 ホームページの「お知らせ」

植物多様性センターでは毎週1回、ホームページの「お知らせ」を更新し、見ごろの植物を紹介している。令和5年度の「お知らせ」のタイトルを、表16に示した。なお令和6年度からのホームページのリニューアルに伴い、今後新規コーナーで見ごろの植物を紹介予定である。「お知らせ」での見ごろの植物の紹介は、2月9日の更新を最後とした。

表16 ホームページの「お知らせ」タイトル

No.	更新日	題	No.	更新日	題
1	4月7日	学習園のイヌノフグリの仲間たち	24	9月15日	マルバヌスビトハギ
2	4月14日	スズメノヤリの仲間	25	9月22日	ガガイモの花その2
3	4月21日	アオギリの紅葉？	26	9月29日	イヌハギ
4	4月28日	スイバの花	27	10月6日	幼虫フェスティバル
5	5月5日	エノキの果実？	28	10月13日	レモンエゴマ
6	5月12日	発芽した苗のかたち	29	10月20日	メナモミ
7	5月19日	キシウブの難除去性	30	10月27日	オニユリとコオニユリ
8	5月26日	4種のチビタマムシ	31	11月3日	アカバナの変わった果実
9	6月2日	3羽のエンドウマメ	32	11月10日	虫こぶいろいろ
10	6月9日	ミヤマハハソ	33	11月17日	アザミの花の仕組み
11	6月16日	改めて観察するネジバナ	34	11月24日	シロダモの花
12	6月23日	ヤマとホタルの間には、、、	35	12月1日	黒い果実とその理由
13	6月30日	アオノクマタケラン	36	12月8日	ヤブタバコとコヤブタバコ
14	7月7日	ハムシの多様性	37	12月15日	ついに割れたガガイモの果実
15	7月14日	名前から観察するハキダメギク	38	12月22日	フユシヤクの季節
16	7月21日	ヤマニガナ	39	12月29日	果実と野鳥たち
17	7月28日	ワレモコウの花	40	1月5日	シイとカシの冬芽
18	8月4日	ヤマアジサイその後	41	1月12日	ナガバジャノヒゲの種子
19	8月11日	コモチマンネングサのこども	42	1月19日	学習園の地衣類
20	8月18日	ナベナの戦略	43	1月26日	カンガレイの一年
21	8月25日	ひっそりヒメシロアサザ	44	2月2日	学習園のロゼット
22	9月1日	チョッキリとゾウムシ	45	2月9日	カンアオイの歴史
23	9月8日	フジバカマとヒヨドリバナ			



図1 4月28日更新・スイバの花



図2 12月29日更新・果実と野鳥たち

4 ホームページのコラム

植物多様性センターのホームページのリニューアルに伴い、「お知らせ」での見ごろの植物の紹介を終了し、令和6年4月より「植物多様性センターコラム」を開始し、毎月1回更新した。令和6年度の「植物多様性センターコラム」のタイトルを、表17に示した。

表17 「植物多様性センターコラム」タイトル

No.	更新日	タイトル
1	4月4日	身近なツクシ その正体とは？
2	5月20日	ムラサキ科の花の不思議
3	6月27日	スミレたちの大変身！
4	7月24日	幻のガガブタ
5	8月28日	学習園ハムシいろいろ
6	9月16日	フジバカマの災難
7	10月25日	学習園で越冬するトンボたち
8	11月17日	ひつつき虫とその正体
9	12月16日	学習園の冬の虫こぶ
10	1月15日	ヤブツバキ 冬に咲かせるその理由
11	2月14日	学習園のロゼットの毛
12	3月13日	ヒナワチガイソウの生活史

IV. 植物多様性に関する教育・普及の取り組み

1 エントランス展示

植物多様性センターでは情報館内のエントランス展示を、年に数回更新している。令和5年度・6年度のエントランス展示の実施概要を、表18～表19に示した。

表18 エントランス展示の実施概要（令和5年度）

期間	タイトル
4月4日～6月4日	単子葉類サトイモ科テンナンショウ属
6月6日～7月13日	花とみつばち
7月16日～9月30日	植物・動物 観察レポートをつくろう！
10月1日～12月2日	つながる！絵本と外
12月3日～3月3日	擬態を見破れ！
3月5日～3月31日	コケを楽しもう～入門編～

表19 エントランス展示の実施概要（令和6年度）

期間	タイトル
4月10日～12月8日	超入門 スゲを見分けよう！
7月20日～9月29日	観察レポートをつくろう！
10月6日～2月27日	植物の広がり方
11月6日～令和7年度継続	知るほど楽しい！生物多様性
12月1日～令和7年度継続	復刻！灯台下暗し！イネ科植物
2月27日～令和7年度継続	無菌培養の世界



写真11 擬態を見破れ！（令和5年度）



写真12 知るほど楽しい！生物多様性（令和6年度）

2 ガイドツアーの回数と参加者

植物多様性センターでは毎週土曜日・日曜日に、来園者を対象としたガイドツアーを実施してきた。新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）の感染拡大防止のため、令和2年3月以降は中止と再開を繰り返していたが、令和4年6月より原則毎月第2・第4日曜日の開催として再開し、令和5年6月より原則8月と1月を除く毎日曜日の開催とした。令和5年度・6年度の実施回数と参加人数を、表20～表21に示した。

表20 ガイドツアーの実施状況（令和5年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	2	1	3	3	－	4	5	4	4	－	3	5	34
参加人数	20	10	11	10	－	22	32	38	20	－	27	36	226

表21 ガイドツアーの実施状況（令和6年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	3	4	4	3	－	4	2	3	3	－	3	4	33
参加人数	37	35	28	10	－	25	23	29	29	－	30	45	291

3 団体ガイド

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、団体ガイドを実施している。令和5年度・6年度の実施状況を、表22～表23に示した。

表22 団体ガイドの実施状況（令和5年度）

No.	実施日	団体名	参加人数
1	5月28日	樹木医第31期会	12
2	6月10日	府中市環境政策課	14
3	6月13日	小金井公園「樹木の会」	16
4	9月30日	神代植物公園本園ボランティア	12
5	3月28日	アダチハッピーハニー	12
計			66

表23 団体ガイドの実施状況（令和6年度）

No.	実施日	団体名	参加人数
1	6月15日	神代植物公園ガイドボランティア	8
2	11月30日	三鷹・調布自然観察会	11
計			19



写真13 アダチハッピーハニー（令和5年度）



写真14 三鷹・調布自然観察会（令和6年度）

4 植物多様性に関する講座

植物多様性センターでは植物や生物多様性に関する講座を、事前申し込み制で実施している。令和5年度・6年度の実施状況を、表24～表26に示した。

令和5年度は4月22日に開催した「テンナンショウ、ショクダイオオコンニャク、サトイモ科驚異の世界」は、東京大学名誉教授の邑田仁氏を講師としてお招きし、参加者定員を増やして神代植物公園本園大集会室で開催した。また7月2日に開催した第15回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウムは、ラン懇話会との共催により実施した。

令和6年度は7月21日に第16回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウムを、前年度と同様ラン懇話会との共催により開催した。新たな試みとしてオンラインとのハイブリッド形式により開催し、オンラインで16人の参加があった。また10月27日と11月10日に開催した「植物標本をもっとつくろう！」は、東京都立大学牧野標本館ハーバリウムスタジオとの合同開催で2回連続の講座とし、10月27日の第1回講座は植物多様性センター、11月10日の第2回講座は東京都立大学牧野標本館を会場として実施した。

表24 植物多様性に関する講座の実施状況（令和5年度）（1/2）

敬称略

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	4月22日	13:30～15:30	テンナンショウ、ショクダイオオコンニャク、サトイモ科驚異の世界	邑田 仁	64
2	5月14日	13:30～15:30	初めてさんのためのスゲ超入門	センター職員	14
3	6月4日	10:00～12:00	親子で養蜂家体験 ミツバチとともだちになろう！	杉沼えりか センター職員	11
4	7月2日	10:30～16:30	第15回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム	山崎 旬 三瀬 章裕 新井 二郎 石橋 正行	51

表25 植物多様性に関する講座の実施状況（令和5年度）（2/2）

敬称略

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
5	7月15日	18:00～20:00	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	石川 和宏 センター職員	31
6	8月27日	13:30～15:00	スライドショーで楽しむガイドツアースペシャル2023夏	センター職員	26
7	10月7日	13:30～15:30	ミツバチの蜜源植物を育てよう！	杉沼えりか センター職員	30
8	1月14日	13:30～15:30	スライドショーで楽しむガイドツアースペシャル2024冬	センター職員	33
合計					260

表26 植物多様性に関する講座の実施状況（令和6年度）

敬称略

No.	実施日	時間	題	講師	参加人数
1	4月28日	13:30～16:00	植物図鑑を使いこなそう！	センター職員	22
2	7月21日	10:30～16:30	第16回「みんなで守ろう日本の野生ラン」シンポジウム	蘭光 健人 長澤 淳一 瀬戸 美文 上條 隆志	52(現地 36、オン ライン16)
3	8月3日	18:00～20:00	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	石川 和宏 センター職員	22
4	8月25日	13:30～15:30	スライドショーで楽しむガイドツアースペシャル2024夏	センター職員	19
5	9月22日	13:30～15:30	植物とミツバチの科学	杉沼えりか センター職員	26
6	10月20日	13:30～15:30	新宿御苑とその役割	関 勝雄	29
7	10月27日	13:30～15:30	植物標本をもっとつくろう！（1）	加藤 英寿	19
8	11月10日	13:30～15:30	植物標本をもっとつくろう！（2）	加藤 英寿	17
9	12月8日	13:30～15:30	植物図鑑を使いこなそう！冬編	センター職員	20
10	1月19日	13:30～15:30	樹木医と学ぶ冬の樹木	センター職員	19
11	2月16日	13:30～15:30	芝生でロゼット観察	センター職員	19
合計					212

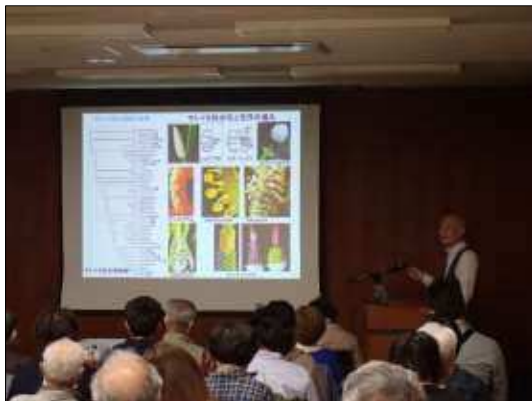


写真15 テンナンショウ、ショクダイオオコンニャク、サトイモ科驚異の世界（令和5年度）



写真16 植物標本をもっとつくろう！（令和6年度）

5 植物多様性センター外部の展示

植物多様性センターでは生物多様性保全の普及を目的として、他の公園・植物園等においてパネル等の展示を実施している。令和5年度は、令和4年度末に完成した『開設10周年記念誌 神代植物公園植物多様性センター ガイドブック』を、10か所の公園で展示していただいた。実施状況を表27に示した。

表27 外部展示の実施状況

No.	期間	場所	No.	期間	場所
1	10月25日～3月31日	赤塚公園	6	10月25日～3月31日	東大和南公園
2	10月25日～3月31日	石神井公園	7	10月25日～3月31日	武蔵野中央公園
3	10月25日～3月31日	小山内裏公園	8	10月25日～3月31日	殿ヶ谷戸庭園
4	10月25日～3月31日	小山田緑地	9	10月25日～3月31日	六義園
5	10月25日～3月31日	汐入公園	10	10月25日～3月31日	小峰公園



写真17 開設10周年記念誌



写真18 小峰公園における展示

6 植物多様性センター外部の講座

植物多様性センターでは植物保全や生物多様性保全の普及を目的として、依頼に応じて外部での講座を実施している。講師は植物多様性センター職員が担当した。令和5年度・6年度の実施状況を、表28～表29に示した。

表28 外部での講座の実施状況（令和5年度）

No.	実施日	参加人数	題	場所
1	10月21日	12	都立公園における生物多様性保全の取り組み	舎人公園
2	3月17日	20	春の植物観察会	小山内裏公園

表29 外部での講座の実施状況（令和6年度）

No.	実施日	参加人数	題	場所
1	9月21日	20	初秋の植物観察会	小山内裏公園



写真19 舎人公園での講座の実施（令和5年度）



写真20 小山内裏公園での講座の実施（令和6年度）

7 学習プログラム

植物多様性センターでは原則1か月に2団体を上限として、学校や各種団体向けに植物をテーマとした学習プログラムを、セミナールームでの室内講義と学習園での観察や実習を組み合わせた形式で実施している。また大学や専門学校からのインターンシップについても、学習プログラムの一環として受け入れている。講師は植物多様性センター職員が担当した。令和5年度・6年度の実施状況を、表30～表32に示した。

令和5年度にはNHKの主催、植物多様性センターの共催で、ドラマ「らんまん」にちなんだ「植物おもしろっ！牧野富太郎に学ぶ草花観察ワークショップ」を、ドラマで植物画の指導をされた画家の方を講師に迎えて開催した。

表30 学習プログラム実施状況（令和5年度）

No.	実施月	団体名	人数
1	4	調布市立北ノ台小学校4年生	92
2	4	駒沢女子大学インターンシップ	1
3	5	調布市立北ノ台小学校4年生	30
4	5	三鷹市立大沢台小学校1年生	64
5	5	東京ネイチャーアカデミー	15
6	6	東京都立大学プレミアムカレッジ	24
7	6	調布市立北ノ台小学校4年生	94
8	6	東京農業大学インターンシップ	1
9	7	調布市立北ノ台小学校4年生	30
10	9	東京都立大学インターンシップ	2
11	9	帝京科学大学学芸員実習	9
12	11	工学院大学インターンシップ	1
13	11	調布市立北ノ台小学校4年生	118
14	2	調布市立北ノ台小学校4年生	120
15	3	植物おもしろっ！牧野富太郎に学ぶ草花観察ワークショップ（主催NHK）	62
合計			663

表31 学習プログラム実施状況（令和6年度）（1/2）

No.	実施月	団体名	人数
1	5	調布市立北ノ台小学校4年生	142
2	5	豊川市立小坂井中学校	36
3	5	東京都立大学プレミアムカレッジ	21
4	5	調布市立柏野小学校	33
5	6	調布市立柏野小学校	64
6	6	調布市立北ノ台小学校4年生	57
7	7	調布市立北ノ台小学校4年生	84
8	7	東京ネイチャーアカデミー	23
9	8	東京農業大学地域環境科学部	2
10	8	東京都立大学人文社会学部	1
11	8	東京都立大学システムデザイン学部	1
12	9	国分寺市環境ひろば	9

表32 学習プログラム実施状況（令和6年度）（2/2）

No.	実施月	団体名	人数
13	9	東京農業大学地域環境科学部	1
14	9	帝京科学大学学芸員実習	12
15	9	東京農業大学地域環境科学部	1
16	9	東京農業大学農学部	1
17	11	ID学園高等学校	13
18	11	調布市立北ノ台小学校4年生	136
19	2	調布市立北ノ台小学校4年生	132
合計			769



写真21 帝京科学大学学芸員実習（令和5年度）



写真22 調布市立北ノ台小学校4年生（令和6年度）

8 チルドレンズミュージアム

植物多様性センターでは教育・普及に関する取り組みの対象層の拡大、及び利用者層の一層の拡充を目的として、特に乳幼児を連れたファミリー層をはじめとする家族連れや低年齢層者が利用できる場を提供し、植物を楽しみ親しんでもらうことができるよう、“チルドレンズミュージアム”を令和5年度より開始した。

具体的には情報館内に、ハンズオン展示を設置した「チルドレンズミュージアム・コーナー」や子ども向け図書を集めた「えほんコーナー」を設けるとともに、セルフガイドシートの配布やミニイベントを開催した。また前述した講座についても、「親子で養蜂家体験 ミツバチとともだちになろう！」等の対象が子どもや親子連れである企画は、チルドレンズミュージアムの一環として実施した。令和5年度・6年度の実施状況を、表33～表34に示した。

表33 チルドレンズミュージアム実施状況（令和5年度）

No.	実施日	題	参加人数
1	5月10日～5月31日	植物クイズ「すげースゲクイズ！」	—
2	5月17日	自然発見ビンゴ	64
3	6月1日～9月30日	植物クイズ「探検！シダクイズ！」	—
4	6月4日	親子で養蜂家体験 ミツバチとともにだちになろう！	11
5	7月15日	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	31
6	7月19日～9月30日	植物・動物 観察レポートをつくろう！	151
7	10月1日～11月30日	植物クイズ「秋のきののみクイズ！」	—
8	10月7日	ミツバチの蜜源植物を育てよう！	30
9	10月28日	ミニイベント「どんぐりクラフト①」	11
10	12月1日～3月2日	植物クイズ「冬のふゆめクイズ！」	—
11	1月21日	ミニイベント「どんぐりクラフト②」	8

表34 チルドレンズミュージアム実施状況（令和6年度）

No.	実施日	題	参加人数
1	4月2日～6月30日	植物クイズ「すげースゲクイズ！」	—
2	7月2日～8月31日	植物クイズ「夏の葉っぱクイズ！」	—
3	7月2日～8月31日	植物クイズ「夏のシダクイズ！」	—
4	7月20日～9月29日	植物・動物 観察レポートをつくろう！	91
5	8月3日	ようこそ！夜の植物多様性センターへ	22
6	9月22日	植物とミツバチの科学	26
7	10月1日～11月30日	植物クイズ「秋のきののみクイズ！」	—
8	11月16日	ミニイベント「どんぐりクラフト①」	7
9	12月25日～2月28日	植物クイズ「冬のふゆめクイズ！」	—
10	2月15日	ミニイベント「どんぐりクラフト②」	22
11	2月18日	落ち葉プール	46
12	2月20日	落ち葉プール	69
13	2月27日	落ち葉プール	16



写真23 どんぐりクラフト（令和5年度）



写真24 落ち葉プール（令和6年度）

9 学習園植栽植物

令和5年度・6年度に来園者の観察・学習を目的として、温室やバックヤードから学習園に植栽した植物の一覧を、表35～表42に示した。

表35 学習園植栽植物一覧（令和5年度）（1/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
4	イヌゴマ	武蔵野	池周り
	オニヤブソテツ	管理	伊豆極相林
	オニユリ	武蔵野	池周り
	カラスザンショウ	武蔵野	礫地
	ギョウギシバ	武蔵野	礫地
	コクサギ	武蔵野	池周り
	ハマナデシコ	伊豆諸島	海岸岩地
	ハマボス	伊豆諸島	海岸岩地
	ヤナギイチゴ	管理	伊豆極相林
5	イヌハギ	武蔵野	礫地
	ウリノキ	武蔵野	池周り
	カワラヨモギ	武蔵野	礫地
	ギョウギシバ	武蔵野	礫地
	クコ	武蔵野	低木
	シャシャンボ	武蔵野	低木
	タンキリマメ	武蔵野	礫地
	ボタンボウフウ	管理	伊豆極相林
	ワダン	管理	伊豆極相林
6	オオバヤシャブシ	伊豆諸島	火山性草地
	オミナエシ	武蔵野	高茎草地
	シマホタルブクロ	管理	伊豆極相林
	タンキリマメ	伊豆諸島	海岸砂地

表36 学習園植栽植物一覧（令和5年度）（2/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
6	ツリガネニンジン	武蔵野	低茎草地
	ヒガンバナ	武蔵野	高茎草地
	ホタルブクロ	武蔵野	高茎草地
	ムラサキ	武蔵野	高茎草地
7	ムラサキ	武蔵野	高茎草地
8	オミナエシ	武蔵野	高茎草地
	センボンヤリ	管理	奥多摩
	ツリガネニンジン	武蔵野	低茎草地
	ヤブツルアズキ	管理	奥多摩
9	イヌザクラ	管理	旧球根
	オオバヤシャブシ	伊豆諸島	火山性草地
	オミナエシ	武蔵野	高茎草地
	コゴメヤナギ	武蔵野	池周り
	ツリガネニンジン	武蔵野	低茎草地
	ハマサワヒヨドリ	伊豆諸島	海岸岩地
	ヒガンバナ2倍体	武蔵野	池周り
10	アキニレ	武蔵野	礫地
	アキノキリンソウ	奥多摩	四阿周辺
	イズノシマダイモンジソウ	管理	伊豆極相林
	イヨカズラ	伊豆諸島	海岸岩地
	イヨカズラ	管理	伊豆極相林
	カワラノギク	武蔵野	礫地
	クリ	奥多摩	落葉広葉樹林
	ケカモノハシ	伊豆諸島	海岸岩地
	コアゼガヤツリ	奥多摩	四阿周辺
	コシオガマ	奥多摩	四阿周辺
	コバギボウシ	武蔵野	礫地
	コマツナギ	武蔵野	礫地
	センリョウ	管理	伊豆極相林
	ツメレンゲ	武蔵野	池周り
	トダシバ	奥多摩	四阿周辺
	ネズミガヤ	奥多摩	四阿周辺
	ハマヤブマオ	武蔵野	礫地
	ヒメシオン	武蔵野	礫地
	フヨウ	武蔵野	低木
	ホトトギス	奥多摩	四阿周辺
	マルバヌスビトハギ	奥多摩	四阿周辺
	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園

表37 学習園植栽植物一覧（令和5年度）（3/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
10	メガルカヤ	奥多摩	四阿周辺
	メナモミ	伊豆諸島	海岸岩地
	ヤブツルアズキ	奥多摩	四阿周辺
	ヤブハギ	奥多摩	四阿周辺
	ヤマハッカ	奥多摩	四阿周辺
	リンドウ	奥多摩	四阿周辺
11	アカソ	管理	バックヤード
	ウグイスカグラ	管理	バックヤード
	ウグイスカグラ	武蔵野	雑木林
	ウツギ	管理	バックヤード
	ウマノスズクサ	管理	バックヤード
	ウマノスズクサ	管理	フクジュソウ園
	ウマノスズクサ	武蔵野	低茎草地
	ウマノスズクサ	武蔵野	路傍
	オオツクバネウツギ	管理	バックヤード
	カヤ	管理	バックヤード
	カントウヨメナ	武蔵野	礫地
	コツクバネウツギ	管理	バックヤード
	メガルカヤ	武蔵野	礫地
	モクレイシ	武蔵野	礫地
	ヤマウコギ	武蔵野	低木
	ヤマツツジ	管理	バックヤード
12	オカウコギ	管理	バックヤード
	キブシ	管理	バックヤード
	ツボクサ	武蔵野	路傍
	ヒメヘビイチゴ	武蔵野	低茎草地
	フキ	武蔵野	路傍
	ヤブムラサキ	管理	バックヤード
	ヤマツツジ	管理	バックヤード
	ヤマハッカ	管理	フクジュソウ園
	ヤマハッカ	武蔵野	低茎草地
2	アカガシ	武蔵野	雑木林
	イボタノキ	武蔵野	雑木林
	オオバグミ	武蔵野	雑木林
	シラカシ	武蔵野	雑木林
	ツルグミ	武蔵野	低木
	メギ	武蔵野	低木
	モミジイチゴ	武蔵野	低木

表38 学習園植栽植物一覧（令和5年度）（4/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
2	ヤブデマリ	武蔵野	低木
3	ウラジロガシ	武蔵野	雑木林
	オギ	武蔵野	礫地
	クコ	武蔵野	低木
	コムラサキ	武蔵野	池周り
	シバオノエヤナギ	武蔵野	池周り
	シロミノコムラサキ	武蔵野	池周り
	チョウジソウ	武蔵野	池周り
	ハコネウツギ	武蔵野	雑木林
	バッコヤナギ	武蔵野	礫地
	ハマウド	武蔵野	礫地
	ホトトギス	武蔵野	雑木林
	マタタビ	武蔵野	池周り
	ムラサキニガナ	武蔵野	低木

表39 学習園植栽植物一覧（令和6年度）（1/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
4	アツバスマレ	武蔵野	低茎草地
	エビネ	管理	情報館前
	キセルアザミ	武蔵野	低茎草地
	シマタヌキラン	伊豆諸島	火山性草地
	シマホタルブクロ	管理	伊豆極相林
	スマレ	武蔵野	低茎草地
	セイタカヨシ	武蔵野	池回り
	センリョウ	管理	伊豆極相林
	タマシダ	管理	伊豆極相林
	ツルドクダミ	管理	フクジュソウ園
	トウダイグサ	武蔵野	路傍
	ヒナワチガイソウ	管理	フクジュソウ園
	マタタビ	奥多摩	湿生林
	マルバスマレ	武蔵野	低茎草地
	ミゾコウジュ	管理	フクジュソウ園
	ミヤママタタビ	奥多摩	湿生林
	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
	モクレイシ	管理	伊豆極相林
	ラセイタソウ	伊豆諸島	海岸岩地
	ルリソウ	奥多摩	四阿周辺
	ルリソウ	奥多摩	落葉広葉樹林

表40 学習園植栽植物一覧（令和6年度）（2/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
5	カスマグサ	武蔵野	礫地
	カラムシ	管理	伊豆極相林
	コアカソ	武蔵野	低木
	シマノガリヤス	管理	伊豆極相林
	スカシユリ	伊豆諸島	海岸岩地
	スカシユリ	管理	伊豆極相林
	トゲナシサルトリイバラ	管理	伊豆極相林
	ホオズキ	武蔵野	果樹林
	ボタンボウフウ	伊豆諸島	海岸岩地
	ホトトギス	武蔵野	雑木林（温室前）
	ミシマサイコ	武蔵野	礫地
	ムラサキ	武蔵野	高茎草地
	ヨシ	武蔵野	礫地
	アツバスマレ	武蔵野	低茎草地
6	ガガイモ	武蔵野	路傍
	コアカソ	武蔵野	低木
	スマレ	武蔵野	低茎草地
	ツルドクダミ	管理	フクジュソウ園
	ナギナタコウジュ	武蔵野	低木
	マルバヤナギ	武蔵野	礫地
	ムラサキニガナ	武蔵野	低木
	アブラススキ	管理	旧球根
7	オオイヌタデ	武蔵野	路傍
	コマツナギ	武蔵野	低茎草地
	シマキンレイカ	管理	伊豆極相林
	ハマサワヒヨドリ	管理	伊豆極相林
	ハマハタザオ	伊豆諸島	海岸砂地
	ムラサキニガナ	管理	フクジュソウ園
	ヤブザクラ	武蔵野	低木
	オミナエシ	武蔵野	高茎草地
8	ガガイモ	武蔵野	高茎草地
	ガガイモ	武蔵野	路傍
	シバ	管理	芝生広場
	ツリガネニンジン	武蔵野	低茎草地
	ハマサワヒヨドリ	伊豆諸島	海岸岩地
	ハマハタザオ	伊豆諸島	海岸岩地
	オミナエシ	武蔵野	高茎草地
9	カワミドリ	奥多摩	四阿周辺

表41 学習園植栽植物一覧（令和6年度）（3/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
9	コマツナギ	武蔵野	低茎草地
	リンドウ	奥多摩	落葉広葉樹林
10	エイザンスミレ	武蔵野	低茎草地
	ガガイモ	武蔵野	路傍
	コアカソ	管理	旧球根
	スミレ	武蔵野	低茎草地
	ヒルムシロ	管理	屋外水槽
	レモンエゴマ	管理	旧球根
11	アオキ	管理	旧球根（林縁）
	カラムシ	管理	旧球根（林縁）
	カワラノギク	武蔵野	礫地
	ケンポナシ	管理	旧球根（林縁）
	コウヅエビネ	管理	情報館前
	リンドウ	管理	旧球根（林縁）
12	アカバナ	武蔵野	低茎草地
	アブラナ	管理	バックヤード（屋外水槽）
	ガガイモ	管理	フクジュソウ園
	ガガイモ	管理	旧花木園
	キンラン	管理	フクジュソウ園
	コボタンヅル	管理	旧球根（林縁）
	ゼンブクジアザミ	武蔵野	高茎草地
	センリョウ	武蔵野	雑木林
	ノシラン	武蔵野	雑木林
	ホトトギス	管理	旧球根（林縁）
	ムラサキニガナ	管理	旧球根（林縁）
	レモンエゴマ	管理	旧球根（林縁）
1	サクユリ	管理	伊豆極相林
2	カタクリ	武蔵野	雑木林
	セリバオウレン	武蔵野	雑木林
	センブリ	武蔵野	雑木林
	チョウジソウ	武蔵野	雑木林
	ミクラジマトウヒレン	管理	伊豆極相林
	ヤマブキソウ	武蔵野	雑木林
3	アマナ	武蔵野	雑木林
	イチリンソウ	武蔵野	雑木林
	イワタイゲキ	伊豆諸島	海岸岩地
	オオツクバネウツギ	伊豆諸島	海岸岩地
	ゴマノハグサ	管理	バックヤード（屋外水槽）

表42 学習園植栽植物一覧（令和6年度）（4/4）

月	種名	植栽地	
		ゾーン	エリア
3	サギゴケ	武蔵野	低茎草地
	シマホタルブクロ	伊豆諸島	海岸岩地
	シマホタルブクロ	管理	伊豆極相林
	スカシユリ	伊豆諸島	海岸岩地
	チョウジソウ	管理	バックヤード（屋外水槽）
	ニリンソウ	武蔵野	雑木林
	ノリウツギ	管理	伊豆極相林
	ハマナデシコ	伊豆諸島	海岸岩地
	ハマハタザオ	伊豆諸島	海岸岩地
	ハマボッス	伊豆諸島	海岸岩地
	ミゾコウジュ	武蔵野	低茎草地



写真25 アカバナ



写真26 コマツナギ



写真27 シマホタルブクロ



写真28 ムラサキ

V. その他

1 来館者数

令和5年度・6年度及び過去2年間の植物多様性センター内情報館の来館者数を、表43及び図3に示した。来館者数は令和5年度は31,471人、令和6年度は32,788人であった。令和4年度に開設以来最多の35,965人を記録したが、その後やや減少している。

なお平成31年度(2019年度)から令和3年度まで、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止のため、数日から数か月の臨時休園措置を繰り返したが、令和4年度以降は臨時休園措置を行っていない。

表43 情報館来館者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3	0	0	2,298	2,132	1,720	2,796	2,557	3,457	2,418	1,075	0	1,227	19,680
R4	3,497	3,856	2,960	2,144	2,338	2,565	2,680	3,114	2,607	3,132	3,616	3,476	35,985
R5	3,257	3,576	2,618	2,546	2,001	2,262	3,100	2,660	1,989	2,331	2,473	2,658	31,471
R6	3,390	4,120	2,436	1,967	2,132	2,311	2,828	3,161	2,173	2,299	3,174	2,797	32,788



図3 情報館来館者数の推移

令和6年度（2024年度） 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

統括責任者 遠藤 岳生

I. はじめに

令和6年度（2024年度）はコロナ以降、3回目となる「新木場&夢の島わくわくおさんぽアートフェス2024」を新木場・夢の島エリアの会社や団体と協働し、また、レガシー施設のアーチェリー場では連盟、協会その他各種団体との連携により体験イベントを実施したり、夢の島公園内の他施設との連携により「ティラノサウルスレースin夢の島」「ツリークライミング体験会」の実施を行うことで公園全体の新たな魅力発信だけでなく、来園者誘導に繋がった。



写真1・新木場・夢の島わくわくおさんぽアートフェス 2024

・ティラノサウルスレース in 夢の島

植物館では、SNSを充実させつつ、ポップアップ展など閑散期対策を実施したことや江東区観光協会をはじめ他施設のイベント等に積極的に参加しアウトリーチ活動を行い、新規利用層獲得のため小学生から大学生まで学習の場を提供してきたことで、若年層への来館誘導に繋がり、目標入館者数12万人を大きく上回り前年比134.7%の149,777人の来館者数を記録した。

II. 夢の島公園

1. 公園運営

公園の魅力向上につながる事業の一つとして約1か月間回遊型アートイベントを開催した。近隣企業、多種多様な施設などとの連携に加え、協賛金の呼びかけを実施したところ少しずつではあるが賛同して頂く事が出来た。また、参加アーティストからの提案から杉並区高井戸芸術祭とのクロス展示を実施する事が出来た。



写真2 公園内作品展示



写真3 わくわくワークショップのひとコマとアトパト隊記念撮影

広報・PRとしては、各種媒体への事前告知をメールや電話連絡などで行った結果、掲載までの競争が激しい「Web版 美術手帖」への掲載をはじめ「美術展ナビ」「エコチル」「TOKYO ART BEAT」などのメディアの他ラジオなどの媒体でも紹介され、新規利用者への訴求に繋がった。また園内展示作品の見回りなど実施する『アトパト隊』を募集したところ、中学生から高校生、公園内他施設のスタッフなどから応募いただき、アート作品の見回りなどしていただいた。参加者には記念にイラストシールを渡し、裏面QRコードから活動記録を見ていただけるように工夫することで、公園運営の一端を理解していただけるように努めた。

次にレガシー施設のアーチェリー場において、アメニス東部グループで管理している公園で繋がりのある日本ティラノサウルス競技連盟、夢の島公園内各施設との連携により「ティラノサウルスレースin夢の島（競技連盟公認レース）」を開催した。レース参加者のアンケートから23区内だけでなく千葉、神奈川、福島の各県からも参加いただいたことがわかり、新たな公園利用方法を模索しながら「夢の島公園」の認知度の向上・普及につなげることができた。

次に「植物館のある都立公園が行う「園芸SDGs活動」として園芸リサイクルイベント」を継続して実施した。「植物交換会」「中古園芸資材の無料提供」を春と秋の年2回開催を継続して行ってきたことにより、リピーターや新規園芸ファンの獲得に繋が

った。昨年より継続して実施した「プラスチック中古鉢プレゼント」では他施設で不要となった資材を事前に回収（380点）・点検・清掃を行い、希望者に無料で配布し循環の輪を広げる事が出来た。今年度はコンソーシアムが代表企業となっている三郷市立ピアラ



写真4 ティラノサウルスレース
レース後の集合写真と表彰式

シティ交流センターにおいて、出張開催した。参加者の声からもこの取り組みの需要が高いことが分かり、今後も定期開催、出張開催を行いながらモデル化を目指していく予定である。



写真 5 植物交換会と中古園芸資材無料提供のひとこま

維持管理では第五福竜丸展示館近くと照葉樹の森（ブンブスポーツ文化館前）のベンチ野外卓を更新し、来園者に安心して利用できるベンチ、野外卓を提供した。また、一部腐食が進み使いづらいものが発生したため、天板とベンチ部の一部を更新した。

2. 公園維持管理作業

樹木管理では樹木診断結果をもとに訓練場側園路沿いで新江東清掃工場からの高温水配管ルートに近接し、配管等に悪影響が出そうな樹木を中心に、高所作業もしくは高所作業車を使用できないエリアに関してはロープを用い剪定伐採を行い適切な管理を遂行した。

施設管理では、U字溝や集水桝の排水改善をはかり、快適な施設利用に繋げ、第五福竜丸展示館横のトイレについては斜面下にあることから高木の枝が高いところで覆っていることにより樹液等で通路タイルの汚れが目立ってきた為、高圧洗浄機による清掃を臨時で行った。

職員教育では、近年の事故の傾向や事例を検討し、更に様々な機器の使い比べを委託業



写真 6 野外卓更新



写真 7 高所作業車での剪定作業

者とともに実践した。また、職員が各種講習会に積極的に参加し、安全意識のさらなる向上の他、新機種の導入による事故防止に取り組んだ。

また、防災訓練は、公園・植物館・アーチェリー場と連携して実施し、自衛消防隊を設置して、各担当が避難誘導にあたった。アーチェリー場を最終避難所として消火訓練を実施した。また、園内の防災施設点検やトイレ設置訓練を行い、発災時に備え、利用者への安全・安心への取り組みを継続して行った。



写真8 自衛消防訓練及び防災トイレの設置方法確認

3. 公園利用促進事業

アーチェリー場との協働イベントとしてミニアーチェリー体験会やブラインドサッカー体験会を江東区陸上競技場や障害者スポーツ協会と連携し継続して実施した。

また、公園内施設の BunB スポーツ文化館とも連携し「ティラノサウルスレース in 夢の島」として日本ティラノサウルス競技連盟に協力を得て認定レースを実施した。都内だけでなく千葉、神奈川、福島など一度も夢の島に来園されたことの無い方々にも参加していただき、レガシー施設を活用し公園の存在を広くアピールできた。また、「ツリークライミング体験会」も引き続き実施したことで、公園全体の新たな魅力発信だけでなく、来園者誘導に繋がった。



写真9 アーチェリー体験とブラインドサッカー体験



写真 10 ツリークライミング体験会

東京 2020 大会時に夏花（夏に強い花・夏によく咲く花）を彩った夏花花壇は、あらたに「1 Day ボランティア」の活動の一環として継続し、また、10 月以降は都立大江戸高校ボランティア部の生徒、先生方にご協力いただき公園内清掃や花壇管理を実施していただいた。

また、中学生対象の職場体験、大学生対象の学芸員実習、インターンシップの受入れを実施。体を動かして体験をし、植物について目の前で観察しながら学習するなど、学びの場の提供を行った。

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1. 植物館利用と入館者数

R6 年度事業計画では入場者数を 12 万人目標と掲げていた。各種イベント、企画展、ワークショップなど体験型のものを実施したり、恒例の季節イベントも入場制限なしで実施し、夏の夜間開館も通常開催 3 日間と 7 年ぶりの開催規模となった。また、「奄美まつり（我那覇美奈プレゼンツ）」を開催したことや閑散期に新たな取り組みとしてポップアップ展を実施したり、SNS による発信や広報を継続して実施してきたことで若年層への来館誘導が徐々に浸透してきたようで、昨年比 134.7%。14 万 9,777 人となり、アメニス夢の島グループが指定管理を行ってから最多の入館者となった。

また令和 6 年度（2024 年度）も継続して可動式授乳室、おむつ交換台横に回収 BOX を設置するなど快適な利用の提供を行った。さらに女性用トイレブース内に生理用品ディスペンサー「0itr（オイテル）」を新たに設置した。アンケートでも「設置してあることで安心して来館できた」などの声を頂いた。さらに、3 月からのスタートとなったが、授乳室（mamaro）メーカーと花王の企画に応募し、希望者におむつの無料配布（1 つ）を開始した。

その他、コミュニケーションロボットを活用したイベントや SNS の活用を積極的に取り



写真 11 可動式授乳室設置



写真 12 おむつ交換台と回収ボックス

入れ、楽しめる空間、癒しの空間、そして環境問題の提言を含めた、魅力ある施設運営を図った。

2. 植物館維持管理

温室上部のガラスに接触するほど生育したヤシを継続して定期的な樹木点検を実施した。また、株が成長したオウギバショウモドキの整理（間引きなど）や固結した土壌のエアレーション作業などを実施した。さらに景観が一時的に大きく変わる作業（強剪定や草本整理、新規植え付けのための伐根・除草等）は臨時休館中を利用して行った。さらに、新たな取り組みとして「ゴエペルティア（旧学名：カラテア）の世界展」を実施した。ドーム内に植栽されている7種、エントランスからドーム入り口までの通路脇に9種を解説文とともに展示した事で、植物の魅力を伝えることができた。

加えて、数年ぶりに券売所横の「アオノリュウゼツラン」が開花した。今年度は公園内「照葉樹の森」にある株も開花し、夢の島公園内で2株の同時開花が見る事が出来、個人での撮影目的で何度も来館、来園される熱心な方が複数人おられた。

例年、季節になると開花状況などの問い合わせが多いハーブ園にある「ジャカラランダ」も開花し、来館者に喜ばれ、高性能カメラを持った多くの方が撮影されていた。



写真 13 ロープワークによる高所作業



写真 14 ゴエペルティアの世界展



写真 15 ハーブ園横 ジャカラランダ

なお、公式 HP の「現在のみごろの花」にて植物の情報を発信。Facebook では「スタッフのおすすめ」にて植物の情報発信を実施。紹介した植物を目的に来館されたり、電話での問い合わせをされたりなど反響があった。



写真 16 券売所横と公園内のアオノリュウゼツラン

施設設備管理では、7 月に新札発行の対応のため、券売機を新札対応すべく 2 台とも仕様変更した。変更は来館者にご迷惑・ご不便をかけないため、事前の休館日に行った。一方開館より 36 年を迎え老朽化が進む一方、キャッシュレス発券機などの設備もあり、老朽化した施設設備の更新、不具合箇所をの修繕を実施。大規模改修については全く見通せない状況の中、老朽化による不具合箇所（温水漏水などの対応も含む）や施設の長寿命化に向けた部材交換、施設の改善への協議を行った。結果、維持修繕を実施し施設の快適な環境改善を図り、施設の長寿命化、機能の維持、安全性の向上、美観の向上に繋がった。なお、老朽化による突発的な設備の不具合（清掃工場側での温水の漏水など）が発生した際は、冬季であった



写真 17 清掃工場側での高温水の漏水発生



写真 18 栽培温室 B 改修工事（都工事）

為、急遽人員配置をやりくりして、夜間ボイラー監視ができる体制を取り、熱帯植物などへの影響を最小限で抑えることができた。このように、耐用年数・経年劣化・利用者の満

足度と現状を照らし合わせ、補修・修繕工事、緊急対応経費工事はそれぞれの規模・緊急性等にて適切に仕分け対応できた。また、熱供給停止期間が9月から10月であったため、スポットクーラー他冷風扇を設置し、室温の最適化制御を実施した。

職員教育では、外部研修や講座への参加、館内会議で他施設の良い事例や苦情、事故事例の共有、安全衛生推進会議の内容の共有を行った。

また、本部の研修はLive配信やeラーニングを活用した。接遇や安全、個人情報保護法などの研修を行った。さらに、安全パトロールを定期的の実施するだけでなく、安全推進委員が他公園の安全パトロールに参加し、好事例なども共有を図った。また、城東消防署のご協力により「上級救急救命士講習」を実施し、AEDの使用方法、心肺蘇生、気道異物除去などの救命処置、止血法などを実践しながら学習した。



写真 19 上級救急救命講習

3. 植物館利用促進事業

夏には「夜咲く、夜香る植物」の紹介のため閉館時間を20:30まで延長し、「夜間開館2024」を実施した。また、コロナ禍以降実施していなかった「我那覇美奈 Presents 奄美まつり inTokyo～夢の島～」スペシャルライブを開催した。今年は昨年試験的に実施したInstagramでの広告などをしなかった結果、昨年より1日多い状況ではあるが、来館者が集中することなくゆっくり楽しんで頂けた。昨年の2,654人に対し、2,533人の来館があった。



写真 20 夜間開館ドーム外観

カフェスペースでは、新木場エリアの「うみねこ食堂」や奄美料理店の「せえごれ」との協働により飲食の提供を実施した。



写真 21 我那覇美奈 Presents 奄美まつり in Tokyo～夢の島～

ハロウィン時期には、植物館で保有している中で、オバケやコウモリなど関連したものの名前がつき、怖いエピソードを持つ植物を展示。さらに、企画展「熱帯のクリスマス展」も反響が大きく、正月の「干支の植物展」では、毎年楽しみしているというお客様の声に応えることができた。

昨年に続き、企画展「パナマフェア 2024」をパナマ大使館、日本パナマ友好協会との連携により開催した。関連イベントとして実施したオープニングセレモニーでは、駐日パナマ共和国大使館特命全権大使より、感謝の言葉をいただいた。昨年度、カルロス・ペレ前



写真 22 オープニングに来場された大使館・友好協会・友好関係国の大使館のみなさま

大使に絵を手渡した小学生のご家族が来館され、ワルテル・コーエン現全権大使にも習い始めたスペイン語で手紙を手渡し大変喜ばれていた。このセレモニーがご縁で2025 年はエルサルバドル大使館との連携が決定した。



写真 23 大使に手紙を手渡す少女



写真 24 めいぐるみのおとまり会 あずかりの様子



写真 25 めいぐるみのおとまり会 返却時の様子

植物館から飛び出したアウトリーチとして他施設と連携し「めいぐるみおとまり会 夢×チルツアー」を企画した。当社グループで指定管理をしている施設（田園調布せせらぎ館）を受付場所とし、夏休みのこの時期、当館に旅行に行つて植物を学ぶテーマとし、またサウナでリラックスのごとく植物館でチルするめいぐるみ達の様子を想定した。さながらめいぐるみを夢の島熱帯植物館へ旅に出すツアーデスクのように受付を設けた。当館への到着、植物館体験、植物たちとの触れ合い、仲間とのコミュニケーションと様々な場面を撮影した。返却時には撮影した写真をアルバムにして渡し、楽しみながら植物館への関心をもってもらったための内容としている。また、このアルバムの他、公園内の剪定枝で作ったユーカリのヴィヒタ（フィンランド式サウナで使用する白樺の枝を束ねたものを指す）をお土産とした。返却時には「修学旅行に子どもを出している気分。」

「何をしているのか考えた」など感想をいただき、「夢の島熱帯植物館へは行ったことがないので行きたい」の話もあり、高い満足度を提供できた。



写真 26 アクアフェスティバルの様子

さらに江東区観光協会主催の「江東湾岸まつり」をはじめ日比谷アメニスで管理しているイケサンパーク主催の「ファーマーズマーケット」、江東区夢の島競技場主催の「夢の島スポーツマルシェ」、アクアティクスセンター主催の「アクアスポーツフェスティバル」にブース出展や日比谷アメニスや日比谷花壇が管理している江戸川区立総合レクリエーション公園やあけぼの山農業公園においてフラワーアレンジ教室など行いアウトリーチ活動を行った。

D X 推進の一環としては継続して A R アプリ「熱帯植物虫めがね A R」公開し、A R 技術を使って館内の植物解説を楽しめるというもので、カメラを通して温室（ドーム）内に立体映像が浮かびあがる仕組みで約 1400 件を超えるお客様に楽しんで頂いた。また、コミュニケーションロボット unibo を使ってデザイン募集、自己紹介イベント、「ココのゆめねつ植物図鑑～ヤシ編～」を実施した。これはココが学んだ夢の島熱帯植物館にあるヤシについて解説し、関連した内容として絶滅危惧種に関して解説した。その後、質問コーナーを実施した。



写真 27 ココのゆめねつ植物図鑑～ヤシ編

当館の利用者層では少数であった若年層の来館促進のため、昨年より実施している人気若手アーティストの作品展の第2回目を実施。会期中も X や Instagram にて大きな反響が



あり、この展示をきっかけに植物館の存在を初めて知れて良かったという感想が多く寄せられ、植物館の知名度向上に繋がった。

またこの展示のために初めて植物館に来たという方も多く、10～20 代の新規客層の来館誘導に繋がった。

若手作家とのコラボレーション企画の強さを実感した。

写真 28 夢熱×millitsuka POP UP 展

IV. さいごに

令和 6 年度（2024 年度）も、毎月の目標入館者数を設定し、前年比の数字を踏まえた数値分析を行い、閑散期対策などを事務所内で協議し、常に新しいアイデアを計画に移し、実行した。

結果、入館者数が殆どの月で前年を上回ることに成功した。SNS の運用強化や、閑散期対策などによって、これまでの主たる客筋ではなかった 10 代 20 代の集客にも成功し、目標入館者数 12 万人を大きく上回る 149,777 人の来館を達成した。当グループが指定管理を開始してから最多の入館者となった。

今後も各種取り組みにチャレンジしながら、安全・安心に楽しめる施設を目指していく。

ツリーバンク事業について

公園緑地部計画課緑化推進担当

I. 背景

気候変動や感染症の流行を契機に、人々の価値観や都市の機能は変化し、自然環境と都市機能の調和が一層求められている。こうした状況を踏まえ、人々の生活にゆとりと潤いを与える緑の価値を一層高め、都民とともに未来に継承していくため、100年先を見据えた新たな緑のプロジェクト「東京グリーンビズ」を令和5年7月に始動した。

「東京グリーンビズ」は、東京の緑を「まもる」「育てる」「活かす」観点からこれまでの緑に関する取組を強化している。その中の「まもる」観点での取組の一つとして、令和6年（2024年）1月より「ツリーバンク」の運用を開始した。

II. ツリーバンクとは

（1）概要

ツリーバンクは、公園で育ち、親しまれてきた樹木を残す新たな仕組みとして、移植が必要な樹木を受入・保管し、新たな公園等の整備で活用する取組であり、公園等で育ち、親しまれてきた樹木を新たな場所へ移植することで、後世へと引き継いでいくものである。

具体的には、都立公園（建設局）及び海上公園（港湾局）の整備で移植が必要な樹木を一時的に受入・保管し、都立公園のバリアフリー化等の機能更新や海上公園の整備で活用するほか、区市町村立公園の整備や都市開発諸制度等を適用する案件においても、ツリーバンクの樹木の活用を検討するとしている。

また、移植の際には必要に応じて樹木医等の専門家の意見を聴取して行くこととしている。



出展：東京の緑の取組み ver. 2

（TOKYO GREEN BIZ）令和6（2024）年1月発行

P17 より抜粋

(2) 取組内容

①受入樹木の条件

ツリーバンクに受入れる樹木の条件として以下を規定している。

- ・道路法に基づく車両の一般制限値以内の車両で運搬可能なもの
(一般的制限値：全長12m、高さ3.8m、幅2.5m、積載幅3.0m)
- ・移植に適した樹勢のもの
- ・病虫害におかされていないもの

なお、保管期間は原則として受入後3年以内としている。また、受入に必要な工事は事業者の費用負担のうえ実施する。

③受入場所

令和6年1月の運用開始以降は、神代植物公園の用地で受入を行っている。

③受入後の対応

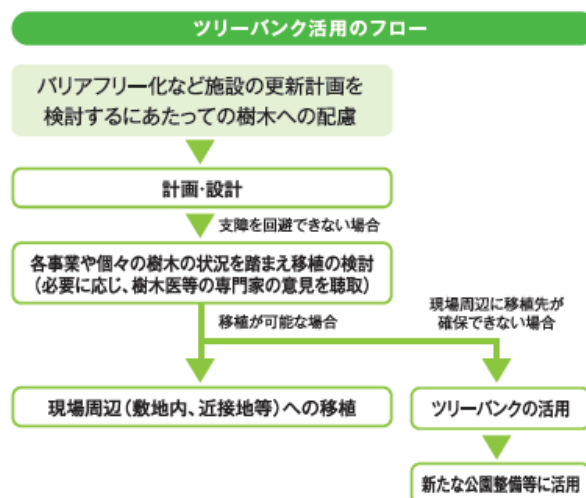
保管期間中の樹木の管理は都が実施する。

受入樹木は区市町村立公園の整備や民間事業者による緑地整備への活用も促進するため、樹種、寸法（樹高、幹周）等の情報を建設局のホームページに掲載している。

なお、区市町村立公園の整備や民間事業者による緑地整備へ払出す樹木は有償（樹木により価格は異なる）になり、払出しに必要な工事・運搬は各事業者が費用負担のうえ実施する。また、第三者への転売や個人への払い出しは行えない。

④令和6年度末の状況

令和7年（2025年）3月末現在、4本の樹木がツリーバンクで保管されている。このうち、イロハモミジ1本においては令和7年度中の払出を予定している。



出展：東京の緑の取組み ver.3

2 (TOKYO GREEN BIZ) 令和7（2025）年1月発行

P14 より抜粋

ニューヨーク市及び米国への桜の寄贈について

建設局公園緑地部計画課緑化推進担当

統括課長代理 野口 昌一

I. はじめに

ニューヨーク市は、東京都にとって最初の姉妹友好都市であり、これまで芸術や文化をはじめ幅広い交流を繰り広げ、友好を重ねてきた。2025年はニューヨーク市との姉妹都市提携が65周年を迎えることから、これを記念し、友好の証として同市に東京都にゆかりのある桜を寄贈することとなった。

また、日本政府は2026年に米国が建国250周年を迎えることから、米国の一層の発展を祈念し、ワシントンD.C.のポトマック河畔に桜を寄贈することとなった。ポトマック河畔の桜は、かつて東京市が1912年に日米友好の証として寄贈したことが由来となり、現在は桜の名所として米国民に認知され、愛着を持たれているものであり、日本政府の寄贈にあわせて、都としても協力することとし、東京都にゆかりのある桜を寄贈した。

本稿では、ニューヨーク市及び米国への桜の寄贈についての取組等を記録し、報告するものである。

II. 桜の寄贈方法と種類の選定

今回の寄贈にあたり桜の送付方法として、①苗木の送付、②穂木の送付、③台木用の種子と穂木の送付、④種子の送付、など様々な方法を検討した。直近の事例では2013年にニューヨーク市へ日本三大桜のひとつ「三春滝桜」の種子を寄贈し、アメリカ農務省の検疫センターで2年間の隔離栽培の後、ニューヨーク市の苗圃へ仮移植のうえ、現地に植樹された実績がある。

米国は、一般的な制限としてカナダ・オランダ以外の国からの桜の苗木の輸入を原則禁止している。特別な許可を得て苗木の輸入が許可された場合でも、土が付着している状態での輸入はできない。なお、一般的に許容されている木本植物の種子の輸入は、カナダを除くすべての国からのサクラの特定の種類に限定されている。

このため、米国の輸入検疫について、米国農務省国際動植物検疫課（USDA APHIS）の植栽用植物マニュアル（Plants For Planting Manual）や、そこからリンクしている「植栽のための植物のリスト」（ACIR Plants for Planting tile）のページ等で、農産物輸入要件について動植物衛生検査サービスを利用して具体的な樹種や輸入条件等の確認を行った（USDA ACIR document の Commodity Import Requirements）。また、「三春滝桜」の種子寄贈に当時大きく寄与していた米国農務省海外農務局国際動植物検疫課在日米国・大使館へも問合せを行い助言等頂いた。

これらの確認の結果、輸入許可されている桜の種子に「*Prunus yedoensis*」（ソメイヨ

シノ)系の種子が該当していることが分かった。

また、東京にゆかりのある桜としては、都立公園との関係性を重視し、都立神代植物公園で発見され、1991年に新品種登録されたジンダイアケボノを選定することとした。ジンダイアケボノは、様々な点でソメイヨシノに類似しており、ソメイヨシノが罹患するてんぐ巢病にも強く、輸入許可されている桜の種類のひとつであることから、寄贈する桜としても相応しいと考えた。さらに寄贈方法は検疫上も問題のない種子を送付することで調整を進めることとなった。

なお、ジンダイアケボノ(和名)の学名は「『*Prunus*×*yedoensis* Matsum. cv. Jindai-akebono Hayashi et Nishida cv. nov.』というソメイヨシノ系の品種であり、ソメイヨシノと同じ親木であるオオシマザクラとエドヒガンの交配種で、開花はソメイヨシノとほぼ同じ3月下旬から4月上旬。咲き始めはソメイヨシノよりやや早い、開花期はほぼ重なり、花は一ヶ所にかたまって咲き、開花時にはほとんど若葉は出ていない。散形花序をなす花は三〜五個(四〜五個が最も多い)で、花色は淡紅色でソメイヨシノに類似しているが、ソメイヨシノよりはやや小形で、中輪、一重咲き。花卉の先の方が紅色が濃く、全般の淡紅色はソメイヨシノよりやや濃く、花色が長く色あせず保つ特性がある。」¹⁾



写真1 ジンダイアケボノ

提供:(公財)日本花の会

なお、公益財団法人日本花の会では、ソメイヨシノに代わる桜として2005年から積極的に配布中で、現在までに約8万5千本が全国に配布・販売されており、今ではソメイヨシノの配布はしていない。

一方、米国(ワシントンD.C.ポトマック河畔)へ寄贈する桜については、令和6年4月10日に当時の岸田総理大臣が訪米した際に、日米友好の象徴となっているポトマック河畔の桜について、近く米国が迎える建国250周年を記念し、250本の桜を新たに寄贈することを決めた旨発表した。同月12日には、小池知事が定例記者会見で、都としてもこの桜寄贈に協力していくことを発表した。以降、実務者レベルで外務省と具体的な寄贈内容について調整していくこととなった。同年6月6日、全米さくらの女王の表敬訪問を受けた岸田総理大臣は、ワシントン、ニューヨークで、わが国の桜が一層楽しめるように東京都とも連携をしながら取組を進め、日米のきずなをより強くしていきたい旨発言した。

寄贈内容の調整においては、現地で多くを占める品種で、かつ、開花期が同時期となるよう、現地施設を管理している米国国立公園局から国を通じてソメイヨシノの苗木を希望されたが、ソメイヨシノにごく近い品種で開花期も大きく異なることや、病害虫にも強く東京に大変ゆかりのある桜であること等から、ジンダイアケボノの寄贈を米国側へ打

診した。また、併せて寄贈方法についても、日本国内で調達した苗木を送付する方法と、米国内で種子から育成した苗木を寄贈する方法とを提示した。

その後、米国国立公園局から、植栽する桜はソメイヨシノ単一種ではなく多様な種類の桜とすることが望ましい、との見解が示され、ジンダイアケボノを寄贈品種とすることとなった。

その他内容の詳細としては、日本政府が寄贈する 250 本に加えて、都から 10 本を寄贈することとしたほか、その寄贈方法は日米政府間での調整により日本政府が寄贈するソメイヨシノと同様に苗木を寄贈することになった。

Ⅲ. 寄贈種子の採取と保存

寄贈する桜が、東京にゆかりがあり、都立公園との関係性を重視し、都立神代植物公園で発見され、新品種登録されたジンダイアケボノと選定されたことから、指定管理者である公益財団法人東京都公園協会の協力により、神代植物公園内に残る原木（写真2）と、園内で成長した若木の各々から落果した種子を採取した。

なお、種子の採取方法から保存、管理方法に至るまで、すべて（公財）日本花の会結城農場の技術協力により実施した。

種子の採取方法は、採取する樹木の下にネット等を敷き詰め（写真3）、果肉が黒色になるまで完全に成熟した後自然落果した種子を拾い集めるというものであった。未熟果実では播種後の発芽率が悪いため、完熟するまで待つ必要があり、枝に着果した状態の種子の採取は行っていない。採取した種子は、翌年の早春（霜が少なくなった3月上旬）が播種の適期であることから、それまで保存しておく必要がある。このため、発芽の阻害・腐食の原因となる果肉はすべて水で洗い落とし（写真4）、その後乾燥させる必要がある。その際に消毒等の処置は一切していない。

なお、保存方法は、乾燥させた種子を砂と混ぜて、土の中に埋めておくことが理想的であるが、ビニール袋に入れ冷蔵庫で保管しても問題ないとのことから、輸出直前まで冷蔵



写真2 ジンダイアケボノ（原木）



写真3 採取状況

庫にて保管することとした。

冷蔵庫での保管にあたっては、保存温度を 5℃以下に保つことが理想であるとのことであったが、都立公園内に専用の冷蔵設備がないことから、公益財団法人東京都農林水産振興財団農林総合研究センター園芸技術科の協力により、同センター内の専用冷蔵庫で採取した種子を保管してもらえることとなった（写真 5、6）（なお、種子を預かってもらった農林総合研究センターの冷蔵庫は老朽化のため撤去予定とのことであった）。



写真 4 果肉落とし状況



写真 5 冷蔵庫（外観）



写真 6 冷蔵保存状況

Ⅳ. ニューヨーク市及び米国への寄贈に向けて

1. ニューヨーク市との調整内容

ニューヨーク市との調整は、まず都の政策企画局外務部事業課より、東京都からニューヨーク市へ桜を寄贈したいという主旨の連絡から始まった。その後、ニューヨーク市庁内での所管部署調整を経て、市からの要請を受け 2024 年 6 月 27 日に第 1 回目のオンライン会議を実施した。この会議では、寄贈の目的や寄贈する桜の品種、寄贈内容（資料では種子で 50 粒。オンライン会議中に 100 粒に変更）、送付時期について打合せを行い、双方とも基本合意に達した。このほかにも、寄贈した種子をニューヨーク市の施設で苗木に育成すること、また、ニューヨーク市が植栽場所を特定することについても合意した。

その後、2024 年 10 月 3 日に第 2 回目のオンライン会議を実施した。当初ニューヨーク市は、自前で種を育成し苗木にする予定であったが、育成のノウハウや育成場所の問題等から、栽培・育成を外部へ委託することとし、第 2 回目のオンライン会議までの間に受託

検査から許可取得までの日数、検査内容等について事前確認を行った。

なお、今回の輸入にあたっての IP は、2024 年 11 月 5 日付で許可が発行されたが、都に届いたのは 2024 年の 12 月であった。さらに、第 1 回目のオンライン会議の際、寄贈数量が 50 粒から 100 粒に変更されていたが、送付されてきた輸入許可証は、1 パッケージあたり単一種類で 50 粒以下、または 1 パッケージ当たり最大重量 10 g 以下の少量の輸入品に出される特別な許可証であった。送付されたこの許可証の内容について、横浜植物防疫所、及び米国農務省海外農務局国際動植物検疫課在日米国・大使館にも協力を頂き許可内容の確認を取ったが、送付された IP では 100 粒の輸入ができないことを確認した。

そこで、100 粒の種子が輸入できる許可証の取得をニューヨーク市側へ依頼したが、種子を送付するリミットまでに残された時間がなくなって来ていたことや、当初の 50 粒で発芽等が見込めないときはさらに 50 粒の追加許可を取得することを条件に、当初取得した少量の許可証に基づき 50 粒を先行して送付することで決着した。

このこともあってか、G/Y は 2025 年の 2 月になってから日本側に送付された。ただし、この IP は、農林水産省横浜植物防疫所により通常実施が必要となる輸出検査や検疫証明書の発行が不要となる許可証であったため、輸出手続きが多少なりとも軽減され、輸出に向けた準備の時間短縮には有効であったと思われる。

なお、今回の輸出にあたり植物防疫証明書が不要であることについては、横浜植物防疫所からの勧めもあり、米国農務省（USDA）の問合せフォームに直接何度かメールで問合せも行い、植物防疫証明書が不要であることの確証も得た。

3. ニューヨーク市への輸出に向けて

いよいよ輸出に向けての具体的な準備に取りかかることになった。フライトスケジュール、通関手続き日、荷物の集荷日を決定し、同時に種子採取の 6 月以降、5℃以下で冷蔵保存しておいた種子を、輸出条件である透明なパッケージに入れ（写真 9）、輸入許可書（IP）、荷送状（INVOICE & PACKING LIST）（写真 10）、航空運送状（Air Way bill）（写真 11）を内装し、外装部に G/Y の原本を、破れたり剥がれないよう透明なテープで完全に覆うように貼り付けた。



写真 9 ニューヨーク市へ発送した種子（50 粒）

写真 10 荷送状

(INVOICE & PACKING LIST)

写真 11 航空運送状

(Air Way bill)

なお、荷送状（INVOICE & PACKING LIST）と航空運送状（Air Way bill）各々の写しは、国内の通関手続き後、輸送会社にて外装部に貼り付けをしてもらった。（写真 12）

なお、通関関係の書類の準備、荷物の集荷、並びに日本国内での通関手続きについては、国内の輸送会社に依頼をした（費用は前渡金で対応）。

今回輸入許可されている種子とはいえ、米国輸入時に米国側の検疫を受ける必要があるため、荷物は G/Y に記載の米国内指定の検査場（USDA の植物検査ステーション PIS）へ移動する前に、承認された税関・国境警備局（CBP）の通関手続き地を経由する必要があった。

今回の場合、承認税関（CBP）と、検査ステーション（PIS）が両方ともアトランタ（ジョージア州）に指定されていたため、そちらに荷物を送付した。通関後は荷受人（ニューヨーク市の受注業者が依頼した輸入ブローカー）が PIS で荷物を引き取る段取りとなっており、引き取り後は、ニューヨーク市の受注業者の苗畑（オレゴン州内に立地）へ輸送された。

なお、都の費用負担はアトランタへ送付するまでであり、それ以降に必要な一切の費用はニューヨーク市側の負担という整理であった。



写真 12 ニューヨーク市へ発送した荷物の荷姿

4. 米国（ワシントンD.C.）への輸出に向けて

ワシントン D.C. への輸出準備にあたっては、苗木の確保、梱包作業、現場検疫への対応については、（公財）日本花の会結城農場の全面的な協を得て実施した。現場検疫は、農林水産省横浜植物防疫所東京支所、農林水産省植物防疫課、米国農務省海外農務局国際動植物検疫課在日米国・大使館の各担当者が実際に（公財）日本花の会結城農場の現地に赴き実施した。（写真 13）



写真 13 現場検疫状況

また、発送する荷物に内装する書類や外装の準備、集荷、国内の通関手続きについては、ニューヨーク市へ発送した時と同様に国内の輸送会社へ依頼した。なお、ワシントンへ発送した苗木は、空港到着後すぐに米国農務省植物防疫課（USDA APHIS）が直接、メリーランド州の隔離検疫施設へ輸送し、令和 7 年 3 月現在 2 年間の隔離検疫栽培に入っている。

V. おわりに

今回、ニューヨーク市へ送付した種子が現地の苗圃で播種されてから苗木に育ち、ニューヨーク市内の公園等に植栽されるまでには、数年単位以上の時間が必要である。また、ワシントン D.C. へ送付した苗木は、2 年間の隔離検疫栽培後通関検査を受け、問題がないことが確認されてはじめて、2024 年 5 月から始まっているポトマック河畔の堤防工事等に合わせ植栽される予定である。

寄贈した種子や苗木が実を結び花を咲かせるまでには、現地での本格的な育成はこれからであり、いずれも数年の時間を要することから、今回種子や苗木が発送できたのは最初の一步にすぎない。しかし、これをきっかけにジンダイアケボノが、ニューヨーク市民、ひいては米国国民に末永く愛され、ニューヨーク市や米国と東京都の友好関係が一層深まることを願ってやまない。

最後に、今回の寄贈が多くの関係者の皆様のご支援やご尽力により実現できたことに、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。



写真 14 種子を採取したジンダアケボノ
(都立神代植物公園)

参考（引用）文献

- 1) 日本花の会（1992）：花の友

Ⅲ. 資料編（グリーン・ファイル）

1 東京の道路緑化状況

(1) 東京都の道路緑化状況

(令和6年4月1日現在)

ア. 東京の街路樹規模 (管理者別) 単位: 本

種類	管理者	管理本数合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	24,095	2.4%	18,194	2.9%	5,901	1.6%
都道	東京都知事	645,213	64.5%	401,327	64.2%	243,886	64.9%
区道	特別区長	205,940	20.6%	205,940	32.9%	0	0.0%
市町村道	市町村長	125,735	12.6%	0	0.0%	125,735	33.5%
合 計		1,000,983	100.0%	625,461	100.0%	375,522	100.0%

イ. 東京の道路緑化延長 (管理者別) 単位: km

種類	管理者	緑化延長合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	197	5.3%	157	6.8%	40	2.9%
都道	東京都知事	1,371	37.1%	843	36.6%	529	38.0%
区道	特別区長	1,302	35.3%	1,302	56.6%	0	0.0%
市町村道	市町村長	824	22.3%	0	0.0%	824	59.2%
合 計		3,694	100.0%	2,302	100.0%	1,392	100.0%

*小数第1位を四捨五入した整数値で表記

ウ. 都内の道路緑地規模 (管理者別) 単位: m²

種類	管理者	管理面積合計	%	区部	%	多摩部他	%
一般国道	国土交通大臣	334,504	7.0%	256,817	9.2%	77,687	3.9%
都道	東京都知事	2,300,986	48.1%	1,241,363	44.6%	1,059,623	53.1%
区道	特別区長	1,286,853	26.9%	1,286,853	46.2%	0	0.0%
市町村道	市町村長	859,027	18.0%	0	0.0%	859,027	43.0%
合 計		4,781,370	100.0%	2,785,033	100.0%	1,996,337	100.0%

エ. 東京の道路緑地規模 (緑地区別) 単位: m²

種類	管理者	管理面積合計	%	歩道植樹帯	%	その他道路緑地	%
一般国道	国土交通大臣	334,504	7.0%	202,182	6.8%	132,322	7.4%
都道	東京都知事	2,300,986	48.1%	1,148,204	38.4%	1,152,782	64.5%
区道	特別区長	1,286,853	26.9%	920,266	30.7%	366,587	20.5%
市町村道	市町村長	859,027	18.0%	723,247	24.2%	135,780	7.6%
合 計		4,781,370	100.0%	2,993,899	100.0%	1,787,471	100.0%

*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地 (中央分離帯・交通島など)

オ. 参考表

東京の道路延長及び面積規模 (管理者別) 令和6年4月1日現在

区 分	道路延長 m	%	道路面積 m ²	%
一般国道	248,924	1.0%	7,528,664	3.9%
都道	2,238,452	9.0%	42,038,539	22.0%
区道	10,736,011	43.3%	71,189,264	37.3%
市町村道	11,271,397	45.5%	60,659,765	31.8%
自動車専用道	280,116	1.1%	9,481,032	5.0%
合 計	24,774,900	100.0%	190,897,264	100.0%

※道路率: 都内全域8.7% 区部16.7% 市部9.4% 郡部1.3% 島しょ部1.8%

カ. 東京の街路樹等(高木)規模内訳

令和6年4月1日現在

樹種名		合 計 規 模			地 区 別 規 模 計				都 道					国 道				区 道		市 町 村 道														
		順位	本 数	%	順位	区 部	順位	多摩部他	区 部	多摩部他	順位	合 計	%	区 部	多摩部	順位	合 計	順位	合 計	順位	合 計													
アオギリ		20	4,647	0.46	18	4,190	23	457	2,789	331	12	3,120	0.48	30	0	17	30	20	1,371	25	126													
アキニレ		22	4,175	0.42	20	3,612	20	563	1,035	23	21	1,058	0.16	9	0	20	9	18	2,568	20	540													
イチョウ		2	59,137	5.91	1	37,349	3	21,788	18,869	8,563	1	27,432	4.25	4,797	2,387	1	7,184	3	13,683	3	10,838													
ウバメガシ		21	4,469	0.45	19	3,972	21	497	1,181	408	19	1,589	0.25	7	0	21	7	17	2,784	27	89													
エンジュ類		12	9,439	0.94	14	5,246	11	4,193	3,259	574	9	3,833	0.59	161	90	11	251	19	1,826	7	3,529													
クスノキ		7	18,575	1.86	6	13,071	6	5,504	3,319	2,918	7	6,237	0.97	70	37	14	107	4	9,682	13	2,549													
ケヤキ		5	29,063	2.90	7	12,820	5	16,243	3,836	6,669	5	10,505	1.63	923	482	4	1,405	5	8,061	5	9,092													
サクラ類		3	42,798	4.28	3	26,247	4	16,551	3,532	4,025	6	7,557	1.17	305	49	9	354	1	22,410	2	12,477													
シンジュ		28	123	0.01	29	26	27	97	13	0	29	13	0.002	0	0	25	0	29	13	26	97													
ブラタナス類		6	20,874	2.09	4	19,254	18	1,620	13,097	709	4	13,806	2.14	1,622	9	3	1,631	11	4,535	17	902													
トウカエデ		4	36,660	3.66	5	14,677	2	21,983	6,534	10,785	3	17,319	2.68	651	648	5	1,299	6	7,492	4	10,550													
トチノキ		18	5,119	0.51	23	1,532	13	3,587	344	693	22	1,037	0.16	92	0	15	92	22	1,096	11	2,894													
トネリコ		27	342	0.03	25	326	29	16	61	0	27	61	0.01	2	0	22	2	25	263	29	16													
ニセアカシヤ		26	694	0.07	26	235	22	459	29	83	26	112	0.02	0	0	25	0	26	206	22	376													
ハナミズキ		1	60,838	6.08	2	26,385	1	34,453	6,356	12,920	2	19,276	2.99	901	289	6	1,190	2	19,128	1	21,244													
フウ		23	2,865	0.29	21	2,410	24	455	1,963	0	15	1,963	0.30	0	0	25	0	24	447	21	455													
外来ボブラ類		30	103	0.01	27	98	30	5	29	0	28	29	0.004	0	0	25	0	27	69	30	5													
マテバシイ		8	15,507	1.55	8	11,070	9	4,437	2,881	1,645	8	4,526	0.70	1,432	208	2	1,640	9	6,757	12	2,584													
モミジバフウ		15	7,718	0.77	13	5,856	17	1,862	2,883	795	11	3,678	0.57	2	74	16	76	16	2,971	16	993													
シダレヤナギ		24	2,284	0.23	22	2,087	26	197	802	10	23	812	0.13	159	0	13	159	21	1,126	23	187													
ヤマモモ		9	12,858	1.28	9	10,246	15	2,612	2,917	915	10	3,832	0.59	405	13	8	418	7	6,924	15	1,684													
ユリノキ		13	9,278	0.93	15	5,013	10	4,265	1,370	787	14	2,157	0.33	456	0	7	456	15	3,187	8	3,478													
ウメ類		25	919	0.09	24	595	25	324	41	174	24	215	0.03	0	2	22	2	23	554	24	148													
クワ		29	104	0.01	28	65	28	39	0	0	30	0	0.000	0	2	22	2	28	65	28	37													
コブシ		10	11,370	1.14	12	5,868	7	5,502	2,190	901	13	3,091	0.48	207	55	10	262	14	3,471	6	4,546													
サルスベリ類		11	10,549	1.05	11	6,375	12	4,174	865	986	17	1,851	0.29	16	1	18	17	10	5,494	10	3,187													
サザンカ類		19	4,842	0.48	17	4,217	19	625	117	6	25	123	0.02	0	0	25	0	12	4,100	19	619													
ツバキ類		14	9,254	0.92	10	6,915	16	2,339	29	1,655	18	1,684	0.26	0	14	19	14	8	6,886	18	670													
シラカシ		16	7,376	0.74	16	4,486	14	2,890	883	454	20	1,337	0.21	111	90	12	201	13	3,492	14	2,346													
ビロウ		17	5,266	0.53	30	0	8	5,266	0	1,932	16	1,932	0.30	0	0	25	0	30	0	9	3,334													
そ の 他			603,737	60.31		391,218		212,519	320,103	184,925		505,028	78.27	5,836	1,451		7,287		65,279		26,143													
街 路 樹	街路樹本数 合計	1,000,983 (本)			625,461			375,522			401,327			243,886			645,213			18,194			5,901			24,095			205,940			125,735		
	(百 分 率)	100.0 (%)			62.5			37.5			40.1			24.4			64.5			1.8			0.6			2.4			20.6			12.6		
	街路樹植栽延長	3,693.9 (km)			2,301.5			1,392.3			842.8			528.6			1,371.3			156.7			39.9			196.6			1,302.1			823.8		
道 路	面積 合計(①+②)	4,781,370 (㎡)			2,785,033			1,996,337			1,241,363			1,059,623			2,300,986			256,817			77,687			334,504			1,286,853			859,027		
	(百 分 率)	100.0 (%)			58.2			41.8			26.0			22.2			48.1			5.4			1.6			7.0			26.9			18.0		
緑 地	①歩道植樹帯	2,993,899 (㎡)			1,715,963			1,277,936			645,726			502,478			1,148,204			149,971			52,211			202,182			920,266			723,247		
	②その他道路緑地	1,787,471 (㎡)			1,069,070			718,401			595,637			557,145			1,152,782			106,846			25,476			132,322			366,587			135,780		

(港湾局含む) (島しょ含む)

* 道路緑地の「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

(2) 都道（東京都（知事）管理道路）道路の状況

2024/4/1

ア．総括表

街路樹	【本】	645,213
道路緑地	【m ² 】	2,300,986
歩道植樹帯		1,148,204
その他道路緑地		1,152,782
道路延長 【k m】	道路緑化延長	
	延長【k m】	緑化率%
2,238	1,371	61.3%

イ．街路樹の主要樹種状況

順位	樹 種	本 数	割 合
1	イチョウ	27,432	4.3%
2	ハナミズキ	19,276	3.0%
3	トウカエデ	17,319	2.7%
4	ブラタナス類	13,806	2.1%
5	ケヤキ	10,505	1.6%
6	サクラ類	7,557	1.2%
7	クスノキ	6,237	1.0%
8	マデバシイ	4,526	0.7%
9	エンジュ類	3,833	0.6%
10	ヤマモモ	3,832	0.6%
	上記以外	530,890	82.3%
	合 計	645,213	100.0%

ウ．都道の街路樹・道路内緑地管理規模の推移

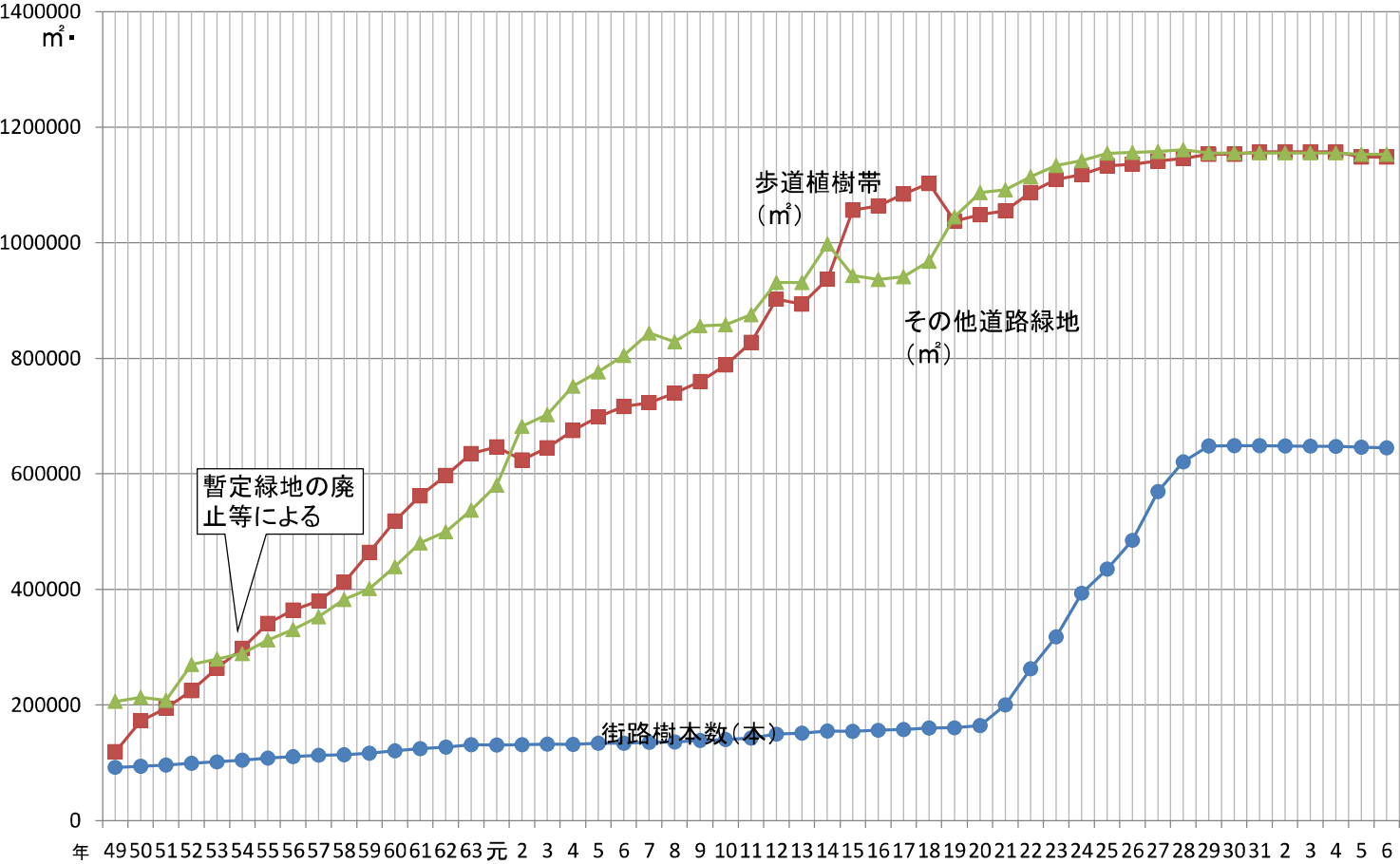
年度	街路街路樹 【本】	道 路 緑 地			
		面積合計(①+②) (㎡)	①歩道植樹帯 面積(㎡)	延長 (km)	②その他道路緑地 面積(㎡)
S49	92,283	325,568	119,308	113.7	206,260
50	94,275	386,141	172,536	164.0	213,605
51	96,135	402,436	194,194	180.9	208,242
52	98,969	495,605	225,267	199.0	270,338
53	101,678	543,466	263,638	231.1	279,828
54	105,039	586,440	297,552	258.8	288,888
55	108,063	653,338	340,840	291.2	312,498
56	110,795	694,915	364,200	319.6	330,715
57	112,864	732,864	380,023	336.2	352,841
58	114,004	795,383	412,449	350.1	382,934
59	116,681	865,720	464,347	375.3	401,373
60	120,799	957,292	518,287	405.2	439,005
61	124,349	1,042,711	561,944	433.7	480,767
62	127,560	1,096,909	596,903	461.0	500,007
63	131,235	1,172,279	635,007	490.9	537,272
H元	130,571	1,227,288	646,685	510.2	580,603
2	131,376	1,306,592	624,160	539.5	682,432
3	132,093	1,347,423	645,052	546.8	702,371
4	131,546	1,426,584	675,057	591.0	751,527
5	133,833	1,475,118	698,736	652.5	776,382
6	133,827	1,521,260	716,228	608.1	805,032
7	135,851	1,556,399	723,034	599.0	843,365
8	136,204	1,567,916	739,476	621.8	828,440
9	139,028	1,615,434	759,699	677.1	855,735
10	140,359	1,646,935	788,707	967.0	858,228
11	142,758	1,702,514	827,358	991.0	875,156
12	149,700	1,833,637	902,451	927.0	931,186
13	151,590	1,824,537	893,702	1132.0	930,835
14	155,013	1,935,183	937,125	1166.0	998,058
15	154,574	1,999,735	1,056,620	1176.0	943,115
16	156,095	1,999,711	1,063,299	1225.0	936,412
17	157,610	2,024,649	1,083,811	1206.0	940,838
18	159,953	2,070,549	1,102,681	1167.0	967,868
19	160,748	2,082,054	1,037,106	1191.0	1,044,948
20	164,460	2,134,525	1,048,157	1201.0	1,086,368
21	200,243	2,146,938	1,055,481	1211.0	1,091,457
22	262,648	2,201,077	1,086,744	1212.0	1,114,333
23	314,978	2,242,262	1,108,912	1228.0	1,133,350
24	393,492	2,259,174	1,117,631	1232.0	1,141,543
25	435,214	2,287,963	1,133,149	1351.0	1,154,814
26	484,906	2,292,453	1,136,111	1355.6	1,156,342
27	569,451	2,299,419	1,141,322	1359.2	1,158,097
28	620,374	2,306,784	1,145,826	1363.6	1,160,958
29	648,551	2,307,848	1,152,797	1368.6	1,155,051
30	649,078	2,308,013	1,152,962	1368.8	1,155,051
31	648,808	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
R 2	648,576	2,312,590	1,157,372	1370.8	1,155,218
3	648,277	2,312,653	1,157,435	1370.9	1,155,218
4	647,655	2,312,653	1,157,435	1370.9	1,155,218
5	645,875	2,301,010	1,148,228	1371.3	1,152,782
6	645,213	2,300,986	1,148,204	1371.3	1,152,782

*数字は各年度4月1日現在 *港湾局分含む

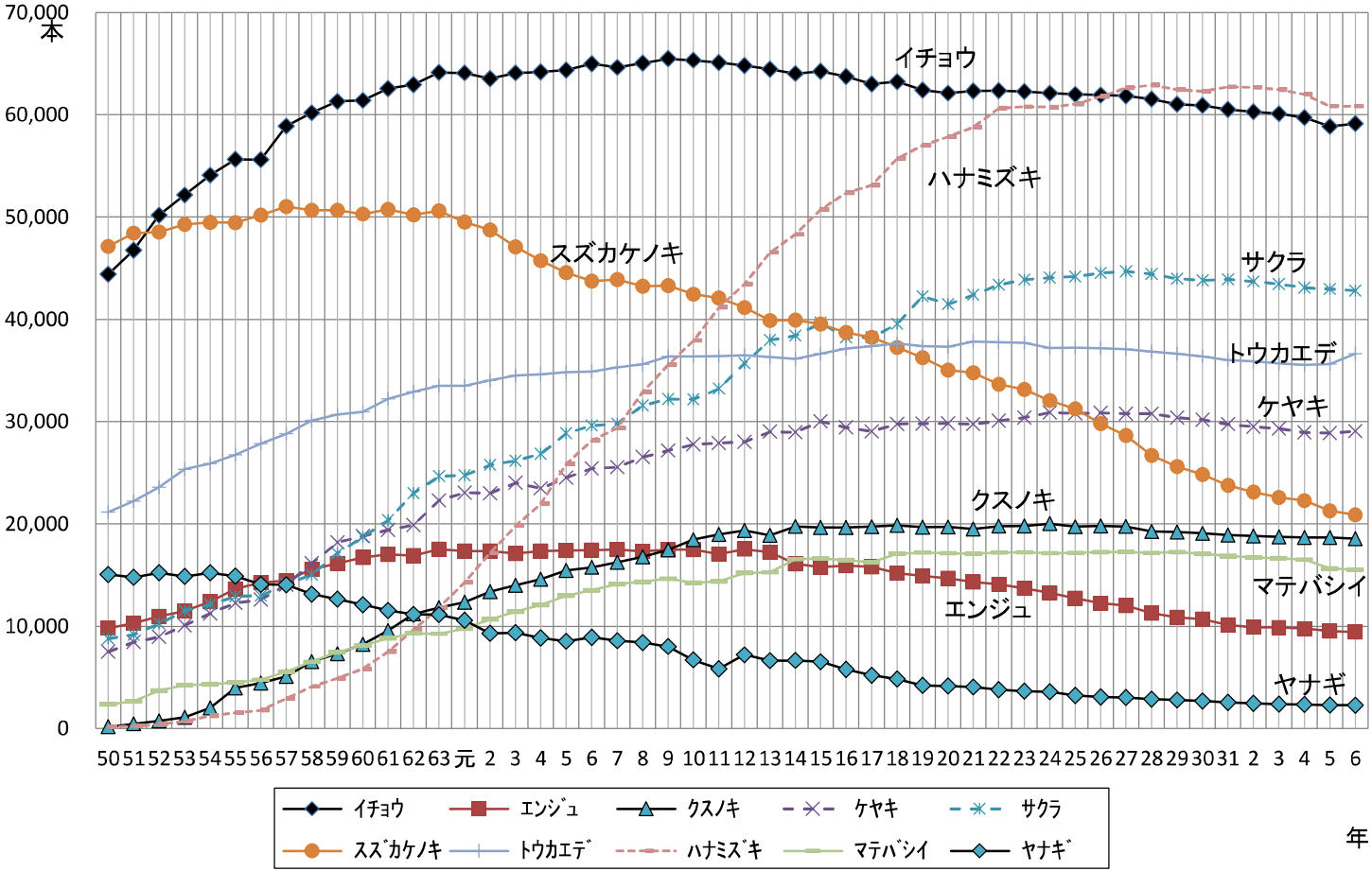
*「その他道路緑地」とは歩道植樹帯以外の道路緑地(中央分離帯・交通島など)

エ. 都道の街路樹本数・緑地面積の推移

各年度4月1日現在



オ. 東京の街路樹 主要1種類の推移



2. 令和5年度 都立公園等植栽本数一覧表

(1) 総括表

樹種	項目	購入材										支給材												総計	支給材 使用率 (%)	都内産 合計	都内産 使用率 (%)
		公園庭園			壺園			動物園			小計	公園			壺園			動物園			小計						
		総数	都外	都内産	総数	都外	都内産	総数	都外	都内産		支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労	支給	苗圃	産労				
樹木	針葉樹(本)	602	602	0	40	0	40	0	0	0	642	(0)	1	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	1	(0)	643	0.2	41	6.4
	常緑樹(本)	1,068	1,057	11	0	0	0	0	0	0	1,068	(19)	4	86	1	0	(0)	0	0	(0)	20	4	(86)	1,178	9.3	121	10.3
	落葉樹(本)	167	101	66	39	31	8	0	0	0	206	(35)	75	19	5	0	(0)	0	0	(0)	40	75	(19)	340	39.4	208	61.2
	小計(本)	1,837	1,760	77	79	31	48	0	0	0	1,916	(54)	80	105	6	0	(0)	0	0	(0)	60	80	(105)	2,161	11.3	370	17.1
都内産使用率		4%			61%			0%																			
株物	常緑(株)	3,212	3,212	0	189	189	0	0	0	0	3,401	(20)	312	325	0	0	(50)	0	0	(0)	20	312	(375)	4,108	17.2	707	17.2
	落葉(株)	3,336	3,336	0	85	85	3	0	0	0	3,421	(46)	145	432	0	0	(0)	0	0	(0)	46	145	(432)	4,044	15.4	626	15.5
	小計(株)	6,548	6,548	0	274	274	3	0	0	0	6,822	(66)	457	757	0	0	(50)	0	0	(0)	66	457	(807)	8,152	16.3	1333	16.4
都内産使用率		0%			0%			0%																			
計		8,385	8,308	77	353	305	51	0	0	0	8,738	(120)	537	862	6	0	(50)	0	0	(0)	126	537	(912)	10,313	15.3	1703	16.5
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0.0
	株物(株)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	1	0	0	0.0
	小計(本株)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	1	0	0	0.0
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0.0
地被類	芝生(㎡)	26,452	26,452	0	163	163	0	0	0	0	26,615	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	26,615	0	0	0.0
	芝生以外の 草本地被(株)	4,686	4,686	0	1,639	1,609	30	0	0	0	6,325	(0)	0	0	4	0	(450)	0	0	(0)	4	0	(450)	6,779	7	484	7.1
	”(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0.0
	木本地被(株)	3,197	3,197	0	0	0	0	0	0	0	3,197	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	(0)	3,197	0	0	0.0

[注意]・産業労働局支給材は、支給材の欄に()外書きする。

(2) 内 訳 表 (令和5年度)

所管 種別 樹種	公 園 ・ 庭 園																												
	東部公園緑地事務所						西部公園緑地事務所						小笠原支庁						指定管理者						小 計				
	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給					
	総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産				総数	都外	都内産		
樹木	針葉樹(本)	445	445	0	0	0	0	156	156	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	602	0	1	(0)
	常緑樹(本)	335	335	0	0	0	0	708	708	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	14	11	19	4	86	1,068	19	4	(86)	
	落葉樹(本)	10	10	0	0	0	0	78	78	0	0	4	0	0	0	0	0	0	79	13	66	35	71	19	167	35	75	(19)	
	計(本)	790	790	0	0	0	0	942	942	0	0	4	0	0	0	0	0	0	105	28	77	54	76	105	1,837	54	80	(105)	
	支給材使用率	0.0						0.4						0.0						69.1						11.5			
株物	常緑(株)	1,120	1,120	0	0	0	0	2,083	2,083	0	0	2	0	0	0	0	0	0	9	9	0	20	310	325	3,212	20	312	(325)	
	落葉(株)	664	664	0	0	0	0	2,437	2,437	0	0	0	0	0	0	0	0	0	235	235	0	46	145	432	3,336	46	145	(432)	
	計(本)	1,784	1,784	0	0	0	0	4,520	4,520	0	0	2	0	0	0	0	0	0	244	244	0	66	455	757	6,548	66	457	(757)	
	支給材使用率	0.0						0.0						0.0						84.0						16.4			
合計	小計(本)	2,574	2,574	0	0	0	0	5,462	5,462	0	0	6	0	0	0	0	0	0	349	272	77	120	531	862	8,385	120	537	(862)	
	合計(本)	2,574						5,468						0						1,862						9,904			
	支給材使用率	0.0						0.1						0.0						81.3						15.3			
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	(0)	
	株物(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
地被類	芝生(㎡)	1,001	1,001	0	0	0	0	24,067	24,067	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,384	1,384	0	0	0	0	26,452	0	0	(0)	
	草本地被(株)	3,179	3,179	0	0	0	0	1,475	1,475	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	32	0	0	0	0	4,686	0	0	(0)	
	草本地被(㎡)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	
	木本地被(株)	3,197	3,197	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,197	0	0	(0)	

[illegible]

用 管 樹 種 種 別		動物園														小 計				合 計				
		東部公園緑地事務所						指定管理者																
		購入			支給	苗圃	産労支給	購入			支給	苗圃	産労支給	購入	支給	苗圃	産労支給	支給率						
		総数	都外	都内産				総数	都外	都内産														
樹木	針葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	642	0	1	(0)	0.2		
	常緑樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,068	20	4	(86)	9.3		
	落葉樹(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206	10	75	(19)	39.4		
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,916	60	80	(105)	11.3		
	支給材使用率	0.0						0.0								0.0				11.3				
株物	常緑株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,401	20	312	(375)	17.2		
	落葉株物(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,421	46	145	(432)	15.4		
	計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,822	66	457	(807)	16.3		
	支給材使用率	0.0						0.0								0.0				16.3				
合計	小計(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,738	126	537	(912)	15.3		
	合計(本)	0						0								0				10,313				
	支給材使用率	0.0						0.0								0.0				15.3				
特殊樹	樹木(本)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0		
	株物(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	(0)	0		
	株物(m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0		
地被類	芝生(m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26,615	0	0	(0)	0		
	草本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,325	4	0	(450)	7		
	草本地被(m)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0		
	木本地被(株)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,197	0	0	(0)	0		

木(株)	0	166,926	62,093	229,019	11
木(本)	331	5,240	1,751	7,322	12
木(株)	0	48,632	11,894	60,526	21
木(本)	291	3,034	1,405	4,730	16
木(株)	0	32,027	14,062	46,089	17
木(本)	891	2,120	2,327	5,338	18
木(株)	0	57,765	28,383	86,148	42
木(本)	379	4,556	2,123	7,058	16
木(株)	0	68,235	35,956	104,191	14
木(本)	96	2,827	1,904	4,827	14.6
木(株)	0	49,234	15,683	64,917	15.1
木(本)	230	5,551	1,789	7,570	10.3
木(株)	0	22,970	17,861	40,831	9.1
木(本)	301	3,453	1,974	5,728	13.2
木(株)	0	21,132	11,947	33,079	9.9
木(本)	74	3,504	1,661	5,239	10.8
木(株)	0	28,749	8,752	37,501	9.6
木(本)	72	3,776	1,568	5,416	6.8
木(株)	0	11,452	14,642	26,094	1.9
木(本)	9	1,062	658	1,729	6.2
木(株)	0	16,489	10,094	26,583	1.9
木(本)	447	1,064	1,942	3,453	3.8
木(株)	0	27,043	16,214	43,257	0.2
木(本)	58	1,934	1,660	3,652	7.7
木(株)	240	23,665	10,870	34,775	0.1
木(本)	101	1,088	1,267	2,456	3.9
木(株)	0	21,951	11,518	33,469	0.0
木(本)	324	2,284	1,716	4,324	4.6
木(株)	0	17,159	13,144	30,303	5.0
木(本)	13	1,062	1,203	2,278	5.7
木(株)	0	20,470	7,223	27,693	0.5
木(本)	2	600	849	1,451	4.1
木(株)	0	12,989	4,502	17,491	0.1
木(本)	228	2,199	1,189	3,616	32.7
木(株)	0	31,815	11,228	43,043	11.1
木(本)	165	1,885	1,460	3,510	5.2
木(株)	0	37,864	11,075	48,939	6.7
木(本)	69	11,625	8,468	20,162	5.4
木(株)	50	21,492	5,559	27,101	0.6
木(本)	234	15,805	7,070	23,109	13.1
木(株)	0	11,028	3,915	14,943	35.8
木(本)	273	3,372	5,982	9,627	24.8
木(株)	0	21,626	4,085	25,711	21.6
木(本)	353	3,319	1,065	4,737	26.9
木(株)	0	11,689	6,067	17,756	18.6
木(本)	307	4,296	1,983	6,586	23.4
木(株)	0	9,105	3,107	12,212	23.6
木(本)	36	4,150	1,420	5,606	30.6
木(株)	0	13,673	2,890	16,563	7.2
木(本)	345	1,547	1,697	3,589	30.0
木(株)	0	13,183	4,566	17,749	24.2
木(本)	1,490	2,483	1,656	5,629	33.6
木(株)	0	9,985	6,473	16,458	29.5

3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種(高・中・低木別)

高木

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	カエデ類 (170)	サクラ類 (100)	サクラ類 (225)	サクラ類 (92)	イヌマキ (196)
2	サクラ類 (157)	ソヨゴ (86)	シラカシ (96)	コナラ (47)	サクラ類 (172)
3	シラカシ (67)	カクレミノ (81)	カエデ類 (44)	サルスベリ (32)	ヤマボウシ (34)
4	ニオイヒバ (50)	シラカシ (64)	アカテツ (19)	モッコク (32)	カエデ類 (13)
5	アメリカデイゴ (40)	イスノキ (41)	コブガシ (18)	カエデ類 (29)	クヌギ (12)
6	ナンキンハゼ (40)	ナンキンハゼ (40)	モチノキ (16)	ヤマボウシ (23)	シラカシ (11)
7	テリハボク (32)	ネムノキ (36)	サルスベリ (14)	ソヨゴ (14)	アラカシ (10)
8	ソヨゴ (29)	アラカシ (35)	スダジイ (10)	ケヤキ (13)	エゴノキ (10)
9	ネムノキ (28)	モチノキ (28)	クロガネモチ (10)	マツ (12)	コナラ (8)
10	ハナカイドウ (20)	カエデ類 (27)	タコノキ (10)	イヌシデ (11)	サルスベリ (7)
	マデバシイ (20)				

中木

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	マサキ (182)	ヒサカキ (775)	イヌツゲ (144)	カナメモチ (330)	トキワマンサク (279)
2	トキワマンサク (140)	ブラシノキ (545)	ヒイラギイモクセイ (113)	トキワマンサク (238)	イヌツゲ (211)
3	カナメモチ (136)	アオキ (299)	カナメモチ (110)	キンモクセイ (181)	サザンカ (161)
4	イヌツゲ (56)	マサキ (164)	ギンモクセイ (22)	ウバメガシ (154)	マサキ (141)
5	サザンカ (49)	ヒイラギイモクセイ (127)	オリブ (16)	マキ (83)	カナメモチ (125)
6	オリブ (48)	マンサク (121)	シモクレン (15)	ヒイラギイモクセイ (35)	コナラ (60)
7	シャクナゲ (47)	カナメモチ (109)	アオキ (5)	ハナカイドウ (23)	キンモクセイ (40)
8	スモークツリー (40)	イヌツゲ (86)	レイランドキヒノキ (5)	シマシャリンバイ (20)	ベニバナトキワマンサク (30)
9	キョウチクトウ (24)	ニシキギ (50)	リンゴ (4)	マサキ (18)	ミズキ (23)
10	セイヨウヒイラギ (23)	シャクナゲ (43)	キンモクセイ (3)	ウメ (17)	オリブ (8)

低木

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	サツキツツジ (2,866)	アジサイ (1,790)	サツキツツジ (2,501)	サツキツツジ (3,191)	クルメツツジ (1,690)
2	オオムラサキツツ (1,159)	シャリンバイ (1,742)	ドウダンツツジ (2,059)	クルメツツジ (1,641)	ヤマブキ (541)
3	ヤマブキ (1,058)	サツキツツジ (1,645)	ハクチョウゲ (2,040)	サワラ (1,398)	ジンチョウゲ (488)
4	ユキヤナギ (946)	ドウダンツツジ (1,545)	クルメツツジ (1,917)	シャリンバイ (1,129)	ユキヤナギ (488)
5	クルメツツジ (940)	オオムラサキツツ (1,224)	アジサイ (1,025)	ハイビャクシン (1,070)	サツキツツジ (472)
6	クチナシ (896)	アベリア (939)	レンギョウ (845)	オナツクン (965)	アジサイ (450)
7	シャリンバイ (892)	レンギョウ (925)	ジンチョウゲ (703)	フィリフエラオーレア (890)	ボックスウッド (450)
8	アジサイ (779)	ハクチョウゲ (910)	ヒラドツツジ (690)	セイヨウナンテン (812)	フィリフエラオーレア (445)
9	ハイビャクシン (734)	ヒラドツツジ (745)	アベリア (658)	ドウダンツツ (758)	アベリア (392)
10	ドドナセア (580)	キンシバイ (725)	ユキヤナギ (610)	オオムラサキツツ (729)	ヒラドツツジ (392)

4. 委託調査一覧（R5年度）

R5年度に実施された主な調査委託

委託件名	委託期間	調査区域・対象公園	所管	委託の目的または概要
都立公園水質調査委託	R5.4.1～ R6.2.28	上野恩賜公園、浜離宮庭園、石神井公園、葛西臨海公園、浮間公園、舎人公園、和田堀公園	東部公園緑地事務所	都立公園の池について、特に水質監視の必要な池を対象に水質調査を行った。15項目(葛西・石神井・和田堀は16項目) 各池4回/年(葛西のみ16回)
石神井公園三宝寺池水生植物保護委託	R5.4.1～ R6.2.28	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の保護及び増殖を図るとともに、本来の景観を回復させることを目的に、水生生物の保護管理を行った。
石神井公園三宝寺池植物群落復元追跡調査委託	R5.4.1～ R6.3.29	石神井公園	東部公園緑地事務所	国指定天然記念物の石神井公園三宝寺池内の沼沢群落の復元のために実施している保護管理作業の効果について追跡調査を行い、今後の維持管理方法を検討した。
石神井公園石神井池モニタリング等業務委託	R5.4.1～ R6.3.31	石神井公園	東部公園緑地事務所	生物多様性保全整備工事後のモニタリング調査を行った。
水元公園苗圃保護管理委託	R5.4.1～ R6.3.31	水元公園	東部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。
光が丘生物多様性保全利用計画策定業務	R4.5.27～ R5.8.30	光が丘公園	東部公園緑地事務所	多様な生物が生息する都立公園づくり事業において、光が丘公園の生物多様性保全利用計画を策定するために実施
舎人公園生物多様性保全利用計画策定業務	R4.5.27～ R5.8.30	舎人公園	東部公園緑地事務所	多様な生物が生息する都立公園づくり事業において、舎人公園の生物多様性保全利用計画を策定するために実施
水元公園花菖蒲田改修基礎調査委託	R5.6.9～ R5.11.30	水元公園	東部公園緑地事務所	水元公園花菖蒲園のはなしょうぶ花付き改善に向け、植栽基盤等の調査を行った。
大戸緑地希少猛禽類調査委託(5-6)	R5.12.12～ R6.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少生物調査委託(5-6)	R5.12.13～ R6.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少生物の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
野山北・六道山公園希少生物調査委託(5-6)	R5.10.10～ R6.9.30	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少猛禽類調査委託(4-5)	R4.12.7～ R5.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
大戸緑地希少生物調査委託(4-5)	R4.12.6～ R5.11.30	大戸緑地	西部公園緑地事務所	大戸緑地の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少生物の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
野山北・六道山公園希少生物調査委託(4-5)	R4.10.4～ R5.9.29	野山北・六道山公園	西部公園緑地事務所	野山北・六道山公園の自然環境保全と、適切な公園整備や管理に資する情報を得ることを目的に、希少猛禽類の行動圏調査・工事影響モニタリング調査等を実施し、調査結果について整理した。
井の頭恩賜公園水質環境調査委託(5)	R5.4.1～ R6.3.22	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の状況を把握するため、水質調査、底質調査、プランクトン調査を実施した。
井の頭恩賜公園希少水草保護調査委託(5)	R5.4.1～ R6.3.22	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の土壌シードバンクから発芽した水草の育成管理、並びに井の頭池の自然再生へ向けた資料として、水草調査等を実施した。
井の頭恩賜公園都民協働運営業務委託(5)	R5.4.1～ R6.3.22	井の頭恩賜公園	西部公園緑地事務所	井の頭池の自然再生へ向けた水生生物のモニタリング調査、普及啓発、外来生物駆除を実施した。
武蔵野苗圃ほか1苗圃保護管理委託(単備契約)(5)	R5.4.1～ R6.3.31	武蔵野公園、小宮公園	西部公園緑地事務所	公園・街路樹等に良質な苗木を供給するため、苗圃の維持管理を行った。

5. 令和6年度 花の見ごろ情報について

「花の見ごろ情報」は、季節の花の写真と解説及びその花がみられる公園名およびその連絡先を記載した小冊子で、平成5年から毎年、年6回印刷し、東西公園緑地事務所や、各サービスセンター、区市等の関係機関に送付し、一般向けに無料配布してきた。

しかし、情報伝達の迅速化や昨今のペーパーレス化の要請、印刷物の余剰の増加等から電子化が求められたため、「令和6年3月～4月号」をもって紙による発行を終了した。

令和6年6月以降から、順次電子化を進めて行くこととし、東京都建設局のHPへ掲載するとともに、各公園のHPやSNS（X（旧Twitter）、Instagram等）との連携を図るよう、準備を行っている。

令和5年度 都立公園における都民協働団体一覧表

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
1	1	青山公園	青山サクラの会	花壇づくり、清掃	2
2	2	赤塚公園	赤塚公園ニリンソウを守る会	大門地区自生地等のニリンソウを中心とした野草の保護・管理活動、秋から冬にかけて月2回程度の林の手入れ活動、ニリンソウ開花時期における利用者へのガイド活動、植物観察活動	28
	3	赤塚公園	みどりの手	雑木林の復活プロジェクト ニリンソウ観察デイ クリーンアップデイ	17
	4	赤塚公園	いたばし水とみどりの会	バッタ広場の手入れ 自然観察会	27
	5	赤塚公園	NPO法人 いた・エコ・ネット	どんぐりまつり 花壇づくり	19
	6	赤塚公園	徳丸北野神社田遊び保存会	ニフトコ成育観察・保存活動	22
	7	赤塚公園	いたばし野鳥クラブ	野鳥観察・保護活動	15
3	8	秋留台公園	野草愛好会	野草園の維持管理	13
4	9	井の頭恩賜公園	井の頭かんさつ会	自然観察会の開催・外来生物駆除・モニタリング	28
	10	井の頭恩賜公園	あか井の	ガイド、イベントへ参画、整備作業、講師派遣	18
5	11	上野恩賜公園	上野桜守の会	桜の調査、後継樹育成、マップ・HP作成、募金活動など	50
6	12	宇喜田公園	宇喜田ハーブボランティア	花壇維持管理	22
7	13	浮間公園	フィレールラビッツ浮間	園内美化活動、ガーデン活動	7
	14	浮間公園	月まち倶楽部	自然普及活動(天体観望)	10
8	15	大泉中央公園	いずみの会	花壇管理	5
9	16	大神山公園	NPO法人 小笠原野生生物研究会	公園内自然環境保護活動(移入種除去・植栽)、花壇づくり	11
10	17	大島小松川公園	たんぼぼ	花壇維持管理	3
	18	大島小松川公園	わんず・どリー夢	園内清掃・ペット飼育に関する情報の発信	100
	19	大島小松川公園	ガーデンボランティア	花壇維持管理	14
	20	大島小松川公園	都立大島小松川公園スケートボード愛好会SSP	初心者向けスケートボード体験会の開催と利用マナー・ルール の周知活動	12
11	21	大戸緑地	大戸源流森の会	公園内自然環境保護活動、体験学習等イベント活動	20
12	22	尾久の原公園	尾久の原愛好会	園内自然環境管理観察	25
	23	尾久の原公園	花の会	花壇作り	10
	24	尾久の原公園	カバグループ	花壇作り	2
	25	尾久の原公園	わんにゃんパトロール	ペットマナーアップ啓発活動	3
13	26	小山内裏公園	小山内裏公園谷戸山の会	樹林保護・雑木林管理、自然教室・イベント支援他	17
	27	小山内裏公園	小山内裏公園 畑ボランティアグループ	農作物耕作管理、農業体験学習実施、イベント支援他	19
	28	小山内裏公園	小山内裏公園花壇グループ	花壇手入れ、イベント支援他	11
	29	小山内裏公園	子どもの居場所・どんぐり分校	子ども・地域住民の居場所づくり、イベント支援他	20
	30	小山内裏公園	小山内裏わんわんサポーターズ	ドッグラン運営・整備、園内清掃、イベント支援他	183
	31	小山内裏公園	巡回グループ(パークモニター)	園内防犯・防災パトロール、ゴミ拾い、イベント支援他	16
	32	小山内裏公園	ラ・ヴェルデ	音楽活動他	11
	33	小山内裏公園	小山内裏公園 ボランティア連絡会	公園とボランティアの連絡調整、イベント支援他	279
14	34	小山田緑地	小山田緑地田んぼ友の会	稲作・畑作活動	51
	35	小山田緑地	NPO法人鶴見川源流ネットワーク	公園自然環境保護活動(草刈り、生き物調査等)	6
	36	小山田緑地	鶴見川源流自然の会	みはらし広場のエコパッチ管理	15
	37	小山田緑地	梅木窪の会	梅木窪分園での野外談話室の開催やアサザ池管理	4
	38	小山田緑地	フローラクィーン	大久保分園での花壇づくり	6
	39	小山田緑地	小山田緑地里山倶楽部	園内の環境保全活動等	10
15	40	葛西臨海公園	葛西臨海公園 グリーンボランティア	花壇づくり	30
	41	葛西臨海公園	葛西臨海公園 ひがた・たんぼ倶楽部	鳥類園での環境学習・維持管理活動	23
	42	葛西臨海公園	葛西東渚・鳥類園友の会	鳥類園自然保護活動	15
16	43	亀戸中央公園	三地区亀戸学童少年野球連盟	自転車整理・清掃・散水等	150
	44	亀戸中央公園	かめいど花の会	花壇づくり、花壇の維持管理	5
17	45	砧公園	砧公園友の会砧パークアカデミー(KPA)	花壇づくり、花木の剪定など	118
	46	砧公園	Kinuta Park Tokyo e-Dog club	犬連れ飼い主のマナーアップ活動	5
18	47	木場公園	木場公園友の会	都市緑化植園の維持管理、噴水前花壇等花壇の維持管理、SC主催イベントへの協力など	48
	48	木場公園	江東植物愛好会	帰化植物見本園の維持管理(友の会と連携)、イベント開催など	6
	49	木場公園	木場プレーパークぼうけん隊	子供たちの公園での遊びを通じて公園の魅力を発信	13
	50	木場公園	木場公園ドッグランサポーターズ	ドッグランの清掃・管理、しつけ教室開催によるマナーアップ活動	18
	51	木場公園	中地区愛好会(千石一丁目長寿会・江東ワイズメンズクラブ)	中地区大花壇維持管理(木場公園友の会と協働)	24
	52	木場公園	ふとんりサイクル推進協議会	江東区の環境問題ボランティア	4
	53	木場公園	緑の会	園内の植物を写生、作品をミドリアムに展示、スケッチ教室の開催	4
	54	木場公園	木場公園見守り隊	花壇の維持管理、ガーデニングイベントの実施	10
	55	小金井公園	小金井公園 樹木の会	樹木及び梅林マップ作成、ガイド、園内イベント協力	27
	56	小金井公園	小金井公園 桜守の会	桜の育成管理(清掃、除草、苗木育成)、ガイド、園内イベント協力	22

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
19	57	小金井公園	小金井公園 花の会	花壇管理、清掃、植栽、除草、園内イベント協力	24
	58	小金井公園	小金井公園 ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの清掃、飼い主への啓発活動、園内イベント協力	28
	59	小金井公園	小金井公園 野鳥の会	バードウォッチング、探鳥会、除草、清掃、園内イベント協力	1
20	60	駒沢オリンピック公園	駒沢公園 ドッグランサポートクラブ	ドッグランの運営管理	80
	61	駒沢オリンピック公園	NPO法人 グリーンバード 駒沢チーム	清掃	30
	62	駒沢オリンピック公園	nohara GREEN MATE	花壇づくり・管理	15
21	63	小宮・滝山公園	どんぐり会	花壇のお手入れ、野草や野鳥の観察会の開催、野鳥や植物の調査、草地や希少種等の保全活動、外来種駆除作業、イベント支援、機関紙「どんぐり通信」の発行、展示作成ほか	41
22	64	桜ヶ丘公園	雑木林ボランティア	雑木林管理、谷戸田管理、農業文化継承活動、イベント開催、野草等保全調査活動 ほか	70
	65	桜ヶ丘公園・長沼公園・平山城址公園	丘陵地ボランティア	丘陵地レンジャーの活動支援、園内巡回清掃活動、雑木林管理、野草等保全調査活動、イベント開催 ほか	26
	66	桜ヶ丘公園	都立桜ヶ丘公園ドッグランサポーターズの会	ドッグランの管理運営 公園花壇整備	10
23	67	狭山公園	狭山公園友の会	花壇づくり、イベント協力、雑木林の手入れ	40
24	68	狭山・境緑道	西東京・狭山境緑道花の会	花壇づくり、手入れ、清掃	9
	69	狭山・境緑道	こだいら観光まちづくり協会	花壇づくり、手入れ	17
	70	狭山・境緑道	東村山市小彼岸桜の会	苗木管理や剪定など、コヒガンザクラの手入れ	17
25	71	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(花の会)	花壇づくり、清掃	4
	72	猿江恩賜公園	猿江恩賜公園友の会(和ぎの会)	公園利用促進ボランティア	5
26	73	汐入公園	汐入公園ハーブボランティア	花壇作り	15
27	74	篠崎公園	篠崎公園 花笑会	花壇管理	5
	75	篠崎公園	篠崎公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン広場の管理・運営	7
28	76	芝公園	NPO法人 Green Works生物多様性グループ	花壇づくり、清掃、自然観察	10
	77	芝公園	中日本ハイウェイ・メンテナンス東京	花壇づくり、清掃、自然観察	50
	78	芝公園	品川エトワール女子高校	花壇づくり、清掃、自然観察	54
	79	芝公園	クリーンナップフロンティア	花壇づくり、清掃、自然観察	10
29	80	石神井公園	石神井公園野鳥と自然の会	水辺観察園の維持管理(週1回)、自然観察会(月1回)、・「石神井公園 自然の見どころ」ポスター作成・掲示(月1回)、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、池水質調査、他	120
	81	石神井公園	練馬に自然を育む会	野草観察園の維持管理(月3回)	12
	82	石神井公園	石神井・冒険遊びの会	プレイパーク、管理所主催「自然とあそぼう」イベント運営への協力(毎年11/3)、管理所主催の防災訓練などに協力(年1～2回)	40
	83	石神井公園	NPO法人PLAYTANK(プレイタンク)	おひさまびよびよ(幼児向けプレイパーク)	40
30	84	城北中央公園	清掃ボランティア	園内美化活動	20
	85	城北中央公園	城北 DOG WAN	ドッグラン活動	190
	86	城北中央公園	すみれ会	植物管理活動	22
	87	城北中央公園	城北公園・四季の会	自然普及活動・自然環境管理・イベント活動	15
31	88	浅間山公園	浅間山自然保護会	自然環境保全作業、植生調査、植物観察会などイベント運営	45
	89	浅間山公園・武蔵野公園	府中野鳥クラブ	自然環境保全作業、野鳥調査、野鳥観察会などイベント運営	67
	90	浅間山公園・府中の森公園	浅間山ウォーキングクラブ	園内整備、イベント運営	25
32	91	善福寺川緑地	善福寺川さくらの会	花壇づくり、株物・低木剪定、イベントの企画・実施	12
	92	善福寺川緑地	すぎなみ園芸療法クラブ	花壇づくり、花壇の手入れ、定植、植え替え、腐葉土作り	8
33	93	善福寺公園	善福寺白寿会	花壇づくり、清掃、自然観察	15
	94	善福寺公園	善福寺公園友の会・クリーン部会	ゴミ拾い	2
	95	善福寺公園	善福寺公園 友の会 剪定班	園内全域中低木の剪定と刈込み	15
	96	善福寺公園	自然愛護会杉並	杉並区内絶滅危惧種の保全と林緑環境の復元、観察会協力	20
	97	善福寺公園	トロールの森実行委員会	野外アート展、水辺の利用を考える。	10
	98	善福寺公園	善福寺プレーパークの会	遊び場づくり	20
	99	善福寺公園	井荻万寿美会	花壇づくり、清掃	18
	100	善福寺公園	善福寺公園 植物勉強会	復元地で対象植物の選択的除草、移植、植生調査活動	7
	101	善福寺公園	善福寺公園 植生保護班	園内全域中低木の剪定と刈込み	5
	102	善福寺公園	善福寺どんぐり・ピクニッククラブ	公園を楽しむ場づくり	11
34	103	祖師谷公園	ハーブ木曜友の会	花壇の管理	20
	104	祖師谷公園	友の会ポピークラブ	花壇の管理	32
35	105	滝山公園	NPO法人 滝山城址群・自然と歴史を守る会	下草刈・枯枝処理等の遺構景観回復のための維持管理作業、歴史ガイドや講演会の実施など	65
36	106	東京臨海広域防災公園	植物ボランティアガーデンクラブ	花壇作り、中低木の簡単な剪定等	28
37	107	舎人公園	ボランティア 花壇の会	ボランティア花壇、野草園及び周辺整備	23
	108	舎人公園	舎人公園ボランティア 鳥の会	定期野鳥調査、巣箱取付の実施、観察会等イベント協力	11
	109	舎人公園	舎人DOGRUNサポートクラブ	ドッグラン内の管理運営(清掃や簡単な補修、マナーアップ啓発)	23
	110	戸山公園	新宿・戸山プレイパークの会	幼児親子など遊び場を提供	26

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
38	111	戸山公園	戸山公園に心やすらぐ花壇をつくる会	花壇維持管理、バラの育成	11
	112	戸山公園	松村 竹之介 個人ボランティア	花壇維持管理、側溝清掃	1
	113	戸山公園	陽だまりぽかぽか	花壇維持管理、園内清掃	11
	114	戸山公園	戸山公園フワークラブ	花壇維持管理、園内清掃	19
	115	戸山公園	戸山楽しい花壇部	花壇維持管理	11
	116	戸山公園	内藤とうがらしプロジェクト	花壇維持管理、、イベント共催	5
39	117	中川公園	大谷田花の会	花壇づくり、清掃、自然観察	3
40	118	練馬城址公園	にじいろ咲かせ隊	花壇づくり、クラフトワークショップ	10
41	119	野川公園	野川公園緑の愛護ボランティアの会	自然環境保全活動、イベント運営	111
42	120	野山北・六道山公園	野山北・六道山公園ボランティア	里山の自然と文化を守る。雑木林、田畑、自然観察、伝統食など	291
	121	野山北・六道山公園	岸田んぼ会	田んぼづくりの指導	4
	122	野山北・六道山公園	日本野鳥の会奥多摩支部	雑木林の保全活動、自然観察会、野鳥写真展の開催	576
	123	野山北・六道山公園	武蔵村山自然に学ぶ会	雑木林の保全活動、自然観察会	32
43	124	東綾瀬公園	ハーブボランティア	ハーブを中心とする花壇づくり	16
	125	東綾瀬公園	MKN会	花壇づくり、自然観察	9
	126	東綾瀬公園	NPO法人 わんわんサポーター綾瀬	愛犬との共生、公園散歩のマナー向上	15
44	127	東村山中央公園	東村山市小彼岸桜の会	小彼岸桜生育管理、イベント協力	17
	128	東村山中央公園	東村山中央公園小菊の会	小菊盆栽の仕立て、花壇手入れ、イベント協力	16
45	129	東大和南公園	花葉心雑草の会	ボランティア花壇の維持管理(花苗植付け・除草等)と公園イベントへの協力	13
46	130	光が丘公園	屋敷森の会	剪定、刈込、生き物・植生調査、ガイド	8
	131	光が丘公園	NPO法人みどり環境ネットワーク！	自然環境教育事業、自然観察会・イベント企画	32
	132	光が丘公園	認定NPO法人 生態工房	植生の維持管理、環境学習、外来動植物の駆除	120
	133	光が丘公園	光が丘カントウタンポポのなかま	カントウタンポポ自生地の維持管理、自然観察会、植生調査	6
	134	光が丘公園	特定非営利活動法人PLAYTANK	プレーパーク活動	20
	135	光が丘公園	光が丘公園花壇ボランティアの会	花壇育成、維持管理、腐葉土づくり	20
	136	光が丘公園	ツリーマスター クライミング アカデミー・南関東ブロック	木登り体験イベント	15
	137	光が丘公園	一般社団法人水と緑と命のネットワーク	赤塚口花壇維持管理活動	6
47	138	日比谷公園	NPO法人日本トピアリー協会	花壇づくり	4
	139	日比谷公園	日比谷花の会	花壇づくり	11
	140	日比谷公園	(公社)園芸文化協会・日比谷ローズ	バラ花壇の整備と普及啓発	20
	141	日比谷公園	デロイト トーマツ グループ	花壇づくり	40
	142	日比谷公園	日比谷公園 チームクリスマスローズ	コンテナ花壇づくり	9
	143	日比谷公園	清和総合建物株式会社	花壇づくり	100
	144	日比谷公園	太陽石油株式会社	花壇づくり	4
	145	日比谷公園	株式会社 SABON Japan	花壇づくり	51
48	146	水元公園	みずもと自然観察クラブ	自然観察、環境保全	18
	147	水元公園	イネ科花粉症を学習するグループ	水辺環境の再生・創出・保全	7
	148	水元公園	NPO法人水元ネイチャープロジェクト	自然環境の保全・保護	16
	149	水元公園	水元グリーンプラザ友の会	花壇整備ほか	31
	150	水元公園	水元公園ドッグランサポーターズ	ドッグラン施設の運営	10
	151	水元公園	NPO法人 葛飾動物愛護の会	猫愛護活動	13
	152	水元公園	水元かわせみ倶楽部	自然環境保全、清掃・美化	39
	153	水元公園	大自然塾クラブ	自然環境の保全・保護・整備	15
	154	水元公園	エコシステムアカデミー水元	自然普及活動やイベント開催	24
	155	水元公園	田んぼの会	田んぼの管理作業	5
49	156	武蔵国分寺公園	ドッグラン武蔵国分寺	犬を通じた地域交流(園内清掃、イベント運営等)	61
50	157	武蔵野公園	野川ほたる村	自然環境保全活動、イベント運営、ホタルの生息調査	30
51	158	武蔵野中央公園	武蔵野中央公園ガーデンサポーター	花壇整備	11
	159	武蔵野中央公園	グリーンパークフライヤーズ	イベント協力	70
	160	武蔵野中央公園	倶楽部原っぱ	園内整備、イベント協力	70
	161	武蔵野中央公園	紙飛行機教室の会	教室協力	25
52	162	武蔵野の森公園	ひまわりの会	花壇づくり、イベント参加	14
	163	武蔵野の森公園	府中野鳥クラブ	野鳥観察、野鳥観察会	65
	164	武蔵野の森公園	おはなしキャンプ	絵本の読み聞かせ、工作	6
	165	武蔵野の森公園	おはなし夢くらぶ	絵本の読み聞かせ、工作	12
	166	武蔵野の森公園	おはなしのたね	絵本の読み聞かせ	21
	167	武蔵野の森公園	調布飛行場の掩体壕を保存する会	掩体壕ガイドツアーなど	5

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
53	168	夢の島公園、夢の島熱帯植物館	夢の島公園、夢の島熱帯植物館ボランティア会	公園花壇管理、植物館ガイド等	20
54	169	代々木公園	武蔵野バラ会	フラワーランドバラ花壇の管理	168
	170	代々木公園	代々木公園ボランティア	フラワーランドバラ花壇の管理、樹木観察会など	73
	171	代々木公園	NPO法人 日本コミュニティガーデニング協会	花壇管理およびハーブ講座	40
	172	代々木公園	代々木公園ドッグランサポーターズクラブ	ドッグランの管理運営等	7
	173	代々木公園	代々木公園ガーデニングクラブ	花壇管理	11
	174	代々木公園	特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所	花壇管理、清掃活動	10
55	175	陵南公園	IVUSA	イベントサポート、花壇づくり、園内清掃など	60
	176	陵南公園	ガーデンサポーター	花壇づくり	9
56	177	林試の森公園	森のアトリエ	枯枝・落葉を利用した工作	5
	178	林試の森公園	ホリデークラフト	腐葉土作成、花壇づくり、イベントの企画立案サポート	4
	179	林試の森公園	ワンTEAM	犬のマナーアップ、清掃活動	25
	180	林試の森公園	ユウカリガーデン	花壇づくり、清掃	7
	181	林試の森公園	森ねこいる会	東京都のルールに則った保護猫活動	31
57	182	蘆花恒春園	NPO法人蘆花会	イベント実施、蘆花記念館展示・資料調査協力等	18
	183	蘆花恒春園	NPO法人芦花公園花の丘友の会	花壇管理、イベント実施、とんぼ池及び自然観察資料館管理	47
	184	蘆花恒春園	蘆花恒春園ワンクラブ	ドッグラン管理運営、公園内イベント・パトロール協力	32
	185	蘆花恒春園	芦花公園しあわせの野音の会	音楽会（パークライブ）実施、かやぶきコンサート協力	16
	186	蘆花恒春園	木と根	雑木林内で生物多様性保全に努めながら作業や調査などの活動	5
58	187	六仙公園	六仙公園花ボランティア	花壇づくり、手入れ、清掃	7
59	188	和田堀公園	FIT杉並会	済美山自然林、観察の森の整備及び植生調査	25
	189	和田堀公園	杉並ねっこワーク	子供達の遊び場をベースとした地域交流	10
	190	和田堀公園	済美山グリーンキープ	園内の清掃	15
	191	和田堀公園	ゆうゆう大宮堀ノ内館	花壇作り	4
59公園	191団体	開園公園			6,042人

					0
公園	団体	未開園公園			人

		公園名	団体・グループ名	活動内容	人数
1	1	旧岩崎邸庭園	茅町コンドル会	ガイド	73
	2	旧岩崎邸庭園	金唐紙友の会	金唐革紙の普及啓発	17
	3	旧岩崎邸庭園	花ふじフラワースクール	館内の花による装飾	35
2	4	旧芝離宮恩賜庭園	旧芝離宮恩賜庭園ガイドボランティアの会	庭園ガイド	15
3	5	旧古河庭園	旧古河庭園ボランティアガイドの会	庭園ガイド	31
	6	旧古河庭園	西ヶ原フラワーロード会	本郷通りの清掃、花苗植付・管理	13
4	7	清澄庭園	清澄庭園ガイド倶楽部	庭園ガイド	35
5	8	小石川後楽園	文京区立 柳町小学校	田植え、案山子づくり、稲刈り	80
	9	小石川後楽園	NPO法人 小石川後楽園庭園保存会	イベント協力、調査活動	100
	10	小石川後楽園	小石川後楽園ガイドクラブ	庭園ガイド	44
6	11	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園ガイドボランティア	庭園ガイドとガイドに関する調査	19
	12	殿ヶ谷戸庭園	殿ヶ谷戸庭園花の会	展示室ほかの生け花展示	3
7	13	浜離宮恩賜庭園	浜離宮庭園ガイドクラブ	園内ガイド	43
	14	浜離宮恩賜庭園	NPO法人水辺と生物環境保全推進機構	園内大泉水環境調査・保護活動、環境学習	25
8	15	向島百花園	墨田朝顔愛好会	大輪朝顔展の開催	45
	16	向島百花園	百花園ガイドの会	庭園ガイド	34
	17	向島百花園	墨田区ラジオ体操連盟向島地区	清掃活動	38
9	18	六義園	六義園ガイド倶楽部	庭園ガイド	35
9庭園	18団体	庭園			685人

1	1	井の頭自然文化園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG336 SG 79
2	2	恩賜上野動物園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG336 SG 117
	3	恩賜上野動物園	恩賜上野動物園樹木美化ボランティア	園内の樹木や花壇などの緑地管理の手伝い	17
	4	恩賜上野動物園	日本赤十字社東京都支部	ゴールデンウィークなどの繁忙時における、迷子相談所の運営、迷子保護及び搜索活動など	70
3	5	葛西臨海水族園	東京シーライフボランティアーズ	園内の生物ガイド、イベント共催	105
4	6	神代植物公園	神代植物公園ドッگران・サポーターズクラブ	清掃、しつけ教室、チラシ発行など	46
	7	神代植物公園	22世紀の森づくり・神代	森林整備、イベントの開催	52
	8	神代植物公園	神代植物公園ガイドボランティアクラブ	公園のガイド活動	51
5	9	多摩動物公園	東京動物園ボランティアーズ	動物解説(DG)、園内案内・動物ふれあい補助など(SG)	DG336 SG 79
	10	多摩動物公園	TAMAZO(たまぞう) 特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会	雑木林の保全管理による里山の再生、来園者に親しまれる森づくりなど	70
4動物園	7団体	動物園		*DGは3動物園の総数	873人
1植物園	3団体	植物公園			149人

1	1	雑司ヶ谷霊園	緑のこみちの会	園内、外周部の花壇づくり、外周部の清掃	21
2	2	染井霊園	染井花の会	花壇管理	5
3	3	八柱霊園	一般社団法人 恩送り	特設墓地の清掃活動	25
3霊園	3団体	霊園			51人

全箇所	全団体	全人数	
59公園	191団体	6,042人	計画・開園公園
公園	団体	人	未開園公園
9庭園	18団体	685人	庭 園
4動物園	7団体	873人	動物園
1公園	3団体	149人	植物公園
3霊園	3団体	51人	霊 園
76園	222団体	7,800人	

7. バックナンバー目次（その1～その51）

その1＜昭和47年度＞

1. 公園地樹木の生育状態	1
(1) 生育被害調査	1
(2) 生育状態調査一覧表	7
(3) これらに関係ある委託報告などの要約	15
2. 公園緑地の土壌関係	20
(1) 土壌状態調査	20
(2) これが対策などについての委託・文献の要約	26
3. 公園緑地植栽・樹木利用度調査	32
(1) 公園造成にともなう植栽・樹木・株物の 利用状況について	32
(2) 公園造成における苗木の需要数量調査	34
(3) 公園街路等の植栽・樹木・株物の需要状況	38
(区役所関係)	
(4) 既設公園などに植栽されている樹種順位	40
4. 公園緑地植栽・樹木の活着状況調査	42
(1) 土壌条件別、樹種別	42
(2) 活着状況調査	44
5. 公共用樹木の需供関係について	50
(1) 公共緑化用樹木の需要と生産などについて	50
(2) 苗木育成の課題	61
6. 都立公園等植栽設計上配慮すべき問題点	65

その2＜昭和48年度＞

1. 都立主要公園内外に於けるSO ₂ ・NO ₂ ・NO調査についての 報告	1
2. 東京都内都市公園などの樹木生育障害状況について	2
3. 緑化樹木の耐都市環境性について	15
4. 公園緑地樹木の生育実態調査	23
5. 昭和47年度都立公園樹木活着率調査	33
6. 都立公園植栽樹種利用度などの調査	40
7. 昭和47年度委託調査の要約	47
(1) 東京湾埋立地緑化対策報告	47
(2) 公害対策試験並に緑化資料の蒐集と解析	50
(3) 植物材料(造園樹木)市場に関する調査	53
(4) 公園緑地の生態調査(樹木と土壌)	60
(5) 街路樹生態調査(その1)	62
(6) 街路樹に関する道路構造調査	63
8. その他資料	66
(1) マツノザイセンチュウ調査	66
(2) 主な都市緑化樹などの特性一覧表	67

その3＜昭和49年度＞

1. 昭和48・49年度委託調査の要約	1
(1) 都市緑化樹木の選出と植栽管理技術調査	1
(2) 東京港湾埋立地緑化対策	25
(3) 街路樹生態調査(その2)	45
(4) 街路樹の水分代謝に関する調査	53
(5) 街路樹の光合成能力に関する調査	62
2. 都立公園けやきの生育障害状況について	71
3. 都立公園の植栽地面積率について	85
4. 都立公園の植栽状況について	90
△ 植栽密度	
△ 形状別樹木構成	
△ 公園別主要景観構成木	
△ 昭和48年度都立公園植栽実績	
5. 都立公園の土壌調査について	101

その４＜昭和５０年度＞

１． 植栽に対する基本的な考え方	１
２． 東京23区の緑地・樹木の実態調査集計報告(中間報告)	82
３． 東京都農業試験場における緑化に関する研究	91
について	91
４． 都立公園土壌調査結果要約	95
５． 都立公園分類別植栽地率調査(昭和50年6月現在)	97
６． 昭和49年度都立公園・動物園・霊園植栽本数一覧表	98
７． 昭和49年度植栽主要樹種名一覧表	98
８． 昭和49年度都営苗圃・委託育成払出調査	100
９． 昭和49年度植栽樹木一覧表	101
10． 都立公園・霊園・動物園植栽調査	104
11． 緑化に関する収集文献資料リスト	110

その５＜昭和５１年度＞

１． 土壌改良の手引き	１
２． 幹線道路における植樹帯の遮荫効果	56
３． 歩道植樹帯における浮遊ふんじんの軽減効果	69
４． 東京都内の公園におけるカイガラムシの寄生調査	71
５． 東京都農業試験場における緑化に関する研究	73
６． 都市緑化対策推進要綱	80
７． 保存樹及び保存樹林の指定状況	83
８． 都立公園分類別植栽地率調査(昭和51年6月現在)	87
９． 昭和50年度都立公園・霊園・動物園・植栽本数一覧表	88
10． 昭和50年度都営苗圃・委託育成払出調査	88
11． 昭和50年度植栽樹木一覧表	90
12． 都立公園・霊園・物園樹木現況調査	92
(昭和51年4月現在)	92
13． 昭和45～50年度都立公園・霊園・動物園における	
植栽樹種順位	98
14． 東京都内街路樹管理者別数量調査	101

その６＜昭和５２年度＞

１． 保全緑地公園における植生の保護及び	
保全管理技術に関する調査	１
２． 防災公園の緑のあり方について	33
３． 樹木の生長曲線に関する調査	51
４． 樹木の根系の発達と土壌の関係について	60
５． 有機質土壌改良剤の緑化木への適用試験	64
６． 東京都農業試験場における緑化に関する研究	70
７． 八柱霊園のマツノザイセンチュウ病防除について	90
８． 昭和51年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	93-94
９． 昭和51年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	93-94
10． 昭和51年度植栽樹木一覧表	95
11． 東京都内街路樹管理者別数量調査	98

その７＜昭和５３年度＞

１． 樹木の生長曲線に関する調査	１
２． 街路樹生長量追跡調査	11
３． 公園緑地樹木の生育実態調査	25
４． 海上公園の植栽について	34
５． 東京都農業試験場における緑化に関する研究	84
６． 区、市町別緑地現況調査	116
７． 都立公園分類別植栽地率調査	120
８． 昭和52年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	121
９． 昭和５２年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	121
10． 昭和52年度植栽樹木樹種別一覧表	123
11． 東京都内街路樹管理者別数量調査	127

その８＜昭和５４年度＞

１． 台風20号による樹木被害状況調査	１
２． 保存樹及び保存樹林の指定状況	16
３． 東京都農業試験場における緑化に関する研究	39
(１) 観賞用針葉樹の特性および利用	40
(２) 街路樹等緑化樹に発生する害虫とその被害実態	56
４． 樹木苗木生長量調査	78
５． 街路樹生長量追跡調査	81
６． 区・市町別緑地現況調査	92
７． 都立公園・霊園・動物園樹木現況調査書	98
８． 北部公園緑地事務所管内樹種調査	106
９． 駒沢公園樹種調査	107
10． 東京の都市公園における植栽樹種調査	108
11． 昭和53年度都知事管理道路植栽樹種別一覧表	111
12． 昭和53年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	113
13． 昭和53年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	113
14． 昭和53年度植栽樹木一覧表	115
15． 東京都内街路樹管理者別数量調査	117
16． 都立公園分類別植栽地率調査	119
17． 東京都街路樹年表	120
18． 東京都内樹木天然記念物一覧表	123
19． 東京気象表(抜粋)	125

その９＜昭和５５年度＞

１． 日比谷公園生態調査	１
２． 造園植物特性	37
３． 都立公園・霊園・動物園サクラ現況調査	66
４． 樹木苗木生長量調査	76
５． 樹木発芽および生長量調査	79
６． 東京都農業試験場における緑化に関する調査	83
(１) 東京都におけるマツノザイセンチュウの分布と その被害状況(森林環境保全試験)	84
(２) 有機物施用効果試験	92
７． 東京都の道路緑化状況調査	99
(１) 道路緑化の現況	99
(２) 道路緑化の推移	100
(３) 東京都内街路樹管理者別調査	102
(４) 昭和54年度都知事管理道路における植栽	103
(５) 街路樹カラーイメージアンケート	106
(６) 東京都の道路緑化管理管轄表	119
８． 都立公園分類別植栽地率調査	121
９． 昭和54年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	123
10． 昭和54年度都営苗圃・委託育成苗木払出調査	123
11． 東京気象表(抜粋)	125

その１０＜昭和５６年度＞

１． 植栽樹木実績調査	１
２． 造園植物特性	51
３． 樹木苗木生長量調査	72
４． 東京都農業試験場における緑化に関する調査	89
(１) 東京都におけるトウカエデのうどん粉病	90
(２) コナラ萌芽の初期成長に関する研究	93
５． 東京都の道路緑化状況調査	104
(１) 道路緑化の現況	104
(２) 道路緑化の推移	105
(３) 東京都内街路樹管理者別調査	107
(４) 昭和55年度都知事及び都管理道路における植栽	108
(５) 街路樹生長量追跡調査	111
６． 都市計画区域外緑地現況調査	115

7.	都立公園分類別植栽地率調査	117
8.	昭和55年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	119
9.	昭和55年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	119
10.	東京気象表(抜粋)	121
11.	緑化に関する調査報告(その1～その10)索引	123
12.	保存資料及び図書目録	
	(公園緑地部計画課計画第二係保管)	134

その11＜昭和57年度＞

1.	公園緑地生態調査	1
	(1) 上野恩賜公園生態調査	5
	(2) 恩賜上野動物園生態調査	21
	(3) 武蔵野公園生態調査	50
2.	表土保全調査	85
3.	神代植物公園緑の相談所 緑化相談実績調査	138
4.	台風10号による街路樹(都道)被害実態調査	154
5.	東京都農業試験場における緑化に関する調査	163
	(1) 植木の連作障害と対策	164
6.	東京都の道路緑化状況調査	170
	(1) 道路緑化の現況	170
	(2) 道路緑化の推移	171
	(3) 東京都内街路樹管理者別調書	172
	(4) 昭和56年度都知事及び都管理道路における 植栽樹種別一覧表	173
7.	都立公園分類別植栽地率調査	175
8.	昭和56年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	177
9.	昭和56年度都営苗圃・委託育成苗木払出調書	177
10.	東京気象表(抜粋)	179

その12＜昭和58年度＞

1.	浜離宮恩賜庭園生態調査	1
2.	公園土壌改善のための基礎事項と実践例	57
3.	世論調査、アンケート等による緑化意識の動向	99
4.	樹木苗木生長量調査	120
5.	都農業試験場における緑化に関する調査	141
	(1) トウカエデ首垂細菌病の発生状況	141
	(2) 植木に発生するコガネムシ類の生態と防除	149
6.	東京都の道路緑化状況	153
	(1) 道路緑化の現状	154
	(2) 道路緑化の推移	161
	(3) 街路樹生長量追跡調査	175
7.	公園緑地行政をとりまく情勢の推移 一年表形式で	179
8.	外国都市との交換種苗	191
□ 資 料		
1.	都内の花の見所	217
2.	花言葉一覧	219
3.	園芸愛好普及団体一覧	223
4.	造園関係団体・組織・出版物一覧	226
	(1) 団体・組織	226
	(2) 出版物	230
5.	都立公園・霊園・動物園樹木現況調書	232
6.	都立公園分類別植栽地率調査	237
7.	昭和57年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	239
8.	昭和57年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	239
9.	東京気象表(抜粋)	241

その13＜昭和59年度＞

1.	松くい虫の生態とその防除	1
2.	水元公園はなしょうぶ調査報告	14

3.	街路樹定点観測報告	35
4.	植栽樹木枯損状況調査	50
5.	六義園生態調査	75
6.	井の頭恩賜公園生態調査	136
7.	都政モニターアンケート 「身近な緑」より	215
8.	東京都の花「そめいよしの」に正式決定	228
9.	東京・北京友好都市提携5周年記念植樹	232
10.	緑の倍増計画と公園整備事業	239
□ 資 料		
1.	緑の相談所利用状況	245
2.	東京都の道路緑化状況	249
3.	都立公園分類別植栽地率調書	255
4.	昭和58年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	257
5.	昭和58年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	259
6.	東京気象表(抜粋)	260

その14＜昭和60年度＞

1.	バードサンクチュアリの造成にあたって —光が丘公園での経験より—	1
2.	雑草管理と除草剤の概要	36
3.	街路樹関係苦情陳情調査	50
4.	ピックアップレーションにより土壌改良について	60
5.	ユーカリ栽培の経緯(その1)	72
6.	東綾瀬公園生態調査	82
7.	陵南公園生態調査	106
8.	殿ヶ谷戸公園生態調査	125
9.	浅間山公園自然環境調査	144
10.	緑化の普及、啓発事業	175
	(1) 全国都市緑化フェア	175
	(2) 都民グリーンフェスティバル'85	177
	(3) ガーデンシティ多摩'85	177
	(4) 第5回ふるさと東京まつり	178
	(5) 都市緑化月間の緑化普及行事	178
	(6) 都立公園ガイドの作成	181
11.	国際交流事業	184
	(1) 北京市人民代表大会友好代表团による 記念植樹(第3回)……	184
	(2) カウラ日本庭園造成	186
□ 資 料		
1.	緑の相談所利用状況	193
2.	東京都の道路緑化状況	195
3.	都立公園分類別植栽地率調書	201
4.	昭和59年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	203
5.	昭和59年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	205
6.	東京気象表(抜粋)	207
7.	公園別・樹種別樹木現況	208
8.	過去10年間・植栽樹木上位4種一覧表	211

その15＜昭和61年度＞

1.	公園システム管理・維持管理資料整備編 —多摩ニュータウンの事例より—	1
2.	伊豆大島におけるオオシマツツジの保全	31
3.	緑の相談所の新しい動き	39
	(1) 映像による植物図鑑の導入	39
	(2) 戸山公園緑の相談室開室 —展示について—	42
4.	農薬の概要と病虫害防除	48
5.	緑化道路整備事業 植栽樹種調査	58
6.	街路樹剪定手法の一提案(リフト車使用)	64

7.	ユーカリ栽培の経緯(その2) 一鉢植栽培一	68
8.	コンポストの施用効果と安全性調査	75
9.	芦花公園自然環境調査	90
10.	代々木公園生態調査	120
11.	緑化及び公園事業の普及啓発	164
	(1) グリーンマップ発行	164
	(2) 街路樹マップ発行	166
	(3) 緑の公園フェスティバル'86実施	167
	(4) 海のふるさと村開村記念式	168
	(5) 自然公園の普及事業	170
	(6) 各種グリーンフェア参加	174
	(7) アンケート「好きな公園・樹・草花」の 実施結果について	180
12.	国際交流事業	183
	(1) ニューヨークへハス寄贈	183
	(2) パリへ石燈籠を寄贈	184
	(3) カウラ日本庭園完成	192
□	資 料	
1.	緑の相談所利用状況	197
2.	東京都の道路緑化状況	199
3.	都立公園分類別植栽地率調査	205
4.	昭和60年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	207
5.	昭和60年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	209
6.	昭和61年東京気象表(抜粋)	210

その16＜昭和62年度＞

1.	東京都におけるケヤキの活力度調査について	1
2.	海のふるさと村(大島公園)植物園整備について	7
3.	公園のリーフレットの作り方	17
4.	街路樹 緑視率調査報告	29
5.	野川公園自然観察会の記録	38
6.	水元公園緑の相談所開設	51
7.	緑の図書室解説	58
8.	絶滅に瀕する小笠原固有種の育成・ 増殖・植生復元について	66
9.	花壇施工の実例について	70
10.	ユーカリ栽培の経緯(その3)	78
11.	浜離宮庭園自然環境調査	96
12.	向島百花園自然環境調査	121
13.	猿江公園生態調査	153
14.	清澄庭園生態調査	165
15.	芦花垣春園生態調査	179
16.	洗足公園生態調査	193
17.	野川公園生態調査	205
18.	善福寺公園生態調査	222
19.	'87緑の倍增計画と公園整備事業	241
20.	緑化及び公園事業の普及啓発	249
	(1) グリーンマップの作成発行	249
	(2) 小笠原ビジターセンター開設	251
	(3) 各種グリーンフェアへの参加	252
□	資 料	
1.	緑の相談所利用状況	259
2.	東京都の道路緑化状況	265
3.	東京都内街路樹等管理者別数量調査	274
4.	都立公園・都道内の花木植栽状況一覧表	275
5.	昭和61年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	276
6.	昭和61年度都営苗圃・委託育成苗木払出本数一覧表	278

その17＜昭和63年度＞

第1部	技術調査編	
1.	目黒公園自然環境調査	1
2.	赤塚公園自然環境調査	32
3.	目黒公園生態調査	48
4.	芝公園生態調査	74
5.	台場公園生態調査	94
6.	井の頭自然文化園生態調査	109
7.	丘陵地公園の植生管理について	122
8.	樹木生長量調査	131
9.	ユーカリ栽培の経緯(その4)	150
10.	ユーカリの病虫害防除試験について	160
11.	親緑施設のデザインについて	169
12.	文化財庭園の保存・復原・並びに 管理等に関する調査	178
13.	光が丘のイチョウについて	194
14.	街路樹(エゾノ)病害調査報告	206
15.	まちかど庭園の整備	216
第2部	管理運営報告編	
1.	夢の島熱帯植物館の開館	220
2.	東京都緑の図書室活動報告	238
3.	海のふるさと村(大島公園)椿資料館の開館	245
4.	高尾ビジターセンターの自然教室	253
5.	東アフリカ、タンザニア国造園技術 研究員を受け入れて	263
6.	ミラノトリエンナーレ(ミラノ国際博覧会)への出展について	271
第3部	資料編	
1.	緑の相談所の利用状況	283
2.	東京都の道路緑化状況	283
3.	昭和62年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	285
4.	昭和63年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	287
5.	昭和63年度都立公園の設計使用樹種上位10種	289

その18＜平成2年度＞

第1部	技術調査編	
1.	絶滅に瀕する小笠原固有植物の育成・ 増殖研究について	5
2.	東大和公園自然環境調査	39
3.	砧公園自然環境調査	81
4.	砧公園生態調査	110
5.	篠崎公園生態調査	120
6.	向島百花園の植栽について	140
7.	樹木生長量調査	145
8.	「道路のみどり」からとらえた東京の地域特性	173
9.	都立公園の維持管理計画について	182
第2部	運営報告編	
1.	奥多摩自然公園管理センター (奥多摩ビジターセンター)の運営について	197
2.	水元公園緑の相談所の運営について	213
3.	国際花と緑の博覧会東京都出展について	224
第3部	資料編	
1.	平成元年度 東京都・緑の相談所 相談実績	237
2.	東京都の道路緑化状況	238
3.	平成元年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	251
4.	苗圃配置図と栽培実績	253

その19＜平成3年度＞

□	技術調査編	
	公園管理と農業	1

東京都の公園のあり方に関するアンケート調査について	26
樹木(街路樹)の土木からの検証例の紹介	68
平成2年度生態調査の概要	
―東白鬚公園、日比谷公園、城北中央公園―	81
□ 管理運営報告編	
日比谷グリーンサロン(日比谷公園緑の相談所)の運営から	172
街路樹維持管理のOA化について	190
公園管理受託5年を経過して	
―施設維持管理について―	200
□ 資料編	
1. 緑の相談所活動実績(平成2年度)	223
2. 東京都の道路緑化状況(平成2年度)	224
3. 平成2年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	238
4. 平成2年度都立公園の設計使用樹種上位10種	240
5. 過去5年間の委託調査一覧	241
6. 東京都の緑化行政組織一覧	251
7. 都市緑化施設年表	252
8. 都市公園利用実態調査実績一覧	254
9. 都市公園の巨木一覧	255
10. 造園緑化団体一覧	257
11. 都市公園別植栽地率	258
12. バックナンバーの目次	259

その20＜平成4年度＞

1 技術調査編	
・公園緑地の都市の熱汚染抑制効果について	1
・水元公園水辺ゾーンにおける水質改善事例	21
・「姉妹・友好都市との街路樹交換に関する調査」について	33
・平成3年度生態調査の概要	
―石神井公園・狹山公園・蘆花垣春園・亀井戸中央公園―	47
・平成3年度自然環境調査の概要 ―光が丘公園―	84
2 管理運営報告編	
・夢の島熱帯植物館 ―大温室の植物管理―	114
・八丈ビジュアルセンターの開設について	130
・東京都緑の公園フェスティバル'92	145
3 資料編(グリーンファイル)	
1. 緑の相談所活動実績(平成3年度)	159
2. 東京都の道路緑化状況(平成3年度)	166
3. 平成3年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	179
4. 過去4年間における都立公園の設計使用樹種上位10種 および過去5年間における都立公園植栽樹木の傾向	180
5. 過去6年間の委託調査一覧	184
6. 都市緑化施設年表	196
7. 都市公園利用実態調査実績一覧	198
8. 都市公園の巨木一覧	199
9. 東京都の天然記念物	201
10. 緑化地区位置図	204
11. 造園緑化関連団体一覧	205
12. 東京の樹木医リスト	207
13. 植物開花時期調査(神代植物公園記録)	208
14. バックナンバーの目次	217

その21＜平成5年度＞

1. 技術調査編	
●竹芝ふ頭公園の人工地盤上の植栽について	3
●浮間公園のガムバク・トンボ作成(ふれあい拠点整備)	19

● 平成4年度 生態調査の概要	
一和田堀公園、清澄庭園、旧芝離宮庭園、 水元公園、浮間公園—	38
● 平成4年度 自然環境調査の概要	
一桜ヶ丘公園、井の頭恩賜公園、林試の森公園—	81
II. 管理運営編	
● 浅間山のマシノキスガの保護	125
● 丘陵地公園の市民参加型植生管理	
一都立桜ヶ丘公園雑木林ボランティア活動—	133
● 緑のフェスティバル '93	146
<国際交流事業>	
● 「東京カレド友好提携記念」日本庭園(東京庭園)の 造成と寄贈	155
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成4年度)	
(1) 相談件数等	171
(2) 講習会	172
2. 東京都の道路緑化状況(平成4年度)	174
3. 平成4年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	184
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (低・中・高木別)	185
5. 都市公園利用実態調査実績一覧	187
6. 都立公園緑化施策年表	
(1) 国	188
(2) 東京都	189
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別)	190
8. 緑化に関する調査報告(その1～その20)に掲載された 報告等一覧(項目別)	196
9. 東京都の天然記念物	205
10. 都市公園の巨木一覧	208
11. 緑化地区位置図	209
12. 造園関連団体一覧	210
13. バックナンバーの目次	212

その22 <平成6年度>

I. 技術調査編	
● 都市における緑の効用機能の解明	1
● 都市公園における「水辺の再生」について	11
● 親緑施設のデザインについて	32
● 平成4年度 生態調査の概要	
一戸山公園箱根山地区、戸山公園大久保地区、 上野恩賜公園—	42
II. 管理運営報告編	
一公園施設の夜間利用について—	
① 葛西臨海水族園「微塵子博覧会」の開催	77
② 「夜咲く花の鑑賞会」の実施について	82
● 公園で活動するボランティアについて	88
● 山のふるさと村クラブセンター建設について	97
● 東京都緑の公園フェスティバル '94	106
● 「日比谷公園とわたし展」の企画と実施について	116
<都区交流事業>	
● 平成6年度都市緑化連絡会活動について	127
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成5年度)	137
2. 東京都の道路緑化状況(平成5年度)	138
3. 平成5年度都立公園・霊園・動物園植栽本数一覧表	145
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (低・中・高木別)	146

5. 花の見ごろ情報リスト	147
6. 都立公園緑化施策年表	
(1) 国	149
(2) 東京都	150
7. 過去7年間の委託調査一覧(公園別)	151
9. 東京都の天然記念物	157
10. 都市公園の巨木一覧	160
11. 緑化地区位置図	161
12. 造園関連団体一覧	162
13. バックナンバーの目次	164

その23 <平成7年度>

I. 技術調査編	
1. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落の復元	1
2. 阪神・淡路大震災における公園・緑化の状況について	13
3. 長沼公園雑木林調査	24
4. 浜離宮庭園におけるカワウの生息状況	33
5. 平成6年度 生態調査の概要	
—浜離宮庭園、向島百花園—	48
6. 平成6年度 自然環境調査の概要 —第六台場—	94
II. 管理運営報告編	
1. 石神井公園におけるヤブヅクの立曳きについて	113
2. 苗圃の変遷	122
3. 外国都市との交換種苗	129
4. 東京都緑の公園フェスティバル '95	138
III. 資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成6年度)	149
2. 東京都の道路緑化状況(平成6年度)	152
3. 平成6年度都立公園等植栽本数一覧表	160
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹種上位10位 (高・中・低木別)	162
5. 花の見ごろ情報リスト	163
6. 緑化施策年表	164
7. 東京都の天然記念物	166
8. 都市公園の巨木一覧	169
9. 緑化地区位置図	171
10. ボランティア一覧	172
11. 造園関連団体一覧	173
12. バックナンバーの目次	175

その24 <平成8年度>

I. 技術調査編	
特集: 東京の里山	
1. 東京の里山	1
2. 桜ヶ丘公園萌芽更新区域植物調査の概要	8
3. 平成7年度 小宮公園雑木林調査委託の概要	18
4. 保全地域における雑木林萌芽更新調査	28
5. 新たな谷戸管理手法の確立	50
6. 本紙掲載の里山関連文献	63
調査報告文	
1. 都市公園の水辺環境調査について	64
2. 平成7年度 街路樹樹勢調査の概要	89
3. 街路樹(ケヤ)の育成管理調査について	104
4. 平成7年度 自然環境調査の概要 —長沼公園—	114
II. 管理運営報告編	
1. 街の植樹祭の歩み	141
2. 東京都緑の公園フェスティバル '96	149
3. 平成7年度 都市緑化連絡会活動について	160
III. 資料編(グリーン・ファイル)	

1. 緑の相談所 活動実績(平成7年度)	177
2. 緑の相談所 相談内容の調査について	181
3. 東京都の道路緑化状況(平成7年度)	190
4. 平成7年度都立公園等植栽本数一覧表	198
5. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	200
6. 平成8年度花の見ごろ情報年間リスト	201
7. 緑化施策年表	202
8. 東京都の天然記念物	204
9. 都市公園の巨木一覧	207
10. 緑化地区位置図	209
11. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	210
12. 造園関連団体一覧	211
13. バックナンバーの目次	213

その25＜平成9年度＞

I. 25周年記念特集	
1. 都市緑化の変遷25年	1
2. 発刊から25周年を迎えて	7
II. 技術調査編	
1. 平成8年度 緑の基礎調査の概要 一芝公園、水元公園一	27
2. 環境緑地帯調査	86
3. 新しい都市型緑化植物の選定と低コスト生産技術の開発	138
III. 管理運営報告編	
1. 「花の名所づくり」事業について	169
2. 東京都緑の公園フェスティバル'97	180
3. 平成8年度都市緑化連絡会活動について	194
4. 都営苗圃の再編計画について	208
5. 「緑の相談所ネットワーク」の改正について	216
6. 5年目を迎えた花の見ごろ情報について	220
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成8年度)	225
2. 東京都の道路緑化状況(平成7年度)	229
3. 平成8年度都立公園等植栽本数一覧表	237
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	239
5. 平成9年度花の見ごろ情報年間リスト	240
6. 緑化施策年表	241
7. 東京都の天然記念物	243
8. 都立公園の巨木一覧	246
9. 緑化地区位置図	248
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	249
11. 造園関連団体一覧	250
12. バックナンバーの目次	252

その26＜平成10年度＞

I. 緑化行政の変遷25年をふまえての実例	
1. 地域の声を活かした多自然型川づくり	1
2. 「花の名所づくり」 一亀戸中央公園・代々木公園一	9
II. 技術調査編	
1. 平成9年度 緑の基礎調査の概要 一善福寺川緑地、東大和公園、 浜離宮恩賜庭園・旧芝離宮恩賜庭園・清澄庭園一	23
2. 街路樹診断マニュアル	81
3. 神代植物公園水生植物園の管理と生物	123
4. 公園管理と『環境ホルモン』問題	147
5. 浄水場発生土加工土が緑化植物の生育に及ぼす影響	169

6. 土木技術研究所ニュース	175
III. 管理運営報告編	
1. 東京都緑の情報センターの開設について	177
2. 東京都緑の公園フェスティバル'98	188
3. 平成9年度都市緑化連絡会活動について	199
資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績(平成9年度)	215
2. 東京都の道路緑化状況(平成9年度)	219
3. 平成9年度都立公園等植栽本数一覧表	227
4. 過去5年間における都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	230
5. 平成10年度花の見ごろ情報年間リスト	231
6. 緑化施策年表	232
7. 東京都の天然記念物	234
8. 都立公園の巨木一覧	237
9. 緑化地区位置図	239
10. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	240
11. 造園関連団体一覧	241
12. バックナンバーの目次	243

その27<平成11年度>

I. 技術調査編	
1. 平成10年度 緑の基礎調査の概要 一葛西臨海公園、夢の島公園、浅間山公園、 井の頭恩賜公園一	1
2. 屋上等人口地盤緑化について	69
3. 都立公園の外国産樹木(交換樹木等)について	82
4. 土木技術研究所ニュース(その2)	112
5. 植栽実績調査の長期間集計の結果から	126
資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況(平成10年度)	131
2. 平成10年度都立公園等植栽本数一覧表	138
3. 過去5年間における都立公園等の設計使用樹上位10位 (高・中・低木別)	141
4. 平成11年度花の見ごろ情報年間リスト	142
5. 東京都の天然記念物	143
6. 都立公園の巨木一覧	146
7. 緑化地区位置図	148
8. 都立公園等で活動するボランティア(公募)一覧	149
9. 造園関連団体一覧	150
10. バックナンバーの目次	152

その28<平成12年度>

I. 特集『都民参加の緑づくりの実践』	
1. 「22世紀の都市の森づくり」について	1
2. ボランティア団体「22世紀の森づくり・神代」報告	19
3. 都民による公園づくり 一芦花公園花の丘友の会と木場公園友の 会の活動について一	23
4. 「東京構想2000」と「緑の東京計画」について 一都民、NPO等との協働に注目して一	44
II. 技術調査編	
1. 平成11年度 緑の基礎調査の概要 一六義園、小石川後樂園、旧古河庭園一	57
2. 平成11年度 緑の基礎調査の概要 一秋留台公園一	80
3. 平成11年度 緑の保全回復調査の概要 一殿ヶ谷戸庭園一	94
4. 都立自然公園に生息するオオタカの保護の取り組み	

～羽村草花自然公園大澄山園地に生息する オオタカの保護計画～	108
5. 水元公園権八池水生植物回復調査委託	123
6. 農場試験場報告	142
7. 土木技術研究所ニュース	148
Ⅲ. 管理運営報告編	
1. 緑の情報センター及び緑の相談所の事業終了について	153
2. 「緑と水」の市民カレッジ開校	158
3. 平成10年度・11年度都市緑化連絡会について	161
資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 緑の相談所 活動実績	165
2. 東京の道路緑化状況	172
3. 平成11年度 都立公園等植栽本数一覧表	179
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10種	182
5. 平成12年度 花の見ごろ情報年間リスト	183

その29＜平成13年度＞

Ⅰ. 技術調査編	
1. 平成12年度 緑の基礎調査の概要	
一日比谷公園一	1
2. 平成12年度 緑の基礎調査の概要	
一井の頭恩賜公園一	15
3. 平成12年度 緑の保全回復調査の概要	
一東大和公園一	26
4. 三宅島における緑の回復に関わる基礎調査	38
5. 野山北・六道山公園における樹林地更新について	55
6. 屋上緑化植栽と維持管理技術について	67
7. 土木技術研究所ニュース	79
8. 三宅島2000年噴火火山灰の植生回復への影響	91
Ⅱ. 管理運営報告編	
1. 平成12年度 都市緑化連絡会活動について	99
資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 平成12年度 委託調査一覧表	103
2. 東京都の道路緑化状況	105
3. 平成12年度 都立公園等植栽本数一覧表	111
4. 過去5年間に於ける都立公園等の設計使用樹上位10種	114
5. 平成13年度 花の見ごろ情報年間リスト	115
6. 公園別樹木本数	116
7. 公園別主要樹木一覧	118

その30＜平成14年度＞

Ⅰ. 技術調査編	
1. 平成13年度 緑の基礎調査の概要	
一代々木公園、旧岩崎邸庭園一	1
2. 平成13年度 緑の保全回復調査の概要	
一六義園ほか2庭園緑の回復工事一	20
3. 自然環境調査の概要	
一平成12年度・平成13年度 代々木公園一	32
4. 水元公園権八池水生植物調査	46
5. 壁面緑化について	61
6. 土木技術研究所ニュース	
一ヒートアイランド対策と三宅島緑化一	72
Ⅱ. 管理運営報告編	
1. 平成13年度 緑の情報連絡会	
(旧都市緑化連絡会) 活動について	89
2. 東京都民緑地について	
一祖師谷公園成城九丁目市民緑地、 小山田緑地梅木窪市民緑地一	92
3. 「小金井公園桜守ボランティア」について	100

4. 公園ボランティア登録「小金井公園桜守の会」報告	105
資料編(ケ・リン・ファイル)	

1. 平成13年度 委託調査一覧	109
2. 東京の道路緑化状況	111
3. 平成13年度 都立公園等植栽本数一覧表	117
4. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	120
5. 平成14年度 花の見ごろ情報年間リスト	121
6. 公園別樹木本数一覧	122
7. 公園別主要樹木一覧	124

その3 1 <平成15年度>

I. 特集「みどりの活性化」	
1. 都立庭園でのライトアップの実施	1
2. 水元公園「大自然塾」の取り組み	6
II. 技術調査編	
1. 平成14年度 緑の基礎調査の概要 —光が丘公園—	17
2. 石神井公園 三宝寺池植物群落復元追跡調査 —水辺の再生事業—	32
3. 上野恩賜公園 不忍池における水浄化実験	43
4. 野山北・六道山公園 自然環境調査報告	55
5. 道路緑化「新樹種プロジェクト」の取組みについて	65
6. 壁面緑化の普及に向けて	74
7. 土木技術研究所ニュース —三宅島の緑化に関する調査及び報告—	85
III. 管理運営報告編	
1. 平成14年度 緑の情報連絡会活動について	97

資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 東京の道路緑化状況	101
2. 平成14年度 都立公園等植栽本数一覧表	107
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	110
4. 公園別樹木本数一覧	111
5. 公園別主要樹木一覧	113
6. 平成15年度 花の見ごろ情報年間リスト	115
7. 緑の基礎調査関連 実績表	116

その3 2 <平成16年度>

I. 技術調査編	
1. 平成15年度 緑の基礎調査の概要 —谷中霊園ほか2霊園樹木等調査の概要—	1
2. 街路樹の樹種選定について —樹種選定樹木リスト【主要45種】の策定—	20
3. 街路樹樹種選定樹木リスト【主要45種】の各樹種について...	37
4. 行幸通りイチョウ並木の樹勢回復	48
5. 小山内裏公園動植物調査	64
6. 街路樹の緑陰効果の検証(中間報告)	78
7. 無灌水を指向した屋上緑化システムの熱特性と降雨貯留特性	90
8. マット植物の開発について	104
II. 管理運営報告編	
1. 平成15年度 緑の情報連絡会活動について	111
2. コアラ飼育20年、ユーカリ栽培21年	116

資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 東京の道路緑化状況	121
2. 平成15年度 都立公園等植栽本数一覧表	127
3. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	130
4. 委託調査一覧(平成14・15年度)	131
5. 平成16年度 花の見ごろ情報年間リスト	135

その3 3 <平成17年度>

I. 技術調査編	
1. 平成16年度 井の頭恩賜公園湧水調査報告(概要)	1
2. 街路樹の路線別日標樹形「街路樹よくなるシート」の活用について	17
3. 壁面緑化の効果測定	25
4. 地表の温度変化を通してみた街路樹の緑陰効果	41
5. 護岸緑化による護岸温度変化	56
II. 管理運営報告編	
1. 夢の島熱帯植物館のこれまでを振り返って	69
2. 野山北・六道山公園に於ける都民協働	84
3. 平成16年度 緑の情報連絡会活動について	100
4. 平成16年度 都市公園利用実態調査の報告	106
資料編(ｸﾞﾘｰﾝ・ﾌｧｲﾙ)	
1. 東京都の道路緑化状況	119
2. 平成16年度 都立公園等植栽本数一覧表	125
3. 過去5年間に於ける都立公園の設計使用樹上位10種	128
4. 委託調査一覧(平成16年度)	129
5. 平成17年度 花の見ごろ情報年間リスト	131

その34＜平成18年度＞

I. 技術調査編	
1. 元気な樹木づくりの手引き(樹木診断編)の作成について	1
2. 宿根草品目・品種の耐光性と耐暑性に関する評価	6
3. 外気温の変化を通してみた街路樹の緑陰効果	15
4. 夏期暑熱期における河川周辺の外気と河川沿いの緑地帯の温度変化	30
II. 管理運営報告編	
1. 平成17年度 都市公園利用者満足度調査報告(概要)	47
2. 平成17年度 緑の情報連絡会 活動報告	75
3. 平成17年度 都市公園利用実態調査の報告	78
資料編(ｸﾞﾘｰﾝ・ﾌｧｲﾙ)	
1. 東京都の道路緑化状況	97
2. 平成17年度 都立公園等植栽本数一覧表	103
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	106
4. 委託調査一覧(平成17年度)	107
5. 平成18年度 花の見ごろ情報年間リスト	109

その35＜平成19年度＞

I. 技術調査編	
1. よりよい屋上緑化のための土選び	1
II. 管理運営報告編	
1. 水元大自然クラブの活動について ～大自然塾5年間の実績と修了生の活動について	11
2. 都立公園における借地公園事業について	17
3. 西部公園管内における民有地の借地公園事業について	27
4. 野山北・六道山公園保全・活用計画について	32
5. 平成18年度 緑の情報連絡会 活動報告	69
6. 平成18年度 都市公園利用実態調査の報告	71
資料編(ｸﾞﾘｰﾝ・ﾌｧｲﾙ)	
1. 東京都の道路緑化状況	93
2. 平成18年度 都立公園等植栽本数一覧表	99
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	102
4. 委託調査一覧(平成18年度)	103
5. 平成19年度 花の見ごろ情報年間リスト	105
6. バックナンバー目次(その1～その34)	106
7. 平成18年度 都立公園における都民協働団体一覧表	107

その36＜平成20年度＞

I. 技術調査編	
----------	--

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	85
2. 平成19年度 都立公園等植栽本数一覧表	91
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	94
4. 委託調査一覧(平成19年度)	95
5. 平成20年度 花の見ごろ情報年間リスト	97
6. バックナンバー目次 (その1～その35)	98
7. 平成19年度 都立公園における都民協働団体一覧表	100

その37＜平成21年度＞

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況	75
2. 平成20年度 都立公園等植栽本数一覧表	81
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	84
4. 委託調査一覧(平成20年度)	85
5. 平成21年度 花の見ごろ情報年間リスト	87
6. バックナンバー目次(その1～その36)	88
7. 平成20年度 都立公園における都民協働団体一覧表	96

その38＜平成22年度＞

モスクワ市寄贈について	30
4. 平成21年度 緑の情報連絡会活動について	45
5. 駒沢オリンピック公園の記念樹〜パットと宇宙ケヤキ〜	47
資料編(グリーン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	53
2. 平成21年度 都立公園等植栽本数一覧表	60

3. 過去5年間ににおける都立公園等の使用樹種上位10種	63
4. 委託調査一覧(平成21年度)	64
5. 平成22年度 花の見ごろ情報年間リスト	66
6. バックナンバー目次 (その1～その37)	67
7. 平成21年度 都立公園における都民協働団体一覧表	75

その39＜平成23年度＞

I. 技術調査編	
1. 東村山中央公園・狭山公園の樹木調査の報告	1
2. 井の頭恩賜公園の森づくりについて	16
3. 公園等のマツ枯れ防除に向けた取組	24
4. 街路樹用樹木の根圏と管理特性に及ぼす根域制限の影響	32
II. 管理運営報告編	
1. 野山北・六道山公園における都民協働について (大自然塾総括)	51
2. 平成21、22年度 都市公園利用実態調査の報告	60
3. 樹木点検員養成研修の実施と樹木点検員認定について	75
4. 平成22年度 緑の情報連絡会活動について	83
資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	85
2. 平成22年度 都立公園等植栽本数一覧表	92
3. 過去5年間ににおける都立公園等の使用樹種上位10種	95
4. 委託調査一覧(平成22年度)	96
5. 平成23年度 花の見ごろ情報年間リスト	98
6. バックナンバー目次 (その1～その38)	99
7. 平成22年度 都立公園における都民協働団体一覧表	107

その40＜平成24年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 神代植物公園植物多様性センターの開設について	1
2. 神代植物公園植物多様性センターの整備について	16
3. 石神井公園三宝寺池沼沢植物群落保護復元事業 ～順応的管理による水辺の再生事業～	27
II. 管理運営報告編	
1. 都立公園等における生物多様性保全への取り組み	37
2. 都立公園がつなぐ「生物多様性」	45
3. 夢の島公園の樹林地管理について	58
4. 水元公園・原風景づくりを牽引する直営作業	65
5. 神代植物公園開園50周年記念事業について	71
6. ショクダイオオコンニャクの開花について	82
7. 平成23年度 都市公園利用実態調査の報告	96
8. 平成23年度 緑の情報連絡会活動について	103
資料編(ケ・リン・ファイル)	
1. 東京都の道路緑化状況	107
2. 平成23年度 都立公園等植栽本数一覧表	114
3. 過去5年間ににおける都立公園等の使用樹種上位10種	117
4. 委託調査一覧(平成23年度)	118
5. 平成24年度 花の見ごろ情報年間リスト	120
6. バックナンバー目次 (その1～その39)	121
7. 平成23年度 都立公園における都民協働団体一覧表	129

その41＜平成25年度＞

I. 特集「第29回全国都市緑化フェアTOKYO」	
1. 第29回全国都市緑化フェアTOKYOの開催概要について	1
2. 緑化フェアの総務的業務を振り返って	8
3. 緑化フェアの広報協賛業務を振り返って	14
4. 緑化フェア上野恩賜公園会場「不忍・緑・五景」 ～公園の魅力を伝えるアート～	17
5. 緑化フェア井の頭恩賜公園会場整備について	21
6. 緑化フェア日比谷公園・浜離宮恩賜庭園会場について	24

II. 技術調査・計画編	
1. 平成24年度小山田緑地自然環境調査について	29
2. 東村山中央公園における「生物多様性」への取組について	33
3. 小宮公園雑木林管理基礎調査—その経緯と展開—	44
III. 管理運営報告編	
1. 米国寄贈のハナミズキについて	51
2. 大径木再生大作戦について	56
3. 野山北・六道山公園里山民家茅葺屋根の葺き替え	62
4. 神代植物公園植物多様性センター事業運営報告	66
5. 水元流・花菖蒲再生の取組について	75
6. よみがえったハート・サンチャリー〜代々木公園〜	81
7. 平成24年度 緑の情報連絡会活動について	84
資料編(ｸﾞﾘｰﾝ・ﾌｧｲﾙ)	
1. 東京都の道路緑化状況	87
2. 平成24年度 都立公園等植栽本数一覧表	94
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	97
4. 委託調査一覧(平成24年度)	98
5. 平成25年度 花の見ごろ情報年間リスト	100
6. バックナンバー目次 (その1〜その40)	101
7. 平成24年度 都立公園における都民協働団体一覧表	110

その42＜平成26年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 街路樹診断マニュアルの改訂について	1
2. 谷中霊園樹木立曳き移植について	10
3. 大戸緑地植生管理計画の策定について	19
4. 井の頭恩賜公園かいぼり25について	27
5. 高木間植栽に適した街路樹用樹木に関する研究	37
6. 街路樹ツツジ類のクロシスの実態とその改善対策	43
II. 管理運営編	
1. ふくしま⇄東京 桜の交流プロジェクト	49
2. 狭山丘陵における広域連携プロジェクト	55
3. 大泉中央公園ちやうの里再生事業	65
4. 平成25年度 神代植物公園植物多様性センターの取組	72
5. 平成25年度 緑の情報連絡会 活動報告	78
資料編(ｸﾞﾘｰﾝ・ﾌｧｲﾙ)	
1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)	81
2. 平成25年度 都立公園等植栽本数一覧表	88
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	91
4. 委託調査一覧(平成25年度)	92
5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト	94
6. バックナンバー目次 (その1〜その41)	95

その43＜平成27年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 石神井公園生物多様性保全管理計画策定の報告	1
2. 東大和公園生物多様性保全利用計画の策定について	9
3. 東京都保全地域における「保全活動ガイドライン」の策定	16
4. 街路樹根系強度調査	27
5. 神代植物公園所蔵「韻勝園梅譜」(模写帖)について	34
6. 可搬式緑化コンテナによる夏季の暑熱対策	40
II. 管理運営編	
1. ショクダイオオコンニャクの開花について	45
2. 身近な自然体験の場・「いきもの広場」	49
3. かいぼりイベントにおけるボランティアの参加状況	59
4. 平成26年度 神代植物公園植物多様性センターの取組	67
5. 平成26年度 緑の情報連絡会 活動報告について	73
資料編(ｸﾞﾘｰﾝ・ﾌｧｲﾙ)	

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	75
2. 平成26年度 都立公園等植栽本数一覧表	82
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	85
4. 委託調査一覧（平成26年度）	86
5. 平成27年度 花の見ごろ情報年間リスト	88
6. バックナンバー目次（その1～その42）	89

その44＜平成28年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. よみがえる!!イノカシラフラスコモ！ 『水草再生ものがたり』	1
2. 危険な外来生物に関する東京都の取組について	11
3. 今春、初開花した2種の野生ランの無菌培養	17
4. 河川・海岸敷等の緑化に向けた樹種の選定	26
II. 管理運営編	
1. 都立公園ガイドサービスシステム構築の報告	31
2. 多摩地域の自然公園における植生の保護	38
3. 国際優秀つばき園登録へ向けた取り組みについて	46
4. ニューヨーク市への桜の寄贈について	51
5. 夏のおもてなしガーデントライアル2016について	61
6. 平成27年度 神代植物公園植物多様性センターの取組	69
7. 平成27年度 緑の情報連絡会 活動報告について	75

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	77
2. 平成27年度 都立公園等植栽本数一覧表	83
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	86
4. 委託調査一覧（平成27年度）	87
5. 平成28年度 花の見ごろ情報年間リスト	89
6. バックナンバー目次（その1～その43）	90

その45＜平成29年度＞

I. 技術調査・計画編	
1. 東京2020大会に向けた街路樹の樹冠拡大の取組	1
2. 旧浜離宮庭園「延遼館」の復元整備事業について	9
3. 「東京の自然公園ビジョン」の策定と展開	24
4. 日比谷公園つつじ山再生に向けた調査と展開について	33
5. 都立庭園を演出する冬の添景物「雪吊り」の庭園技能 伝承・・・	42
6. 夏季高温期に適応する苗もの花き品目の選定および 利用技術の開発	49
II. 管理運営編	
1. ニューヨーク市街路樹調査と街路樹マップ	59
2. 日本・チリ修好120周年チリマツ記念植樹式の実施	72
3. 人にも生きものにも優しい緑「江戸のみどり 登録緑地」募集中！	77
4. かいぼりで守り、取り戻す！溜め池の生物多様性	80
5. ヒナワチガイソウ保全活動に向けた生活史調査	88
6. 平成28年度 神代植物公園植物多様性センター年報	96
7. 平成28年度 緑の情報連絡会活動報告	104

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	107
2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表	113
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種	116
4. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト	117
5. 都立公園における都民協働団体一覧	118
6. バックナンバー目次（その1～その44）	122

その46＜平成30年度＞

I. 技術調査・計画編	
-------------	--

1. 伝統園芸植物の栽培・普及の取組	1
2. 街路樹向き緑化植物における防火機能の評価	23
3. ラン科植物の無菌培養技術向上と展示	31
4. 明治の森高雄国定公園指定50周年記念事業	37

II. 管理運営編

1. 都立・区立の公園・庭園におけるハナショウブ栽培管理の現状	41
2. 光が丘公園バーダサンクチュアリ池で行われた16年ぶりのかいぼり	52
3. 平成29年度夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告	71
4. 「都立浅間山公園保全管理ガイドライン」の策定と成果	81
5. 御陵の入口にふさわしい風格のある公園づくりを目指して	92
6. 地域の核となる公園へ！狭山公園80周年記念事業	101
7. 平成29年度 神代植物公園多様性センター年報	111
8. 平成29・30年度 緑の情報連絡会活動報告	122

資料編(ケリン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）	125
2. 平成26年度都立公園等植栽本数一覧表	131
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種	134
4. 委託調査一覧（平成28・29年度）	135
5. 平成26年度 花の見ごろ情報年間リスト	145
6. 都立公園における都民協働団体一覧	146
7. バックナンバー目次（その1～その45）	150

その47＜令和元年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 三宅島雄山の東京都版エコツーリズム導入
2. 多様な生物が生息する都立公園づくり事業について
3. ナラ枯れ被害対策の取組について
4. ハナショウブの観賞のポイントを紹介するリーフレットの作成
5. 向島百花園の胡枝花洞（ハギのトンネル）の修復について
6. 種子採取による生息域外保全の取組

II. 管理運営編

1. 令和元年台風第15号「令和元年房総半島台風」
・第19号「令和元年東日本台風」による被害について
2. 丘陵地公園の生き物保全から普及啓発まで
3. 平成30年度 神代植物公園植物多様性センター年報
4. 平成30年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
5. ヘルシーパークプロジェクト
～身近な公園を活用した健康づくり～
6. 公園を地域の環境教育拠点として最大限に活用
～都立小宮公園における取組み～
7. 里山公園における生物多様性向上の取り組み
8. 平成31年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(ケリン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
2. 平成30年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間に於ける都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧（平成30年度）
5. 平成31年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次（その1～その46）

その48＜令和2年度＞

I. 技術調査・計画編

1. 「街路樹診断等マニュアル」の改定について
Revision of Manual for Street Trees' Diagnosis
2. 民間企業との連携による緑化に関する取組について
3. 都立公園池水質改善事業における事業報告について

4. 高茎草地エリアの管理について
～『武蔵野のくさはら』の再現～
5. 狭山丘陵におけるナラ枯れ被害調査と対策について
6. 豊洲市場における屋上の試験植栽について

II. 管理運営編

1. 令和元年度 神代植物公園植物多様性センター年報
2. コロナ禍における公園利用実態の変化と公園管理者の取組み
3. 平成31年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
4. コロナ禍の都立大島小松川公園の管理運営と利用の実態
5. 令和2年度 緑の情報連絡会活動報告書

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)
2. 令和元年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧(令和元年度)
5. 令和2年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次(その1～その47)

その49<令和3年度>

I. 技術調査・計画編

1. 小笠原諸島聳島列島におけるネズミ駆除の効果
2. 都内におけるクビアカツヤカミキリの生態と対策の現状
チリ国立ビーニャ・デル・マル植物園へのサクラ種子の寄贈に
ついて
4. 公園・緑地管理におけるGISの活用
5. 都立公園の小面積皆伐によるナラ枯れ被害の回避

II. 管理運営編

1. 令和2年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報
2. 日常にスポーツを～むさしのヘルシーパークプロジェクト～
3. 令和2年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
4. 2021(令和3)年度都市部の公園・東部グループの管理運営と
利用の実態
5. 令和3年度 緑の情報連絡会活動について

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)
2. 令和2年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧(令和2年度)
5. 令和3年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次(その1～その48)

その50<令和4年度>

I. 技術調査・計画編

1. 井の頭恩賜公園浅場報告について
2. 猿江恩賜公園の生物多様性事業について
3. 生物多様性に配慮したみどりの質の向上のための手引

II. 管理運営編

1. 令和3年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報
2. 令和3年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
3. 地域とともに創る花と笑顔あふれる公園へ
～浮間公園に1万本のチューリップを！～
4. 光が丘公園バードサンクチュアリにおける生物多様性保全の取組みに
ついて
5. 小金井公園の裏方を楽しむ
6. 皆伐更新による雑木林管理
7. コミュニティガーデンのすすめ
8. 令和4年度 都立東綾瀬公園における花壇づくり等の取組

資料編(グリーン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況(計画課・道路緑化)

2. 令和3年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧（令和3年度）
5. 令和4年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. バックナンバー目次（その1～その50）

その51＜令和5年度＞

- I. 技術調査・計画編
 1. 多様な生物が生息する都立公園づくりの取組 進捗状況について
 2. 大戸緑地希少生物調査／大戸緑地希少猛禽類調査
 3. 自然公園におけるDX推進の取組
 4. 道路植樹帯における新しい低木候補樹種の特性評価

- II. 管理運営編
 1. 令和4年度 神代植物公園植物多様性センター事業年報
 2. 令和5年度 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告
 3. ナラ枯れによって都立公園の樹林はどのように変化したのか

資料編(ケ・リン・ファイル)

1. 東京都の道路緑化状況（計画課・道路緑化）
2. 令和4年度都立公園等植栽本数一覧表
3. 過去5年間における都立公園等の使用樹種上位10種
4. 委託調査一覧（令和4年度）
5. 令和5年度 花の見ごろ情報年間リスト
6. 都立公園における都民協働団体一覧
7. 東京都都市公園制度制定150周年記念事業によるヤマボウシ植樹先一覧表
8. バックナンバー目次（その1～その51）